

オリパラ基本推進調査
(中南米ホストタウン交流・連携推進調査)

成果報告書

株式会社ボール

令和2年3月

第1章 調査の概要	3
1. 調査の背景・目的	3
2. 実施内容	3
3. 調査事業実施スケジュール	7
第2章 調査対象事業の実施結果	8
1. 調査事業の概要	8
2. 各調査対象事業	12
3. 合同調印式の実施	62
4. 内閣官房主催の成果報告会議における成果報告	68
第3章 成果のとりまとめ	85
1. 調査結果の概要	85
2. 交流手法に対する評価と今後の課題	96
第4章 他ホストタウンへの普及・展開に向けた提案	99
1. 事業実施経費	99
2. 事業実施体制・フロー	100

第1章 調査の概要

1. 調査の背景・目的

中米地域は、カリブ海をはさみ東西の2地域に分けられる。一つがカリブ海東側の諸国により構成されるカリブ共同体（以下「カリコム」という）で、もう一つがカリブ海西側の諸国により構成される中米統合機構（以下「SICA」という）である。これに、両地域に属さない米領、英領等の国々が点在し、ホストタウンに登録されている国は2019年7月の時点で、全27カ国中12カ国、37%に留まる状況にあり、未登録国は15カ国・地域にのぼっていた。

これに、上記中米に属さない南米大陸国は9カ国中未登録国の3カ国を加えると、中南米では、18の国と地域が未登録の状況となり、今後、より一層、ホストタウン登録に向けた機運の醸成と様々な機会を通じた働きかけを行うなどして、その登録推進に向けた動きを加速化していく必要がある。

また、同時に、ホストタウンの取組を、両国間の文化、社会、経済の発展につなげる持続可能な交流へと結びつけていくためには、JICAなどの取組を通じて、中南米諸国と深い縁を持っている日本人や、国際交流員制度等を通じて日本に在留する中南米諸国の人々、さらには、ホストタウンの市民交流のハブ的な役割を担うであろう文化関係に携わる方々が有機的にホストタウンの取組に参加し、その輪を草の根的に広げていくことも必要である。

このため、本調査においては、具体的な交流事業を実施し、その効果検証を行いつつ、日本と中南米との間の持続可能な交流手法の在り方を検討するものである。

2. 実施内容

本調査は、内閣官房東京オリンピック・パラリンピック推進本部事務局（以下「主管事務局」という。）と協議の上、以下の事業を実施した。

（1）言葉の壁を乗り越え幅広い世代が参加可能な交流手法の企画・実施・分析

後述の（3）で選定された調査対象自治体において、ホストタウン相手国と言葉が通じなくとも容易に交流を深められる手法を企画・実施。

（2）日本と中南米の文化を融合させた交流推進事業の企画・実施・分析

日本と中南米との文化を融合した文化交流をモデル的に展開し、幅広い層に中南米文化と日本文化との融合の可能性、その良さを伝えることで、ホストタウン推進の機運を醸成し、ホストタウンに参加していない国や日本の自治体の関係者を刺激しホストタウン登録の推進につなげるとともに、既にホストタウン登録されている国や自治体にあっては、今後のホストタウン交流の持続的展開を後押しするものとして実施。交流推進事業は、東日本地域及び西日本地域において、各1事業ずつ企画・実施し、本事業の結果を踏まえ、持続可能な交流の

在り方を検討し取りまとめるものとした。

(3) ホストタウン自治体（小規模自治体）による交流モデル事業の実施・分析

主管事務局の公募により別途選定された小規模自治体（3自治体・3カ国以上の1グループ）が提案する事業を実施し、持続可能な交流事業の手法を調査分析した。

尚、当初予定の3自治体・3カ国の事業経費が予算の半分程度になることから、主管事務局において交流モデル事業の実施者の追加募集を行い、2自治体・2カ国以上のグループを対象に事業実施者を広く公募し、2自治体・2カ国の交流モデル事業を実施する計画で進めていたが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により実施直前に中止となった。

なお、各調査の実施にあたっては、以下の点に留意して計画・実施した。

- ① 老若男女幅広い世代が有機的に交流を行うためには、言葉が通じなくとも容易に交流を深められる手法を見出し、持続可能でかつ幅の広い交流を実現していくことが重要。
- ② ホストタウンの登録をより一層推進するためには、日本と中南米との文化を融合した交流事業をモデル的に展開し、多くの層にその良さを伝えることが重要。
- ③ ホストタウンの取組を、両国間の文化、社会、経済の発展につなげる持続可能な交流へと結びつけていくためには、在日中南米諸国出身者や JICA 等でカリブ地域に派遣されていた方を始めたとした幅広いステークホルダーを掘り起こし、それら人的資源を最大限活用することが重要。
- ④ さらに、その人的資源に加え、ホストタウンの市民交流のハブ的な役割を担うであろう文化関係に携わる方々が有機的にホストタウンの取組に参加し、その輪を草の根的に広げていくことが必要であり、既存の野外イベントなどを活用するなどして、オリバラやホストタウンに関心のない層を巻き込むことが重要。
- ⑤ 組織委員会主催の選手団団長会議など、中南米諸国の関係者が来日する機会を最大限活用することで効果的な事業事例とすることが重要必要。
- ⑥ 所有施設に限られる小規模自治体が効果的に交流を行うためには、複数の自治体が連携して互いの良さを補完した取組を行い、そうした連携の形をモデル的に示していく事例とすることが重要。

(4) 内閣官房主催の成果報告会議における成果報告等

内閣官房が主催する成果報告会議において、ワークショップを開催し、今後の持続可能なホストタウン交流の在り方について議論しつつ、本事業全体の実施内容を報告する予定で準備を進めたが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、成果報告会議の開催は中止となった。

なお、成果報告会議にて展示予定だったパネルやダイジェスト映像等の制作は実施した。

(5) その他

上記（１）～（４）の事業実施にあたっては、以下の点に留意し実施した。

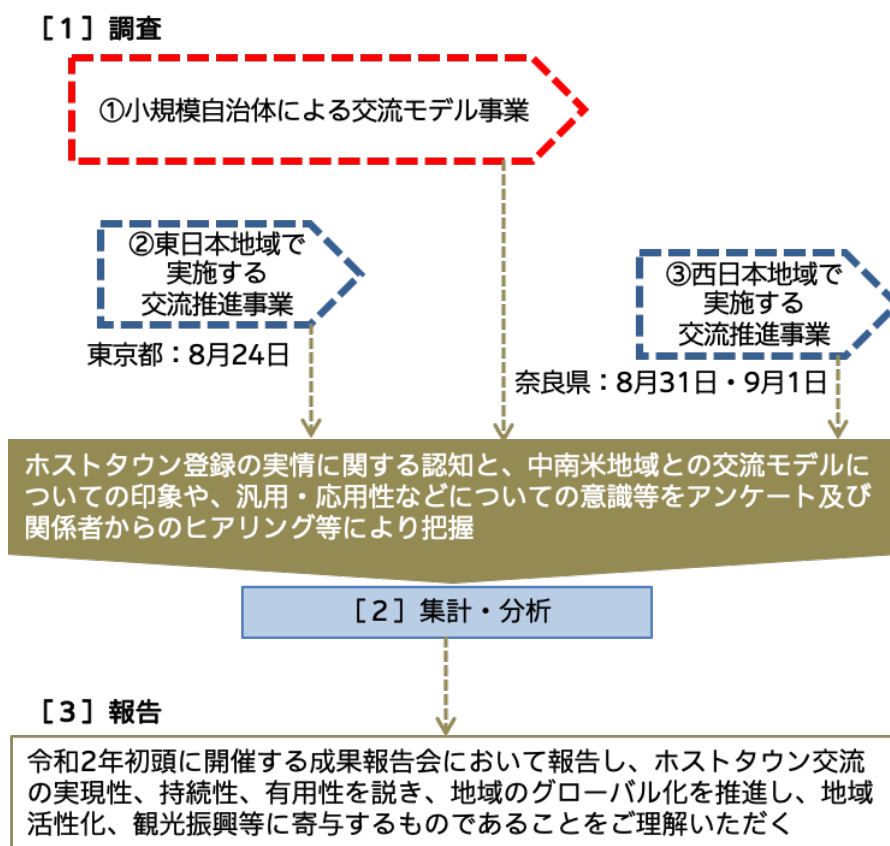
- １）各事業の実施にあたっては、ニュース化されて情報発信されるような内容とした。

- 2) ホストタウンとなる自治体や国々の情報も発信できるよう、合同調印式の開催を上記プログラムに組み込むなどして、その様子がマスメディアを通じて発信できるような取組とした。
- 3) 具体的な交流事業を企画実施しその効果検証を行いつつ、日本と中南米両国間との間の持続可能な交流手法の在り方を調査検討することとした。

※アンケート調査

調査対象自治体及びホストタウン相手国の交流参加者に対し、実施した交流手法に関するアンケート調査を実施し、分析を行った。分析にあたっては、実施した交流手法の効果や課題の抽出を行い、多くの自治体で横展開可能な実施モデルとして取りまとめるものとした。また、調査時にヒアリングした自治体や地域の関係者等からの助言やコメントを集約して、具体的な課題解決策として取りまとめるものとした。

■調査全体フレーム



オリパラ基本推進調査（中南米ホストタウン交流・連携推進調査）調査票

1. 「ホストタウン」という言葉を知っていましたか？
はい・いいえ
2. あなたがお住まいの区市町村がホストタウン登録をしているか、していないか、ご存知ですか？
知っている・知らない
3. 外国との異文化交流では言葉の問題がハードルになりますが、本日、体験した交流スタイルについて、どのように感じましたか？ 下記より1つお選び下さい。
良かった・良くなかった・どちらともいえない
4. 本日、体験した中南米のホストタウン相手国との交流スタイルについて、良かったと思うこと、改善して欲しいと思うことがありましたら、お聞かせ下さい。
()
5. 中南米の国のイメージについて、交流をしたことで、印象は、どのように変わりましたか？ 下記より1つお選び下さい。
より好感を持てた・あまり好感を持てなかった・体験前と特に変わらない
6. 中南米の国との交流で、実施したら盛り上がると思うこと、実際にやってみたいことなどを、お聞かせ下さい。
()
7. あなたがお住まいの地域の文化・伝統行事と、中南米の文化とのコラボレーションについて、どのように考えますか？ 下記より1つお選び下さい。
交流できそう・交流できそうもない・よくわからない
8. 本日のイベントを体験して、あなたの町がホストタウンだった場合、ホストタウン交流に積極的に参加したいと思いますか。また、その理由をお聞かせください。
参加したい・参加したくない・どちらでもない
その理由 ()
9. 上の8で「参加したい」と回答した方はどのような参加を希望するか、「参加したくない」「どちらでもない」と回答した人はその理由をお聞かせください。
()
10. その他、海外の国や地域の人々と交流するなら、一緒にどんなことをしたら良いと思いますか？ 下記より1つお選び下さい。
音楽・演劇・スポーツ・料理・語学・ホームステイ・その他 ()

性 別	男 ・ 女	職 業	
年 代	10代・20代・30代・40代 50代・60代・70代以上	居住地	() 県 () 区 市 町 村

ご協力ありがとうございました。

3. 調査事業実施スケジュール

8月	22	木	合同調印式	都内		
	23	金				
	24	土	<午後> 与論ワークショップ	与論町	原宿表参道元氣じまん市	原宿
	25	日	<午後> 和泊・知名 合同ワークショップ	沖永良部島	原宿表参道元氣じまん市	原宿
	26	月	<午後> HT歓迎シンポジウム 音楽ワークショップ HT歓迎セレモニー	沖永良部島		
	27	火	<午前> 環境会議／島民交流	和泊町		
			<午後> 各町単独イベント	各町		
	28	水	<午前> 各町単独イベント	各町		
			<午後> 保育園訪問等 三国三町合同交流会	与論町		
	29	木	<午前> 島民交流	与論町		
	30	金				
	31	土			春日野音楽祭	奈良
9月	1	日			春日野音楽祭	奈良
	2	月				

※2月の予定は新型コロナ感染症拡大の影響により全て中止となった

2月	21	金			<午前> 小学生交流事業	小千谷市
					<午後> 中学生交流事業 歓迎交流会	
	22	土	<午後> 成果報告会・ワークショップ実演	都内	<午前> 高等学校吹奏楽部交流事業 スポーツ少年団(陸上競技)交流 事業	小千谷市
	23	日			<午後> 体験事業(気球試乗など)	
					※移動	
	24	月			<午前> 吹きガラス体験、施設見学等	松野町
					<午後> 国立公園滑床溪谷視察 交流会	
	25	火			<午前> 書道・茶道・絵手紙体験	松野町
					<午後> 松野西小学校訪問・音楽交流 四万十川リバースポーツ視察 歓迎会	

第2章 調査対象事業の実施結果

1. 調査事業の概要

(1) 言葉の壁を乗り越え幅広い世代が参加可能な交流手法の企画・開発・分析

交流手法① 『ボディパフォーマンスを中心とした演劇』



小規模自治体合同で行われるワークショップは、劇団スーパー・エキセントリック・シアターの監修指導により実施した。講師として参加する同劇団の白土直子氏は、長年、与論島において、地域言語の伝承を目的とした「方言劇」の演出に携わっており（文化庁助成事業）、その言語の壁を越えたコミュニケーション演出は、高い評価を得ている。

今回の交流プログラムは、小規模自治体の市民をホストとして行われるもので、団長会議出席のために来日する相手国の訪問団を交えたコラボレーションにより演じるものとした。

<WS 進行内容>

- ①ストレッチ体操～講師見本披露
- ②手拍子足拍子を全体でレッスン（アイコンタクトで手拍子、足拍子が一つの音になる過程を体験）
- ③3～4のグループに分かれてそれぞれに違うリズムを練習～全員で練習したリズムを合わせて練習
- ④楽器班と合わせて全体の曲を皆で演奏～一緒に息を合わせた演奏により一体感を感じていただくものとした。

[交流プログラム 1]

実施日程	令和元年8月24日（土）～8月26日（月）
実施場所（自治体）	鹿児島県 和泊町・知名町・与論町（3町）

(2) 日本と中南米の文化を融合させた交流推進事業の企画・実施・分析

交流手法② 『文化の多様性を包摂する音楽』



スティールパンによる、音楽と祭りの融合による非言語型交流プログラム

中南米地域を代表する楽器「スティールパン」は、当該地域におけるカーニバルなどの祭りに欠かすことのできない音楽として知られている。

本交流事業プログラムでは、日本の代表的な音楽祭として「原宿表参道元氣祭スーパーよさこい（東日本地域）」と「春日野音楽祭（西日本地域）」の2つの既存イベントの実行委員会との連携により、言葉に拠らない市民交流を実施。それぞれのイベントにおいて、来日するスティールパンバンド（UTT PAN PHOENIX）を軸に、よさこい祭りに参加する幅広い世代のお踊り子たち、また、音楽の都・奈良の市民音楽祭に参加する吹奏楽部所属大学生とのユース世代の国際交流などを実施、ホストタウン交流のモデルケースとして考察するものとした。

[交流プログラム 2]

実施日程	令和元年8月24日（土）・8月25日（日）
実施場所	東京都 渋谷区・代々木公園

[交流プログラム 3]

実施日程	令和元年8月31日（土）・9月1日（日）
実施場所	奈良県 奈良市（JR 奈良駅～春日大社御本殿周辺エリア）

(3) ホストタウン自治体（小規模自治体）による交流モデル事業の実施・分析

ホストタウン自治体で交流事業を行っていない自治体又はこれから登録予定の自治体を対象に交流モデル事業を実施し、持続可能な交流事業の手法を調査分析した。

対象とする自治体は、中南米地域を相手国とするホストタウン小規模自治体又はこれから登録予定の小規模自治体の中から、内閣官房の公募により別途選定された小規模自治体（3自治体・3カ国の1グループ）を本事業の実施自治体とした。

尚、追加して、2自治体・2カ国の交流モデル事業を実施する計画で進めていたが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により実施直前に中止となった。

[交流プログラム 4-1] 三町連携イベント 島内視察交流及び合同レセプション

実施日程	レセプション：令和元年8月28日(水) 島内視察：29日(木)
実施場所	レセプション【社会福祉センター】島内視察【百合が浜】

[交流プログラム 4-2] 三町連携イベント ハレルヤこども園訪問交流

実施日程	令和元年8月29日(木)
実施場所	与論町 ハレルヤこども園

[交流プログラム 4-3] 和泊町・知名町連携イベント 沖永良部島×カリブ二カ国環境会議

実施日程	令和元年8月27日(火)
実施場所	和泊町役場 多目的ホール

[交流プログラム 4-4] 和泊町単独イベント ビーチでの交流会

実施日程	令和元年8月28日(水)
実施場所	和泊町ワンジョービーチ

[交流プログラム 4-5] 知名町単独イベント グレナダ ミニライブ

実施日程	令和元年8月27日(火)
実施場所	知名町 エラブココ

[交流プログラム 4-6] 与論町単独イベント サッカー交流

実施日程	令和元年8月27日(火)
実施場所	与論町 ゆいランド

[交流プログラム 5] 小千谷市・松野町連携交流イベント

実施日程	令和2年2月20日(木)～2月26日(水) ※2月13日に中止決定
実施場所	新潟県小千谷市・愛媛県松野町

「2. 各調査対象事業」において、各交流プログラムの実施結果を記載する。なお、実施結果の記載にあたっては以下の項目についてそれぞれ記載する。

① 背景：

交流プログラム実施に至った背景やこれまでの活動実績について記載する。

② 事業内容：

各交流プログラムの実施内容について記載する。

③ 事業の効果：

事業実施により得られたアンケートの結果を取りまとめ、実施した交流手法の有効性、汎用性、効果等について記載する。

④ 課題：

今後、プロジェクトを実施するにあたっての課題について記載する。

次頁より、4つの交流プログラムの実施結果について報告する。

2. 各調査対象事業

〔交流プログラム 1 及び 4〕 鹿児島県 和泊町・知名町・与論町（3 町）プログラム

① 背景

2019 年 3 月に、知名町はグレナダと、和泊町はドミニカ国と、与論町はアンティグア・バーブーダと、それぞれカリブの国とホストタウン事業に関する覚書に調印した。

和泊町、知名町、与論町とカリブ 3 国ともに、海洋ゴミやサンゴ礁白化問題といった共通の課題を抱えており、3 町は東京からは距離もあり本来なら五輪・パラリンピックに接する機会も少ない中で、ホストタウン事業を通じて大会を身近に感じ、スポーツ教室や相手国の文化を学ぶ場を通して子どもたちの主体性や多様性への理解が浸透・拡散することが期待されている。

② 事業内容

〔1-1〕 与論町ワークショップ	
日 程	8 月 24 日（土）
会 場	与論町 砂美地来館
主 催	与論町
交流手法	ボディパフォーマンスを中心とした演劇
出演・指導	SET 関係者 7 名（白土直子＋講師 1 名＋補助者 5 名）
参加対象者	与論町町民 20 名 及び 保護者・関係者
実施内容 プログラム	<p>14 時 30 分 受付開始、着替えの必要な人は着替え</p> <p>15 時 00 分 ワークショップ開始</p> <p>手と足を使い、体をたたいたり、手拍子を打ったり、足を踏み鳴らしたりして、リズムを体で演奏。※TAP は足踏み。</p> <p>何班かに分かれて、違うリズムを練習。</p> <p>最後に与論、沖永良部の伝統音楽に合わせて仕上げ。</p> <p>17 時 00 分 終了</p>
来場者数 参加者数	与論町町民 及び 保護者・関係者 合計 20 名



＜オリエンテーションの様子＞



＜ダンス指導の様子＞

〔1-2〕和泊町・知名町ワークショップ	
日 程	8月25日（日）
会 場	和泊町 やすらぎ館
主 催	和泊町・知名町
交流手法	ボディパフォーマンスを中心とした演劇
出演・指導	SET 関係者 7 名（白土直子＋講師 1 名＋補助者 5 名）
参加対象者	和泊町 スポーツ少年団 14 名＋楽器奏者 3 名 知名町 エイサー愛好会 16 名＋楽器奏者 2 名 及び 保護者・関係者
実施内容 プログラム	14 時 30 分 受付開始、着替えの必要な人は着替え 15 時 00 分 ワークショップ開始 手と足を使い、体をたたいたり、手拍子を打ったり、足を踏み鳴らしたりして、リズムを体で演奏。※TAP は足踏み。 何班かに分かれて、違うリズムを練習。 最後に与論、沖永良部の伝統音楽に合わせて仕上げ。 17 時 00 分 終了
来場者数 参加者数	和泊町・知名町町民 及び 保護者・関係者 合計 49 名



<ダンス指導の様子>



<ダンス指導の様子>

〔1-3〕和泊町・知名町・与論町 島内視察及び歓迎シンポジウム・レセプション（発表会）	
日 程	8月26日（月）
会 場	知名町 知名町フローラル館
主 催	和泊町・知名町・与論町
交流手法	ボディパフォーマンスを中心とした演劇
出演・指導	SET 関係者 7 名（白土直子＋講師 1 名＋補助者 5 名）
参加者	【島内視察】 Caroline Noel（グレナダ オリンピック委員会団長） Woodrow Lawrence（ドミニカ国 オリンピック委員会団長） Norman Norris（ドミニカ国 元水産局職員）

	<p>Jevaugh John(グレナダ 歌手)</p> <p>Jalon Javid Olive(グレナダ 歌手)</p> <p>Hayley Bhola (グレナダ 知名町交流事業アドバイザー)</p> <p>Joel Rayne(アンティグア オリンピック委員会団長)</p> <p>Holis R Humphreys(与論町ホストタウンアドバイザー)</p> <p>石田 光洋 (元 JICA 専門家)</p> <p>谷地 尚子 (元 JICA 青年海外協力隊)</p> <p>皆吉 泰智 (和泊町企画課長)</p> <p>吉成 大 (和泊町企画課)</p> <p>高風 勝一郎 (知名町企画振興課長)</p> <p>坂井 輝喜 (知名町企画振興課)</p> <p>有川 晶子 (地域通訳案内士)</p> <p>瀬島 珠紀 (地域通訳案内士)</p> <p>日高 彩那 (与論町総務企画課)</p> <p>【レセプション】</p> <p>上記参加者の他、三町関係者計 147 名</p>
実施内容 プログラム	<p>【島内視察】</p> <p>9 時 30 分 町長表敬訪問 (和泊町・知名町)</p> <p>10 時 15 分 島内視察</p> <p>【歓迎シンポジウム】</p> <p>15 時 00 分 各国・各町紹介プレゼンテーション</p> <p>【レセプション (発表会)】</p> <p>16 時 30 分 合同ワークショップ</p> <p>ワークショップ参加者は前日、前々日の復習。</p> <p>海外招聘者の方に、その日に入るパートを練習していただき、楽器演奏者と一緒にリハーサルを実施。</p> <p>17 時 00 分 リハーサル終了</p> <p>18 時 00 分 合同レセプション</p> <p>レセプションのメインプログラムとして、ワークショップの成果を披露。</p> <p>3 町の町民と海外招聘者が一体となって、「ボディパフォーマンスを中心とした演劇」による交流を楽しんだ。</p> <p>20 時 00 分 終了</p>



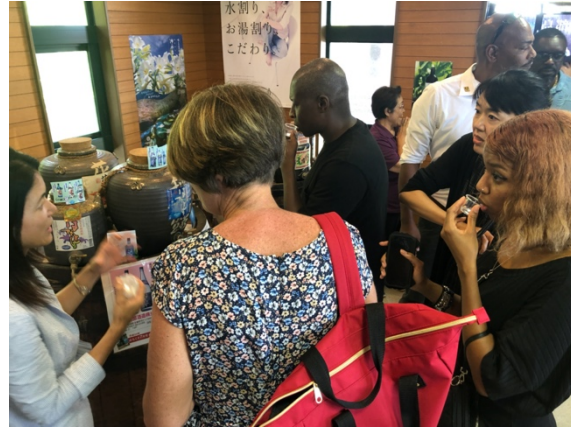
＜和泊町長表敬の様子＞



＜知名町長表敬の様子＞



＜島内視察の様子＞



＜島内視察の様子＞



＜シンポジウムの様子＞



＜交流的一幕＞



＜本番パフォーマンスの様子＞



＜本番パフォーマンスの様子＞



＜本番パフォーマンス後の集合写真＞



＜本番パフォーマンス後の様子＞

〔４－１〕 三町連携イベント 島内視察交流及び合同レセプション	
日 程	8 月 28 日(レセプション)29 日(島内視察)
会 場	レセプション【社会福祉センター】 島内視察【百合が浜】
主 催	和泊町・知名町・与論町
参加者	<p>【島内視察】</p> <p>Caroline Noel (グレナダ オリンピック委員会団長)</p> <p>Woodrow Lawrence (ドミニカ国 オリンピック委員会団長)</p> <p>Norman Norris (ドミニカ国 元水産局職員)</p> <p>Jevaugh John(グレナダ 歌手)</p> <p>Jalon Javid Olive(グレナダ 歌手)</p> <p>Joel Rayne(アンティグア オリンピック委員会団長)</p> <p>Holis R Humphreys(与論町ホストタウンアドバイザー)</p> <p>石田 光洋 (元 JICA 専門家)</p> <p>皆吉 泰智 (和泊町企画課長)</p> <p>吉成 大 (和泊町企画課)</p> <p>高風 勝一郎 (知名町企画振興課長)</p> <p>坂井 輝喜 (知名町企画振興課)</p> <p>有川 晶子 (知名町通訳案内士)</p> <p>日高 彩那 (与論町総務企画課)</p> <p>【レセプション】</p> <p>上記参加者の他、島内関係者計 6 5 名</p>
実施内容 プログラム	<p>【島内視察】 グラスボートにて百合が浜上陸。</p> <p>【レセプション】 大会後の交流のシミュレーションを兼ねて、エイサーの披露や与論献奉、地元バンドの演奏やダンス、郷土料理での歓迎。</p>



＜百合が浜へ向かうグラスボード＞



＜百合が浜にて＞



＜レセプションでのエイサー＞



＜レセプショングレナダ歌手歌披露＞

〔４－２〕 三町連携イベント ハレルヤこども園訪問交流	
日 程	8 月 29 日
会 場	ハレルヤ子ども園
主 催	和泊町・知名町・与論町
参加者	Caroline Noel（グレナダ オリンピック委員会団長） Woodrow Lawrence（ドミニカ国 オリンピック委員会団長） Norman Norris（ドミニカ国 元水産局職員） Jevaugh John(グレナダ 歌手) Jalon Javid Olive(グレナダ 歌手) Joel Rayne(アンティグア オリンピック委員会団長) Holis R Humphreys(与論町ホストタウンアドバイザー) 石田 光洋（元 JICA 専門家） 皆吉 泰智（和泊町企画課長） 吉成 大（和泊町企画課） 高風 勝一郎（知名町企画振興課長） 坂井 輝喜（知名町企画振興課） 有川 晶子（知名町通訳案内士） 山 元宗（与論町長） 沖島 範幸（与論町総務企画課長） 竹本 友樹（与論町総務企画課） 日高 彩那（与論町総務企画課）

実施内容 プログラム	子ども園訪問、子供たちによる空手や日本舞踊等の日本文化の披露、一緒に英語でのアンティグア・バーブーダ国歌
---------------	--



<子供たちの出迎え>



<歓迎のフラッグ>



<アンティグア国家の斉唱>



<集合記念写真>

〔４－３〕 和泊町・知名町連携イベント 沖永良部島×カリブニカ国環境会議	
日 程	8月27日（火） 10:00～12:00
会 場	和泊町役場 多目的ホール
主 催	和泊町・知名町
出演者 発表者	Woodrow Lawrence（ドミニカ国 オリンピック委員会団長） Norman Norris（ドミニカ国 元水産局職員） Caroline Noel（グレナダ オリンピック委員会団長） Hayley Bhola（グレナダ 知名町交流事業アドバイザー） 古川 柳蔵（東京都市大学環境学部環境系システム学科教授） 三橋 正枝（東北大学大学院 環境科学研究所） 石田 光洋（元 JICA 専門家） 谷地 尚子（元 JICA 青年海外協力隊） 力丸 育未（元 JICA 青年海外協力隊） 伊地知 実利（和泊町長） 前田 修一（和泊町副町長） 皆吉 泰智（和泊町企画課長） 吉成 大（和泊町企画課） 高風 勝一郎（知名町企画振興課長） 坂井 輝喜（知名町企画振興課）

	大福 和寛（和泊町 環境活動家 事例発表） 大福 寛治（和泊町 環境活動家 事例発表） 竿 智之（知名町 環境活動家 事例発表） 竿 りり（知名町 環境活動家 事例発表） 竿 はな（知名町 環境活動家 事例発表） 竿 りり（知名町 環境活動家 事例発表）
参加者 対象者	和泊町議会議員、和泊中学校学生、城ヶ丘中学校学生 その他一般町民
実施内容 プログラム	① ファシリテーター・古川 柳蔵（東京都市大学）から問題・議題提起 ② 〈現状〉地元の状況を紹介する映像挿入（ヤドカリ映像） ③ 〈事例発表〉 ・うじじきれい団事例発表（地元環境活動家） ・町・中学校ほか事例まとめ（知名町が集約して発表） ・ドミニカ事例紹介 ※ノーマン氏 ④ ディスカッション 沖永良部島の二町と、カリブニカ国、ともに海に囲まれた離島地域ならではの環境課題とそれに対する取り組みや暮らし方について、事例紹介を踏まえて意見交換



<事例発表の様子>



<ディスカッションの様子>



<事例発で紹介された漂着ゴミのサンプル>



<会議終了後の集合写真>

〔４－４〕 和泊町単独イベント ビーチでの交流会	
日 程	令和元年８月２８日（水） ９：００－１１：００
会 場	和泊町ワンジョビーチ
主 催	和泊町
参加者	Woodrow Lawrence（ドミニカ国 オリンピック委員会団長） 和泊町国頭バレーボール少年団（１６名） 花輪富八郎（和泊町教育委員会事務局） 吉成大（和泊町企画課） 金城真幸（和泊町地域おこし協力隊）
実施内容 プログラム	和泊町内のバレーボール少年団とビーチでのトレーニングや、海でのレクリエーションを実施した。



<子どもたちに向けてアドバイス>



<海でのレクリエーションの様子>

〔４－５〕 知名町単独イベント グレナダ ミニライブ	
日 程	８月２７日
会 場	エラブココ
主 催	知名町
参加者	Caroline Noel（グレナダ オリンピック委員会団長） Jevaugh John（グレナダ 歌手） Jalon Javid Olive（グレナダ 歌手） Hayley Bhola（グレナダ 知名町交流事業アドバイザー） 高風 勝一郎（知名町企画振興課長） 坂井 輝喜（知名町企画振興課） 地元参加者 ５０名ほど
実施内容 プログラム	グレナダのトップアーティストによるミニライブ。ソカを知り、楽しみ、ホストタウン国の文化に触れる。



<ミニ音楽イベントの様子>



<ミニ音楽イベントの様子>



<ミニ音楽イベントの様子>



<ミニ音楽イベントの様子>

〔４－６〕 与論町単独イベント サッカー交流	
日 程	８月２７日
会 場	ゆいランド
主 催	与論町
参加者	Joel Rayne(アンティグア オリンピック委員会団長) Holis R Humphreys(与論町ホストタウンアドバイザー) 山 元宗(与論町長) 沖島 範幸(与論町総務企画課長) 日高 彩那(与論町総務企画課) 与論中学校サッカー部
実施内容 プログラム	中学校サッカー部とゲスト二名での練習、ミニゲームの実施。 生徒からの質問への応答等の交流時間も設けた。



＜ミニゲーム交流の様子＞



＜集合記念写真＞



＜質疑応答の様子＞



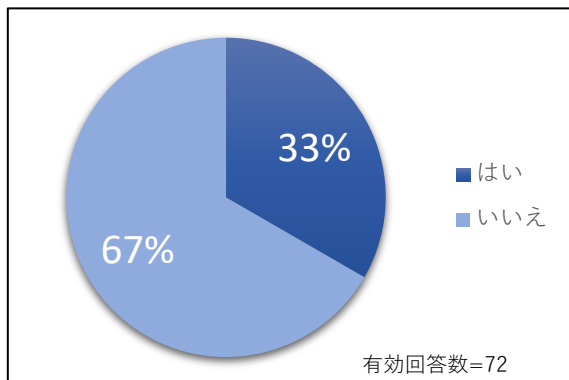
＜選手交流の様子＞

③ 事業の効果

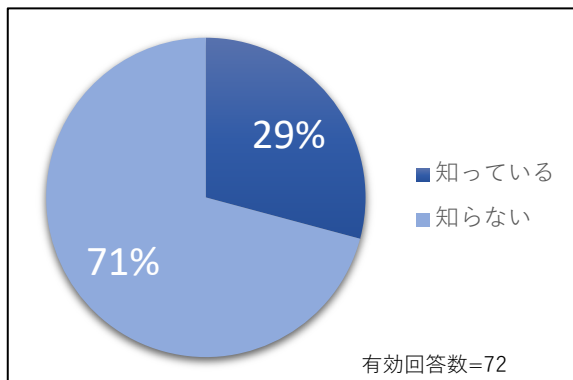
<調査サンプル概要>

鹿児島県の和泊町・知名町・与論町（3町）で実施された交流プログラムの参加者、関係者が対象であるため、小学生とその保護者、教育関係者等からの調査データとなっている。

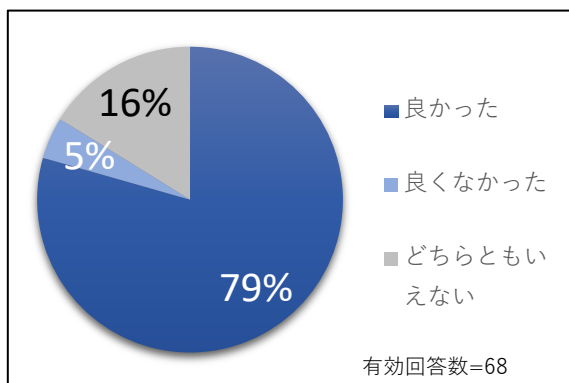
■「ホストタウン」という言葉の認知



■地元自治体のホストタウン登録の認知



■体験した交流スタイルについての印象



※主なコメント抜粋

<良かったと思うこと>

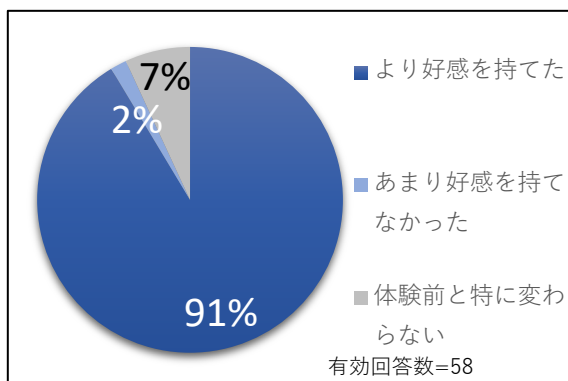
No.	コメント	性別	年代	職業	居住地
1	楽しかった	男	10代	小学生	鹿児島県 与論町
2	みんながわかるダンスだったのが良かった	女	10代	小学生	鹿児島県 和泊町
3	「ダンスでつうじあう」というあたらしいやりかたで、よかったとおもった	女	10代	小学生	鹿児島県 和泊町
4	音楽などで交流するのはいいと思った	女	10代	小学生	鹿児島県 和泊町
5	島の音楽、楽器を使ってボディパーカッションで一体感がとても良かったです。	女	30代	自営業	鹿児島県 与論町
6	くだけた雰囲気での通訳があったこと、子供たちとのダンス交流	女	20代	会社員	鹿児島県 鹿児島市
7	あたたかな雰囲気であットホームでとても良かったです。リラックスした空気で、参加者も緊張せずにできたと思います	女	40代		神奈川県 横浜市

8	ボディーパーカッションをみんなでできて楽しかったです	女	30代	物販自営業	鹿児島県 与論町
9	ダンスや夜の部での交流で、近く感じられてよかったです	女	40代	農業	鹿児島県 和泊町
10	自分の国や町の事をたくさん教えていたのが良かったです	男	10代	小学生	鹿児島県 和泊町
11	土地柄限られた人との関わりしかないので外国の方と関わるのは貴重。良い体験です。	女	40代		鹿児島県 与論町
12	純粋な子供のうちに文化交流できる事は良いと思います	女	30代		鹿児島県 与論町
13	子供たちとゲストがたくさん交流していた光景はとてもステキでした	女	50代	役者	神奈川県 逗子市
14	音楽とリズムで盛り上がったのがよかった	女	20代	学生	東京都 世田谷区
15	みんなで輪になって踊れたことがとても良かったです！	女	30代		東京都 目黒区

<改善して欲しいと思うこと>

No.	コメント	性別	年代	職業	居住地
1	島の踊りを教えたかった	女	10代	小学生	鹿児島県 和泊町
2	せっかくなら「やっこ」なども入れたらいいと思う	女	10代	小学生	鹿児島県 和泊町
3	子供が間近で接することが出来た事で親近感を持ちオリパラに対しても興味を持った事。相手の文化に興味を持ち英語で会話したいと思った	女	30代	保育士	鹿児島県 与論町
4	相手国の音楽、楽器を使って交流してみたかった	女	20代		東京都 杉並区

■交流プログラム体験後の中南米イメージについて

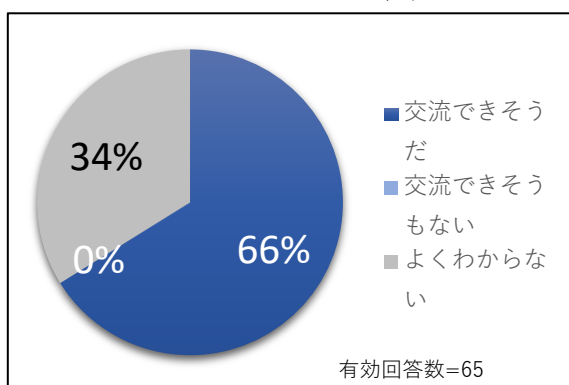


■中南米の国との交流で、やってみたいことなど

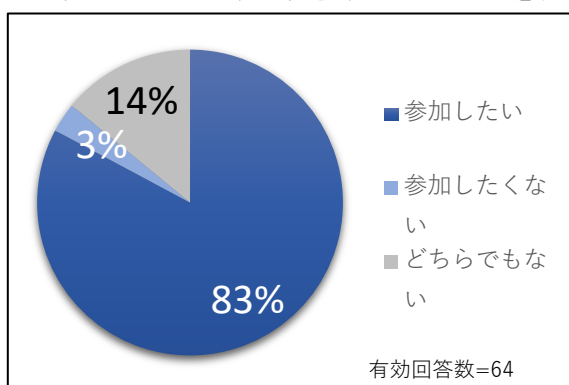
※主なコメント抜粋

No.	コメント	性別	年代	職業	居住地
1	スポーツや遊び、踊り	女	10 代	小学生	鹿児島県 和泊町
2	スポーツを通じて交流	女	50 代	自営	鹿児島県 和泊町
3	サッカー、バレー	男	10 代	小学生	鹿児島県 与論町
4	歌	女	30 代	パート	鹿児島県 与論町
5	ライブ	女	30 代	保育士	鹿児島県 与論町
6	音楽での交流	女	30 代		鹿児島県 与論町
7	中南米の音楽を通して交流したい	女	30 代	保育士	鹿児島県 和泊町
8	楽器での交流	女	20 代		東京都 杉並区
9	おどり	女	50 代	無職	鹿児島県 知名町
10	ダンス	男	10 代	小学生	鹿児島県 和泊町
11	中南米の楽器や踊りを一緒にやってみたい。教えて欲しい。	女	10 代	小学生	鹿児島県 和泊町
12	島の楽器を使って民謡に合わせて踊る	女	30 代	自営業	鹿児島県 与論町
13	エイサー体験&相手の国の芸能体験	女	30 代	観光業	鹿児島県 与論町
14	自分たちで体を動かして、交流してみたいです。	男	10 代	小学生	鹿児島県 和泊町
15	音楽やスポーツでの交流、中南米の音楽どんなものか生で聞いてみたい。	女	30 代	介護	鹿児島県 与論町
16	音楽ダンス、ゲーム、キャンプ	女	40 代	農	鹿児島県 与論町
17	今回のようなダンスや音楽（ホストタウンの曲を使ったら楽しそう）の他、一緒にゲームをやるなど、より一体感を得られること	女	50 代	役者	神奈川県 逗子市
18	音楽フェス、テレビ電話、実際に触れ合える企画、中南米はどのようなところか展示会みたいなのをして知りたい。	女	30 代	保育士	鹿児島県 与論町
19	子供同士の交流、家族交流	女	40 代	公務員	鹿児島県 和泊町
20	じこしょうかいゲーム	女	10 代	小学生	鹿児島県 和泊町
21	ホームステイ等、中期での交流や、学校同士での自国プレゼン	女	20 代	会社員	鹿児島県 鹿児島市
22	他の国の遊びなどをする	男	10 代	小学生	鹿児島県 和泊町
23	その国にどんな文化があるかをしょうかいしあう	男	10 代	小学生	鹿児島県 和泊町
24	むこうの文化で交流もしたいです	女	40 代	農業	鹿児島県 和泊町
25	お祭りにみんなで参加！（その地域のお祭り）	女	30 代		東京都 目黒区
26	中南米で流行してるのもやってみたい	男	30 代	自営業	鹿児島県 与論町

■地域の文化・伝統行事と中南米の文化との
コラボレーションについての印象



■地元のホストタウン交流行事への参加意向



※主な理由・抜粋

<「参加したい」と回答した方>

No.	コメント	性別	年代	職業	居住地
1	楽しかったから	女	10代	小学生	鹿児島県 和泊町
2	参加した子供がとても楽しそうだったから	女	40代	農業	鹿児島県 和泊町
3	もっと相手国のことを知りたくなったから	女	20代		東京都 杉並区
4	もっと交流をふかめたかった	男	10代	小学生	鹿児島県 和泊町
5	いろんな国の方と交流してみたい	女	30代	自営業	鹿児島県 与論町
6	たくさんのひとと交流をし、世界とつながりたいから	女	10代	小学生	鹿児島県 和泊町
7	交流してお互いを理解したい	女	30代	保育教諭	鹿児島県 与論町
8	自分とは異なる文化の人と交流したい	女	30代		東京都 目黒区
9	外国に行けなくても、その土地の人と交流できる手軽さ	女	10代	小学生	鹿児島県 和泊町
10	視野が広がりそう	女	10代	小学生	鹿児島県 与論町
11	普段は接することのない地域の方々と友好関係を築けると思うから	女	20代	会社員	鹿児島県 鹿児島市
12	他国の方と交流する機会はなかなかないので参加したい	女	30代	物販自営業	鹿児島県 与論町
13	子供に異文化交流を体験させたい（自分もしたい）	女	30代	保育士	鹿児島県 与論町
14	体験や経験は、していないより、より豊かになるから。	女	40代		鹿児島県 与論町

15	子供たちを世界の人々と出会わせたいから	女	不明	パート	鹿児島県 与論町
16	ボーダーレスに人と関わることで、子供達の世界観が広がればいいと思う	女	40 代	公務員	鹿児島県 和泊町
17	異文化交流することで、新しい発見があり、価値観が変わってくるから	女	50 代	役者	神奈川県 逗子市
18	なかなか体験できないから	女	20 代	学生	東京都 世田谷区

<「参加したくない」「どちらでもない」と回答した方>

No.	コメント	性別	年代	職業	居住地
1	自分にできることが思いつかない。	女	30 代	介護	鹿児島県 与論町
2	部活などで、行けない時もあるから。	女	10 代	小学生	鹿児島県 和泊町

■希望する交流行事の参加スタイルについて

※主なコメント抜粋

<「参加したい」と回答した方の参加希望スタイル>

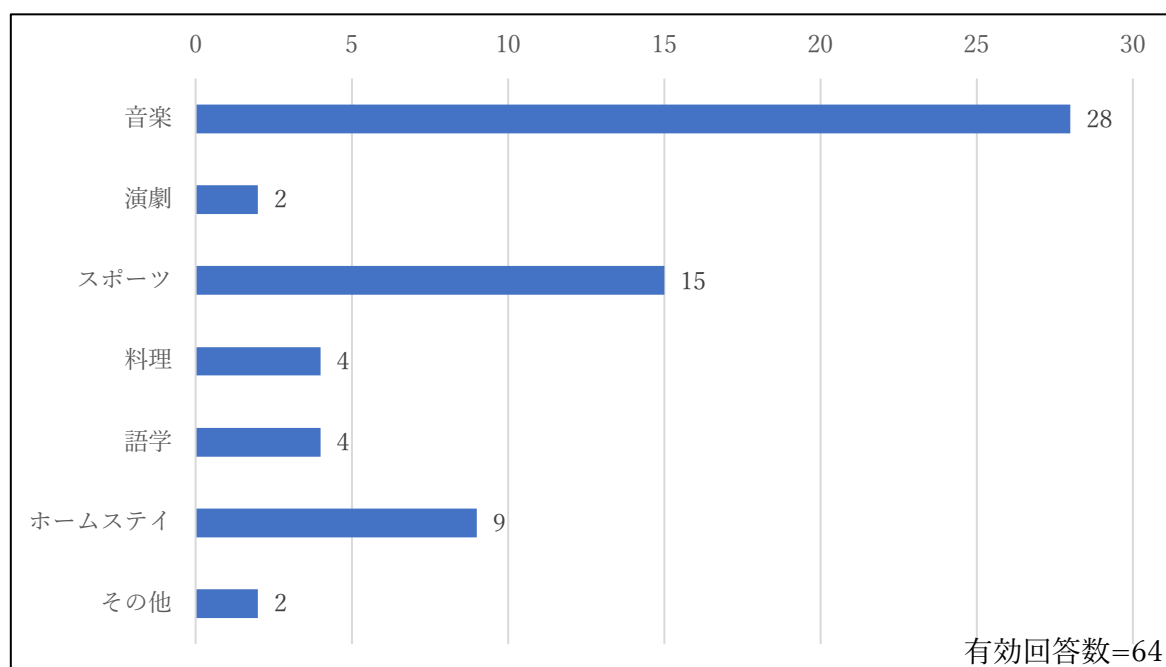
No.	コメント	性別	年代	職業	居住地
1	今回のような形で	女	40 代	教諭	鹿児島県 知名町
2	ライブ	女	30 代	保育教諭	鹿児島県 与論町
3	文化交流、音楽交流	女	30 代	物販自営業	鹿児島県 与論町
4	おどりなど	女	50 代	無職	鹿児島県 知名町
5	ゴスペル、ダンス、歌など	女	40 代	公務員	鹿児島県 知名町
6	ダンサーとして	女	20 代	学生	東京都 世田谷区
7	みんなでスポーツしたい	男	10 代	小学生	鹿児島県 和泊町
8	スポーツ交流	女	50 代	自営	鹿児島県 和泊町
9	家族で参加、友達と参加	女	10 代	小学生	鹿児島県 和泊町
10	レクリエーションなどを一緒に楽しむ	女	10 代	学生	鹿児島県 知名町
11	相手の特技を披露して欲しい。言葉を学びたい。	女	30 代	保育教諭	鹿児島県 与論町
12	文化交流はもちろんですが、アテンドやイベントのスタッフなど、いろんな角度でのお手伝いをしてみたいです	女	50 代	役者	神奈川県 逗子市
13	お茶出しとか裏方	女	40 代		鹿児島県 与論町
14	相手国へも行ってみたい	女	20 代		東京都 杉並区
15	外国の方に行きたい	男	10 代	小学生	鹿児島県 和泊町
16	広い感性を育みたい	女	30 代	保育士	鹿児島県 与論町

<「参加したくない」「どちらでもない」と回答した方の理由>

No.	コメント	性別	年代	職業	居住地
1	参加したいけどよくわからない	男	10 代	小学生	鹿児島県 和泊町

2	求められて、可能な限り	女	不明	パート	鹿児島県 与論町
3	準備がない	女	40代	農	鹿児島県 与論町

■希望する海外の国や地域との交流スタイル



※その他の内容 [海遊び 1、全部 1]

④ 課題

【「ホストタウン」という言葉の認知及び地元自治体のホストタウン登録の認知について】

「ホストタウン」という言葉や地元自治体のホストタウン登録についての認知は、概ね3割程度と低い結果となり、交流プログラムの参加者・関係者を対象としていることを前提とすると、なおさら認知の獲得が十分であるとは言えない。

自分の町がホストタウンであることを知らない住民もまだまだ多いので、今後も継続的な情報発信などの必要があり、アドバイザーと連携し、相手国を知る機会の創出が必要と考える。

【体験した交流スタイルについての印象について】

「良かった」とする回答が約8割という結果からは、「ボディパフォーマンスを中心とした演劇」という交流手法が、「言葉の壁を乗り越え幅広い世代が参加可能な交流手法」の1つとして有効なスタイルであると評価できる。

体験した子供たちのコメントが主であるが、言葉を使わず体を動かして楽しく交流できたことが伺え、この交流手法への一定の評価を観ることができる。さらに、地元の文化を伝えたい、より深く理解したいという希望や、相手の国への関心の高まりも伺える。

【交流プログラム体験後の中南米イメージについて】

約9割の参加者・関係者が「より好感を持てた」という回答をしており、「ボディパフォーマンスを中心とした演劇」という交流手法を通じて、相手国への印象を好意的な方向に評価されるこ

とが判った。

【中南米の国との交流で、やってみたいことなどについて】

体験した子供たちのコメントが主であり、かつ交流対象者がオリンピックを含んでいたということもあり、スポーツでの交流を望む意見が多かった。他に、子供たちの間で流行っているゲームやレクリエーションでの交流、音楽やダンスなど言葉を介さない交流を望む声も多く寄せられた。また、相手国の文化への関心の高まりも伺える。

【地域の文化・伝統行事と中南米の文化とのコラボレーションについての印象について】

実際に地元の伝統文化とのコラボレーションを体験いただいた方が主な対象となっている中で、半数以上の参加者が「交流できそうだ」と好意的に捉えている。その中で、「よくわからない」とした人が34%もあったのは、実際に体験した学生たちと、それを観覧していた保護者・関係者とは温度差が大きくなるものと推察される。

【地元のホストタウン交流行事への参加意向について】

「参加したい」と回答した方は、概ね今回の交流が楽しかった・楽しそうだったと感じ、有意義な体験として捉えている人が少なくない。また、相手国や異国文化への興味関心の高まりや相互理解、子供たちや自分自身も含めた成長に向けた期待感も伺える。一方で、「参加したくない」などの否定的なコメントは少なかったものの、実際に体験していただいた「ホストタウン交流」という言葉について、単に用語の問題かも知れないが、具体的なイメージや理解が及んでいない参加者もあったようだ。

今回のような音楽とダンス交流、スポーツ交流を望むコメントが多かったが、裏方でのサポートを担いたいとする声や相手国への訪問を希望する声も散見された。また、「参加したくない」「どちらでもない」とされた方は、日時や場所、実施内容など、具体的な交流スタイルを提示することなどにより、参加の翻意を期待できるものと推測できる。

【希望する交流行事の参加スタイルについて】

交流のスタイルとして、音楽やスポーツなどの「言葉の壁を乗り越えられる交流手法」を望む声が多い。また、ホームステイや料理、語学などでの交流を望む声も少なくなく、今回の交流プログラムの経験を通じて、より深い交流や相互理解を求めるようになる傾向も少なからず認められる。

[交流プログラム 2] 原宿表参道元氣祭スーパーよさこい 2019

① 背景

2019年8月24日・25日開催される「原宿表参道元氣祭スーパーよさこい2019以下、スーパーよさこい」は、原宿地域商店街の連帯と復興を目的として2001年から開催されているイベント。

本事業では、スーパーよさこいにおいて、中南米を代表する打楽器「スティールパン」の演奏者をトリニダード・トバコ国立大学から招聘し、関東圏のスティールパン奏者そして国内よさこいチームを中心とした踊り子たちによる合奏形態の「総おどり」を制作・実演した。

また、24日、25日とブースを出展。来場者にスティールパンを体験して頂いた。

トリニダード・トバコで生まれた「スティールパン」と日本の伝統的な祭りのひとつである「高知・よさこい祭り」の融合によるコミュニケーションによる国際文化交流を実施した。

② 事業内容

日 程	8月24日（土）～8月25日（日）
会 場	代々木公園イベント広場
主 催	原宿表参道元氣祭実行委員会／商店街振興組合原宿表参道櫓会
交流手法	文化の多様性を包摂する音楽
出演・指導	<p><8/24：メイン会場ステージ></p> <ul style="list-style-type: none"> ●UTT PAN PHOENIX（トリニダードトバコ大学スティールパンチーム）5名 ●関東圏内スティールパン演奏者 15名 ●國士舞双（スーパーよさこい出演チーム踊り子）30名 ●団長会議に來日中のホストタウン相手国訪問団関係者（ドミニカ、グアテマラ、米領バーズン諸島、アンティグア・バーブーダ、グレナダ、ガイアナ、トリニダード・トバコの7カ国・地域の代表者・関係者・通訳）18名 ●その他、当日参加希望者 <p><8/24～25：特設ブース内イベント></p> <ul style="list-style-type: none"> ●UTT PAN PHOENIX（トリニダードトバコ大学スティールパンチーム）5名
参加者 対象者	スーパーよさこい参加者、観覧者、その他一般来場者
実施内容 プログラム	<p>■よさこいフェニックス（メイン会場ステージ）</p> <ul style="list-style-type: none"> ●高知よさこい祭で、昔から踊りつがれた伝統な踊りである「よさこい正調」を中心とした振付し、トリニダード・トバコ大学スティールバンド「UTT PAN PHONEX」が編曲&音源制作を担当し、スティールパンの音色とカリブのリズムを加えカリブ風に編曲アレンジ。日本のスティールパン奏者や踊り子、相手国訪問団関係者などの参加により、祭と音楽の融合による 国際文化交流のステージを実施した。 ●実施時間帯：24日 19：00～ （12分間） <p>■スティールパン教室（特設ブース内イベント）</p>

■パネル② スティールパンってどんな楽器A < A 1 サイズ >

「スティールパン」ってどんな楽器？①



「スティールパン」とは、1930年代の終わり頃、南米大陸まで15キロ、カリブ海最南端の島トリニダード・トバゴで誕生した、音階のある打楽器であり、また世界で一番新しいアコースティック楽器といわれています。



どんな音をするの？

スティールパンは、ゴムを巻き付けた木やプラスチックの撥（ばち）を使って演奏するこの打楽器は、音の高低によって演奏曲のようなセクションに分類されています。

ソロ、少人数のアレンジメントによって奏でられる簡易系の繊細な音階。あるいは120人編成のシンパニック形式で生み出される壮大で荘厳的な音階とパワーはクラシックのフルオーケストラを彷彿とさせるもので、そのような音色の豊かさや、表現の自由さスティールパンという楽器が持つ魅力のひとつなのです。



何でできているの？

第二次世界大戦のなか、当時はまだ英国領であり、アメリカ軍の補給基地だったトリニダード・トバゴには、石油輸送用にたくさんあるドラム缶が捨てられていました。ある時、誰かが石油のドラム缶を叩いて、そこに音楽をみつけました。それがスティールパンのはじまりであり、以降、80年の間に進化し、今ではエンターテインメント楽器としてカーニバルの主役になり出ました。スティールパンという楽器は、ドラム缶を無断で叩いて、その上部をハンマーで叩いてへこませ、音程を奏でます。



いつ生まれた楽器？

植民地時代、彼らは、自分たちの音楽を使うことが許されず、黒人にとって生きることそのものとも思えるほど大切な太鼓を叩くことも一切禁止されたという過酷な生活を強いられました。

しかし、彼らはあきらめませんでした。竹を切って作った楽器（タンブー・パンブー）で地面を打ち鳴らしながら踊り、それも禁止されると、今度はビスクットの缶や灯油の缶、とにかく音の出るものを見つけ出し、叩きながら、生き続けていくことを選んだのです。



■パネル③ スティールパンってどんな楽器B < A 1 サイズ >

「スティールパン」ってどんな楽器？②



スティールパンの歴史

今こそ政府からナショナル・インストルメント（国民楽器）として正式に認められているスティールパンですが、その明るい音色の背景には奴隷としてこの島に連れてこられたアフリカ系黒人たちの長い抑圧と苦闘の歴史が深く刻まれていることを忘れてはなりません。今や音楽で輝くスティールパンの大会「パノラマ」という形で世界一の祭典にまで昇華しました。

音楽家なしには生きていけない人々の思いがこの楽器の今を作り出したのです。



カリブの人たちと音楽

毎年カーニバルの時期には、世界最大のスティールバンドが競い合う大会、トリニダード・トバゴ「ナショナル・パノラマ」が開催され、150を超えるチームがその頂点を目指し激しく競いあいます。音とリズムの楽園を求めて日本を含む世界中から、プレイヤーと観客たちがこの大会に集まっています。

今日では、カリブ中南部諸国にスティールパンが存在し、国民の生活に密着しています。特にベリーズ、セントルシア、グレナダ、セントビンセント、アンティグアなどで、スティールパンの大きな大会が開催されています。



鳴らしてみよう「スティールパン」！

スティールパンは、「南国」「ササの木」「青い海」といった「カリブ中南部」をイメージする象徴にもなっています。

例えば、人気の高いカリブ海クルーズの客船では、その文化を代表するエンターテインメントの定番です。

スティールパンは、カリブ海地域全体で演奏されるようになり、そしてその音色に魅了された観光客たちによって世界に広がり、いまや、ワールドミュージックのひとつとなっているのです。



	<p>■パネル④ 企業での情報発信例（モスバーガー） ＜A 1 サイズ＞</p> <div data-bbox="395 219 853 857"> <p>ホストタウン自治体を支援する民間企業の取り組み事例 「モスの多言語メニュー」</p>  <p>日本文化の魅力を発信する「beyond2020 プログラム」では、ホストタウン自治体との連携や支援に積極的に取り組まれている認証事業者があります。そのひとつが、(株)モスフードサービスによる多言語化メニューの実施です。</p> <p>これは、日本の食文化の発信を多言語にて行う取組として、外国人向けに同社が取り込んだ約10品の多言語メニューを、全国のモスバーガー店舗（一部の店舗を除く）で導入しました。</p> <p>また、「ホストタウン」登録されている自治体と連携した取組として、希望のあった114自治体の店舗（対象店舗数 363 店舗）では、ホストタウン相手国との交流の様子や取組の情報発信を行うとともに、相手国の主要言語による多言語メニューを用意しています。</p> <div> <div> <p>取組1</p> <p>モスバーガーと連携したホストタウン自治体に情報発信の場を提供</p>  <p>モスバーガーでのホストタウン情報発信</p> </div> <div> <p>取組2</p> <p>ホストタウン相手国・地域の多言語メニューを対象となる店舗に導入</p>  </div> </div>   <p>株式会社モスフードサービスは、内閣官房 東京オリンピック・パラリンピック推進本部事務局が推進する「beyond2020 プログラム」に賛同・参加しています。</p> </div>
<p>展示物</p>	<p>※上記新規制作パネル</p> <p>■既存パネル</p> <p>①私たちの町にもオリパラがやってくる ＜A 1 サイズ＞</p> <p>②ホストタウンウエルカム(英語) ＜A 1 サイズ＞</p> <p>■既存パナー</p> <p>ホストタウン交流事例紹介 ＜A 0 サイズ＞×3枚</p> <p>■スティールパン（展示用） 1組</p> <p>■体験用ミニスティールパン 7台</p>
<p>配布物</p>	<p>特になし</p>
<p>来場者数 参加者数</p>	<p>観客動員数：約 80 万人 ※主催者発表</p> <p>ブース来場者数：102 人 ※アンケート回収数</p>



＜よさこいフェニックスの様子＞



＜よさこいフェニックスの様子＞



＜よさこいフェニックスの様子＞



＜よさこいフェニックスの様子＞



＜よさこいフェニックスの様子＞



＜よさこいフェニックスの様子＞



＜スティールパン教室の様子＞



＜スティールパン教室の様子＞



＜スティールパン教室の様子＞



＜スティールパン教室の様子＞



＜ブースの外観＞



＜ブース内展示の様子＞



＜ブース内展示の様子＞



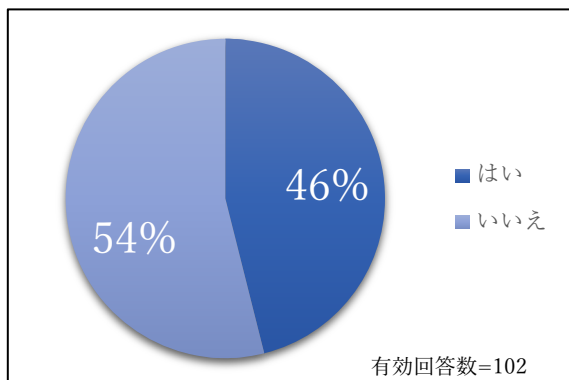
＜ブース内展示の様子＞

③ 事業の効果

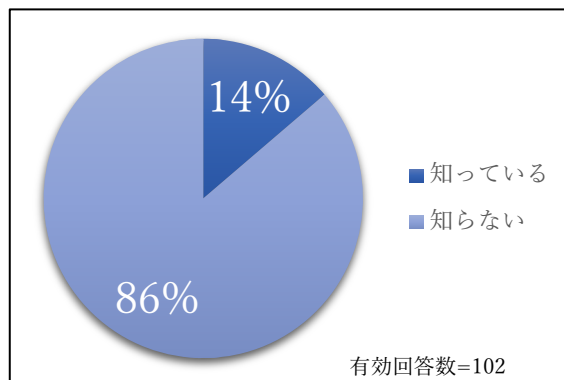
<調査サンプル概要>

スーパーよさこいで賑わう代々木公園内の特設ブースでの調査であり、スーパーよさこいの参加者の踊り子と見物客がその対象となり、主に関東圏の30～40代の男女を中心とする調査データとなっている。

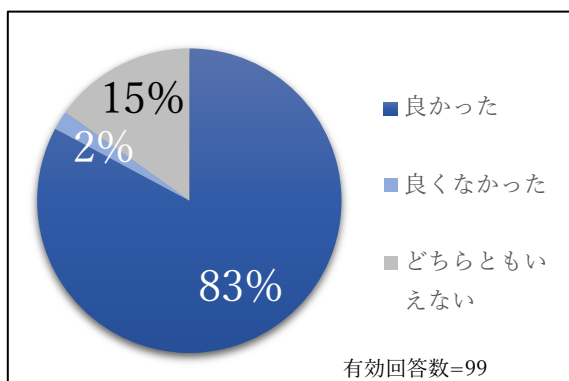
■「ホストタウン」という言葉の認知



■地元自治体のホストタウン登録の認知



■体験した交流スタイルについての印象



※主なコメント抜粋

<良かったと思うこと>

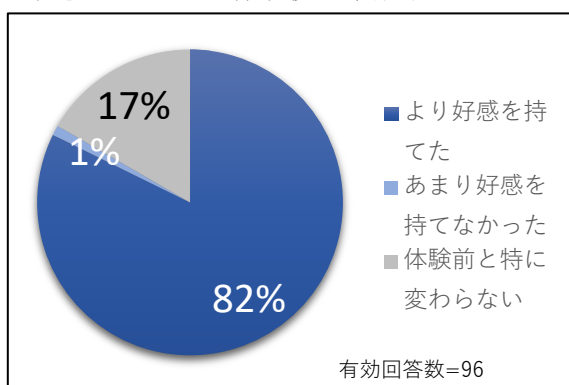
No.	コメント	性別	年代	職業	居住地
1	スティールパン楽しい	女	10代	高校生	東京都 武蔵野市
2	スチールパンさわれた	男	30代	デザイナー	東京都 渋谷区
3	体験できたこと（スティールパン）	女	40代		東京都 渋谷区
4	初めての楽器に触れられて良かったです	女	40代		東京都 世田谷区
5	楽器が楽しかったです	女	不明		東京都 世田谷区
6	おもしろいと思った	女	20代	会社員	神奈川県 川崎市
7	初めてスティールパンに触りました。楽しかったです。	女	20代	看護師	埼玉県 さいたま市
8	初めて触れた楽器、楽しかった	女	50代	会社員	東京都 新宿区
9	楽器は年齢や母国語が異なっても楽しめるので、素敵な企画だと思います！	女	30代	会社員	東京都 渋谷区

10	言葉がなくても音楽・ダンスで交流できて良かったです	女	30 代	会社員	東京都 江戸川区
11	実際にパン・バンドが来日したのが良かったです	女	40 代	パート	東京都 武蔵野市
12	音楽をとおしてなかよくなれた	女	50 代		富山県 富山市
13	直接、他の国との交流ができてよかった	女	20 代	会社員	埼玉県 吉川市

<改善して欲しいと思うこと>

No.	コメント	性別	年代	職業	居住地
1	ホストタウンがわかりにくかった	男	20 代		東京都
2	はじめてで、よくわからない	女	70 代 以上		大阪府 和泉区
3	別の楽器があっても良かった	男	50 代	会社員	東京都 大田区
4	小さなステージで良いので演技をやってみたらと思う	男	50 代		東京都 世田谷区
5	もっと知名度を高くする活動があるといいと思った	女	40 代	パート	千葉県 船橋市
6	もっとみんなが知る機会がたくさんあるといいですね	女	30 代	サービス	東京都 世田谷区
7	もっとたくさん行って欲しい	女	50 代	臨時職員	埼玉県
8	もっと交流できるといいので、いろんなお祭りに。サンバまつりとか。	女	50 代		千葉県

■交流プログラム体験後の中南米イメージについて



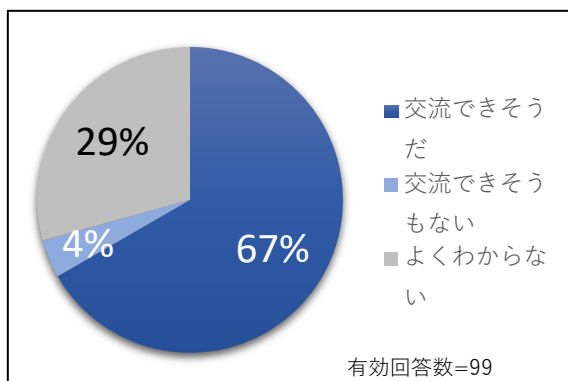
■中南米の国との交流で、やってみたいことなど

※主なコメント抜粋

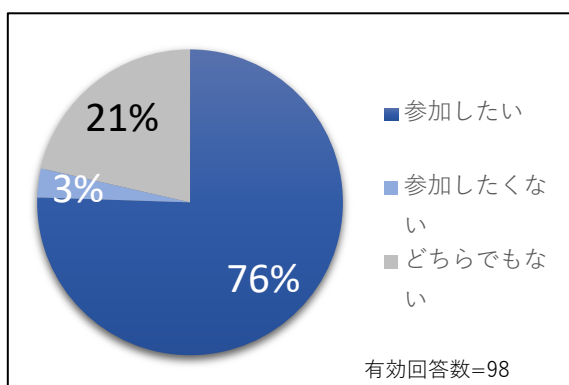
No.	コメント	性別	年代	職業	居住地
1	みんな足速いから、陸上体験とか教えてもらいたい	女	10 代	高校生	東京都 武蔵野市
2	ダンスとよさこいのコラボをぜひ！！	女	20 代	学生	高知県 高知市
3	一緒に互いの文化でヨサコイ・コラボ	女	30 代	会社員	埼玉県 さいたま市
4	中南米の踊りを一緒に踊る！	女	40 代	公務員	東京都 新宿区

5	サンバよさこい	男	50 代	会社員	東京都 大田区
6	サルサとよさこい踊りのコラボ	女	40 代	会社経営	東京都 中央区
7	踊りをいっしょに！	女	50 代	パート	栃木県 真岡市
8	ダンス・音楽と一緒に体験できるイベント	女	20 代	会社員	神奈川県 川崎市
9	また中南米のダンス、音楽でやってみたい	女	30 代	会社員	東京都 江戸川区
10	言葉がなくても踊りや音楽での交流	女	30 代	公務員	
11	音楽とダンス	男	40 代	会社員	東京都 荒川区
12	音楽イベント	女	20 代	看護師	埼玉県 さいたま市
13	音楽が良いと思います	男	50 代		東京都 世田谷区
14	今日子供がふれさせていただいたような音楽や楽器を通じて文化交流するのはとてもすてき	女	40 代	主婦	東京都 渋谷区
15	(スティール) パンのスクール	女	30 代	自営	東京
16	やっぱり音楽とおいしいごはん	男	30 代	デザイナー	東京都 渋谷区
17	ライブ、おどり、食べ物の体験	女	30 代	会社員	東京都 渋谷区
18	パーティー	女	10 代	小学生	東京都 武蔵野市
19	飲み会	女	20 代	公務員	高知県 高知市
20	企画がたくさんあるといいね、食べ物とか	女	50 代	臨時職員	埼玉県
21	食の交流	女	50 代	会社員	東京都 新宿区
22	遊びを通じたこと、ダンスと歌	女	40 代		埼玉県 富士見市
23	話をしてみたい	女	60 代		埼玉県 朝霞市
24	おもしろい	男	20 代		東京都
25	すごい	女	40 代	内装	埼玉県 川口市
26	SOCA to the world!	女	30 代	会社員	東京都
27	サンバの羽にさわってみたい	女	40 代		東京都 渋谷区

■地域の文化・伝統行事と中南米の文化との
コラボレーションについての印象



■地元のホストタウン交流行事への参加意向



※主な理由・抜粋

<「参加したい」と回答した方>

No.	コメント	性別	年代	職業	居住地
1	楽しいから	女	10 代	小学生	東京都 武蔵野市
2	楽しそう	男	50 代	会社員	東京都 大田区
3	面白いから	男	50 代	会社員	東京都 八王子市
4	スティールパンよい	女	50 代		栃木県
5	ぜひ一緒に踊りたい	男	40 代	公務員	高知県 高知市
6	お互いに楽しめるから！！	女	40 代	公務員	東京都 新宿区
7	ルーマニアがホストタウンだから	女	10 代	高校生	東京都 武蔵野市
8	それが何かを知る為	男	20 代		東京都
9	スタッフ？	女	20 代	看護師	埼玉県 さいたま市

<「参加したくない」「どちらでもない」と回答した方>

No.	コメント	性別	年代	職業	居住地
1	交流イベントによる	女	30 代	会社員	東京都
2	時間的に約束ができない	男	50 代		東京都 世田谷区
3	時間が合えば	女	40 代		東京都 渋谷区

■希望する交流行事の参加スタイルについて

※主なコメント抜粋

<「参加したい」と回答した方の参加希望スタイル>

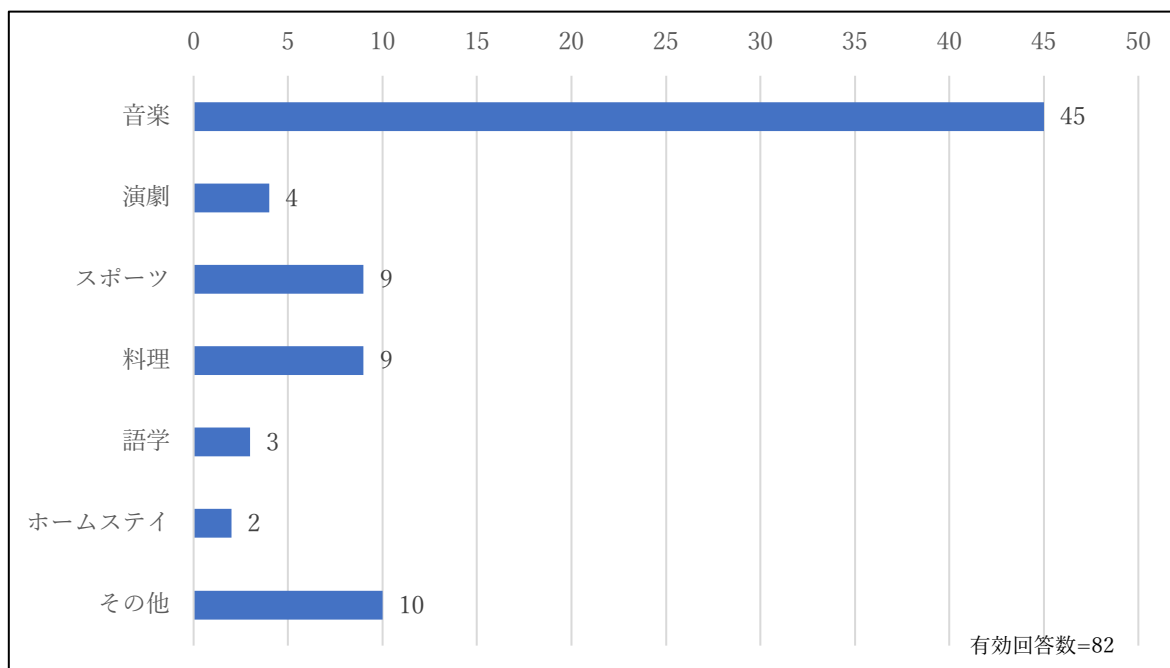
No.	コメント	性別	年代	職業	居住地
1	ダンス	女	20 代	営業	東京都 世田谷区
2	えんそう	女	40 代	内装	埼玉県 川口市
3	体験型のもの	男	30 代	会社員	埼玉県 川口市
4	お祭り	男	40 代		高知県 高知市
5	お祭りだったらいいと思う	男	30 代	IT	東京都 板橋区
6	交流型、一緒に踊りたい	女	20 代	公務員	高知県 高知市

7	料理やダンス・音楽の文化交流	女	30代	会社員	埼玉県 さいたま市
8	子供が楽しめるもの	女	30代		東京都
9	文化交流 体験したい	女	50代		千葉県 松戸市
10	交流がしたい	女	20代	会社員	埼玉県 吉川市
11	外国の方との交流をたくさんしたい	女	10代	高校生	東京都 武蔵野市
12	コミュニケーションとりたい	男	40代	公務員	高知県 高知市
13	国際交流、観光に興味あり	女	30代	公務員	
14	楽しく盛り上がるように参加したい	女	20代	会社員	愛媛県 四国中央市
15	対話・ブレボン（文化交流）・食事会など	男	40代	会社員	東京都 狛江市
16	異国文化に興味があるので実際にに関わり合えたら、と思う	女	40代	主婦	東京都 渋谷区
17	何でもやってみたい	女	40代	公務員	東京都 新宿区
18	イベントなどで	男	50代	会社員	東京都 大田区
19	ボランティア	女	60代	無職	高知県
20	催しのボランティアなど	女	50代	公務員	高知県 南国市
21	裏方でお手伝い	女	50代	OL	ガーナ
22	積極的にイベント企画・運営・参加をしたい	女	20代	会社員	神奈川県 川崎市
23	おもしろいイベントを作る側なら楽しいかも	男	30代	デザイナー	東京都 渋谷区
24	異国の文化体験とともに、日本人に対しての印象をききたい	女	40代		埼玉県 富士見市
25	機会があればいつでも参加したい	女	50代	臨時職員	埼玉県

<「参加したくない」「どちらでもない」と回答した方の理由>

No.	コメント	性別	年代	職業	居住地
1	フラッと立ち寄れるくらいが良いです	女	40代		東京都 渋谷区
2	積極的ではなく、参加したい	女	50代	会社員	東京都 新宿区
3	イベントがあれば	女	40代	音響	東京都 三鷹市
4	どんなことをやるか、また知ってから	女	30代	会社員	東京都 江戸川区
5	難しい	男	40代	会社員	千葉県 柏市
6	busy	男	30代		

■希望する海外の国や地域との交流スタイル



※その他の内容 [ダンス 5、大工 1、よさこい 3、算数 1]

④ 課題

【「ホストタウン」という言葉の認知及び地元自治体のホストタウン登録の認知について】

「ホストタウン」という言葉についての認知度は、調査場所に掲示されたパネル等による周辺環境の影響もあり半数弱となったが、地元自治体のホストタウン登録についての認知度については2割を割り込む結果となり、ほとんど知られていないと評価できる。

【体験した交流スタイルについての印象について】

「良かった」とする回答が8割を超え、スティールパンによる「文化の多様性を包摂する音楽」という交流手法が、「日本と中南米の文化を融合させた交流手法」の1つとして有効なスタイルであると評価できる。

各世代がスティールパンの体験を通じて、言葉を使わず音楽を通じて交流するスタイルに好感を抱いており、この交流手法においても一定の評価を観ることができる。さらに、もっと多くのこうした交流の機会を求める声が多かった。「ホストタウン」について、丁寧な説明を求める声もあった。

【交流プログラム体験後の中南米イメージについて】

8割強の参加者が「より好感を持てた」という回答をしており、スティールパンによる「文化の多様性を包摂する音楽」という交流手法を通じて、相手国への印象を好意的な方向に評価されることが判った。

【中南米の国との交流で、やってみたいことなどについて】

スーパーよさこい会場での調査ということもあり、よさこいを始めとするダンスや音楽での交

流を求める声が多かった。さらに交流を深めたいとするコメントも一定数認められ、こうした機会が相手国の文化への関心を持つきっかけとなることが伺える。

【地域の文化・伝統行事と中南米の文化とのコラボレーションについての印象について】

6割以上の対象者が「交流できそうだ」と好意的に捉えている一方で、「よくわからない」という回答も3割あり、主に首都圏に居住する対象者にとって、体験した中南米の音楽と地元の文化や伝統行事とのコラボレーションによる交流スタイルを、イメージしにくいものと推察される。

【地元のホストタウン交流行事への参加意向について】

「参加したい」という回答が7割を超え、概ね今回の交流が楽しかった・面白かったと感じ、有意義な体験として捉えている。一方で、「参加したくない」「どちらでもない」という回答の理由については、交流イベントの内容や日時といった具体的な「都合の問題」を挙げている。

ダンスや音楽、またお祭りなどの体験型の交流スタイルを希望する意見が多く、さらに踏み込んだコミュニケーションを求める意見や、裏方でのサポートを担いたいとする意見も散見され、「日本と中南米の文化を融合させた交流手法」のバリエーション開発や関わり方への期待感が伺える。「参加したくない」「どちらでもない」とされた方は、直近の都合による選択であり、具体的な日時を提示することにより選択の変更を期待できるものと推察できる。

【希望する交流行事の参加スタイルについて】

スーパーよさこい会場での調査ということもあり、音楽を通じての交流スタイルを求める人が大多数であり、ついでスポーツや料理、ダンスを選択する人が多く、今回のスティールパンによる「文化の多様性を包摂する音楽」のように、言葉の壁を乗り越えられる交流スタイルが求められていると考えられる。

〔交流プログラム 3〕 第4回春日野音楽祭

① 背景

「春日野音楽祭」は、2015年10月、春日大社の第60次式年造替を記念して開催され、以降、毎年実施されている市民音楽祭。かつてシルクロードの終着点であった奈良は、世界各地の音楽・芸能が集う音楽の都としての一面を持っています。春日野音楽祭は、様々な音楽ジャンルを包含する音楽祭であり、プロからアマチュアまで音楽を愛する多様な世代の参加により構成されている。

本事業では、本年8月31日及び9月1日の2日間に亘って開催される第4回春日野音楽祭において、トリニダード・トバコ共和国で生まれた打楽器スティールパンの演奏者として5名のトリニダード・トバコ国立大学の学生5名を招聘し、奈良側のホストバンドである奈良教育大学吹奏楽部との共演による交流型ステージの実施、また、テントブースにおいては、田原本町が発祥とされる日本の伝統芸能のひとつ「能楽」を学ぶ、田原本町の子どもたちがホスト役として交流ワークショップによるスティールパン体験を通じて、音楽という非言語性のコミュニケーションによる国際市民交流を図るものとして実施した。

② 事業内容

日 程	8月31日（土）～9月1日（日）
会 場	春日大社境内から奈良駅まで春日大社表参道（三条通）を中心とするまちなか・奈良公園
主 催	春日野音楽祭実行委員会
交流手法	文化の多様性を包摂する音楽
出演・指導	<p><8/31：メイン会場ステージ></p> <ul style="list-style-type: none"> ●UTT PAN PHOENIX（トリニダードトバゴ大学スティールパンチーム）5名 ●関西圏在住国内スティールパン演奏者 15名 ●奈良教育大学吹奏楽部ウインドアンサンブル 15名 <p><8/31：特設ブース内イベント></p> <ul style="list-style-type: none"> ●UTT PAN PHOENIX（トリニダードトバゴ大学スティールパンチーム）5名 ●伝統文化を次世代に伝える会（田原本町の子どもたち）15名 <p><9/1：近鉄奈良駅前特設ステージ></p> <ul style="list-style-type: none"> ●UTT PAN PHOENIX（トリニダードトバゴ大学スティールパンチーム）5名
参加者 対象者	春日野音楽祭出演者、観覧者、その他一般来場者
実施内容 プログラム	<p>■オープニングステージ（メイン会場ステージ）</p> <ul style="list-style-type: none"> ●奈良側のホストバンドである奈良教育大学吹奏楽部ウインドアンサンブルのファンファーレとともに開会し、UTT PAN PHOENIXの演奏、奈良教育大学吹奏楽部ウインドアンサンブルの演奏をそれぞれ披露した後、両者に関西圏在住国内スティールパン演奏者を加えて、合同演奏を3曲披露した。 ●実施時間帯：31日 11:00～（70分間）

WEBページ

8月31日オープニング企画『UTTパン・フェニックス』初来日！ (2019年)

TOKYO2020ホストタウン国際交流ライブ 『UTTパン・フェニックス』初来日！



今年の春日野音楽祭は、中南米を代表する楽器「スティールパン」と、奈良教育大学吹奏楽部のコラボレーションステージからスタート！
「スティールパン」は、カリブ海最南端の島国「トリニダード・トバゴ」で生まれ、世界で一番新しいアコースティック楽器です。今や世界三大カーニバルでも知られている、カリブを代表する音楽を、今回は初来日となる5人のバンドメンバーによる「UTTパン・フェニックス」の演奏に、奈良教育大学『ウインドアンサンブル』の学生たちが共演、春日野音楽祭のオープニングステージを盛り上げます。カリブ海生まれのハッピーな音楽で、春日野の夏を彩るスペシャルステージをお楽しみください！

※本ステージは、東京オリンピック・パラリンピック開催を記念した、音楽と祭りによる国際文化交流ステージです。

開催日時 2019年8月31日（土） 11:00～
開催会場 浮雲園地・メインステージ

出演 UTTパン・フェニックス（トリニダード・トバゴ国立大学）ウインドアンサンブル（奈良教育大学吹奏楽部）安里 圭一郎、サカモトジャイ庵、花登 源、pansondo、ファンタスティックス
入場料 無料

出演

UTT パン・フェニックス (UTT PAN PHOENIX)

世界で一番新しいアコースティック楽器「スティールパン」発祥の地でもあるトリニダード・トバゴ、この国の国立大学。…彼らを紹介します。



春日野音楽祭

<ワークショップ情報>

鳴らしてみよう！スティールパン

カリブ海からやってきた、20世紀生まれのアコースティック楽器

開催日時 2019年8月31日（土） 午後開催予定
※2回程度開催/1回あたり20～30分予定・参加無料
※参加ご希望の方は、当日ブースまでお越しください
（当日ブースにて予約受付・先着10名程度予定）



南米大陸まで15キロ、カリブ海最南端の島。『スティールパン』は当時まだイギリスの植民地だったトリニダードで、1930年代の終わり頃に発明され、誕生しました。20世紀になって生まれた最も新しい音階のあるアコースティック楽器のひとつです。

スティールパンは、ドラム缶を輪切りにし、その上部をハンマーで叩いてへこませることで音階がつき倍音奏でます。またデナー、チェロといった様々なパート音域の種類によってドラム缶の側面をカットしています。楽器が進化することで、スティールパンは現在の姿になりました。

ソロ、少数のアンサンブルによって奏でられる癒しの音色から、クラシックのフルオーケストラを彷彿とさせる、120人編成が繰り出す圧倒的な音量とパワーのラージ・バンドまで……。スティールパンによる表現は多彩です。

毎年開催されている、世界最大のスティールバンドの大会「トリニダード・トバゴ・ナショナル・パノラマ」には、150を超えるチームがその頂点を目指し激しく競いあいます。ここでしか聴けない音とリズムの楽園を求めて、日本を含む世界中から、プレイヤーと観客たちがこのカーニバルに集まっています。



CONTENTS

- 開催概要
- タイムテーブル
 - タイムテーブル2
- オープニング
- フィナーレ
- 特別企画
- まちなかステージ
- サポーター
- ヒストリー
- 春日野音楽祭について
- 会場マップ
- フィナーレ参加応募フォーム
- オープニング参加申込フォーム
- まちなかステージ出演者応募フォーム
- 観戦記
- 第4回 春日野音楽祭 開催風景 (2019年)
- 第3回 春日野音楽祭 開催風景 (2018年)
- 第1回 春日野音楽祭 開催風景 (2016年)
- 第4回 春日野音楽祭 出演アーティスト紹介 (2019年)
- racKu

カテゴリー

- アーティスト
- 新着情報
- 過去開催
- ブログ



<スティーロバンの歴史>

今ではトリニダード・トバゴ政府からナショナル・インストルメント（国民楽器）として正式に認められているスティーロバンですが、その明るい黄色の後ろには、奴隷としてこの島に連れてこられたアフリカ系黒人たちの長い抑圧と苦難の歴史が深く刻まれています。植民地時代、当時の統治者であったイギリスは、奴隷たちに過酷な試験をあたえました。自分たちの言葉を言うことはもちろん、黒人にとって生きることそのものとも言えるほど、大切な太鼓を叩くことを一切禁止したのです。しかし彼らはめげなかった。竹を切って作った楽器タンブー・パンプで地面を打ち鳴らしながら踊り、それも禁止されると、今度はビスケットの缶や灯油の缶、とにかく音の出るものをぶっ叩きながら、生き延びていくことを選んだのです。そしてある時、誰かが石油のドラム缶を叩いてそこに音楽をみつけました。それがスティーロバンの始まりでした。

それからおよそ80年、スティーロバンは進化し、パノラマという形で世界一の祭典にまで昇華しました。音楽なしには生きていけない人々の思いがこの楽器の今を作り出したのです。



制作物

■パネル⑥ <A1サイズ>

東京2020・ホストタウンについて

beyond 2020

ホストタウン

「ホストタウン」とは？

日本の自治体と、2020年東京大会に参加する国・地域の住民等が、スポーツ、文化、経済などを通じて交流し、地域の活性化等に活かしてこうとする取り組みです。

大会参加者との交流

大会前夜で大会に参加した外国人の選手（オリンピック・パラリンピアン）と交流

大会参加国の方々と交流

～外国を知り日本を伝える

相手国からゲストを迎え、歴史や文化を知る

児童・生徒同士の交流（お互いの文化を紹介）

お互いの祭りやイベントに参加し合う

日本人オリンピック・パラリンピアンとの交流

過去にオリンピック、パラリンピックに参加したことのある方々との交流（競技体験、講演等）

中南米のホストタウン登録状況

■パネル⑦ <A1サイズ>

奈良県田原本町は、グアテマラ共和国のホストタウンとして登録され、大会を盛り上げています

2019年8月22日、田原本町の森町長とグアテマラ共和国のアギーレ・オリンピック委員会会長は、東京においてホストタウンに関する合意文書に署名しました。
今後、両者の様々な交流事業を企画すると共に、大会後にグアテマラのオリンピック選手を招聘し、子どもたちのスポーツを通じた交流を実施し、2020年東京オリンピック・パラリンピックを一緒に盛り上げていく予定です。



田原本町は、なぜグアテマラ共和国の事後交流型ホストタウンに?

事後交流型ホストタウンは、事前合意ではなく、スポーツ・教育・文化・音楽・芸術等を通じた国際交流に重きを置くものです。
両町は「ヤサカ」として歴史文化遺産を共に大切に守り続けてきたこと、また、UCC 上飯間株式会社の前職者の出身地である田原本町と、コーヒーの一大産地であるグアテマラ共和国は、コーヒーというキーワードでも繋がりがあり、これらの共通項を通じ、今後更なる交流促進、相互理解と友好親善を深めることができると考えています。

田原本町とは?



田原本町の町の花はイセン。「能楽」の発祥地、穂太の生誕の地とも言われています。

グアテマラ共和国とは?



グアテマラ共和国の花はモンハ・プランカ。木琴楽隊「マリンバ」の発祥の地とも言われています。

奈良盆地の中央に位置し、約32,000人の人口を抱える田原本町は、平野と山とが一望に広がる。水運に恵まれ、約2,000年前、日本最大級の川で稲作農耕を中心に大規模な農業活動として栄えた。古く、鎌倉時代に栄えりた歴史文化を有しています。2018年4月、唐古・鎌倉歴史公園の前の駅「レスティ」が、古く、オープン。中南部地域の観光客と地域経済の発展に貢献しています。
古くから米作りが盛んで、最近では水産物やナス、トマト等の野菜やイチゴやメロン等の果物を栽培する農家が 증가しています。

中央アメリカ北部に位置するグアテマラ共和国は、北緯はカリブ海に、南緯は太平洋に面し、人口は1,618万人。首都グアテマラシティには335万人を抱えます。紀元前からマヤ系民族による文明が栄えていました。世界遺産に登録されているティカル遺跡などから、その繁栄と建築、天文学などへの高度な知識を有していたと推測されています。

グアテマラ共和国成立後、コーヒー栽培が盛んになりました。今では上質なコーヒーの生産地として知られており、コーヒー、ゴマ、バナナが日本への主な輸出品目です。

展示物

※上記新規制作パネル及びスーパーよさこい会場にて使用した全パネル
■体験用ミニステイルパン 7台

配布物

特になし

来場者数
参加者数

観客動員数：約2万人 ※主催者発表
ブース来場者数：89人 ※アンケート回収数



<オープニングステージの様子>



<オープニングステージの様子>



<オープニングステージの様子>



<オープニングステージの様子>



＜オープニングステージの様子＞



＜オープニングステージの様子＞



＜田原本町ワークショップの様子＞



＜田原本町ワークショップの様子＞



＜田原本町ワークショップの様子＞



＜田原本町ワークショップの様子＞



＜田原本町ワークショップの様子＞



＜田原本町ワークショップの様子＞



＜まちかどステージの様子＞



＜まちかどステージの様子＞



＜まちかどステージの様子＞



＜まちかどステージの様子＞



＜スティールパン教室の様子＞



＜スティールパン教室の様子＞



＜スティールパン教室の様子＞



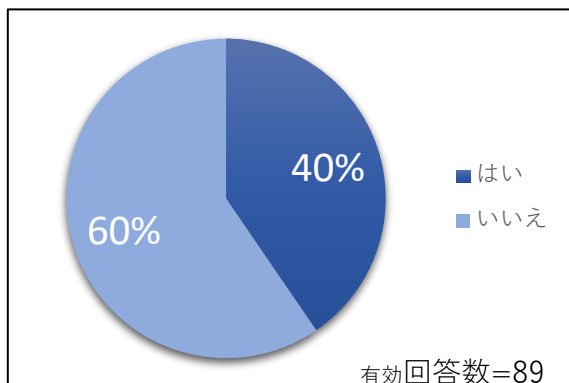
＜ブースの外観＞

③ 事業の効果

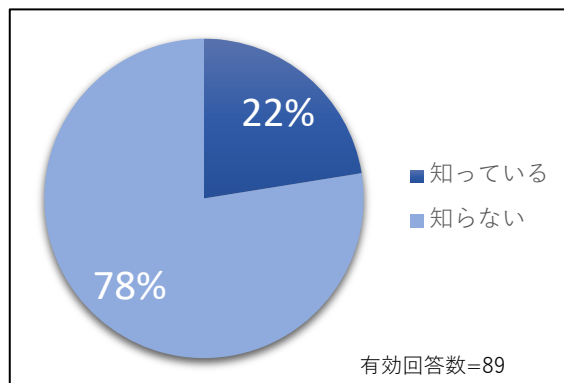
<調査サンプル概要>

春日野音楽祭での社会人・大学生・小学生とのコラボレーション企画の体験者及び特設ブースへの来場者が主な調査対象となり、近畿圏の10～20代の男女を中心とする調査データとなっている。

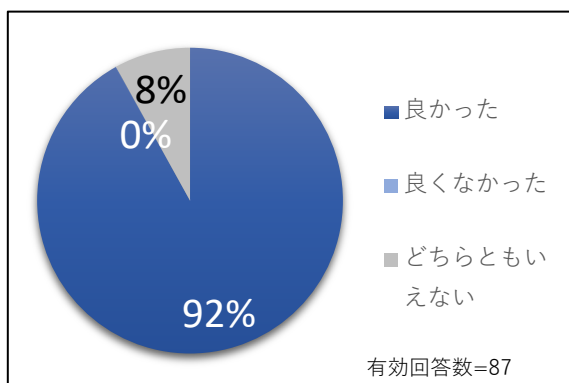
■「ホストタウン」という言葉の認知



■地元自治体のホストタウン登録の認知



■体験した交流スタイルについての印象



※主なコメント抜粋

<良かったと思うこと>

No.	コメント	性別	年代	職業	居住地
1	すばらしかったです！たのしかった	女	40代		奈良県 田原本町
2	スティールパンを体験できた	女	20代	学生	大阪府 大阪市
3	珍しい楽器で楽しめた	女	60代	無職	奈良県 田原本町
4	一緒に演奏できてとても良かったです。スティールパンの合同演奏が良かった。	男	30代	音楽家	兵庫県 神戸市
5	音楽をツールとして他国の人と交流を持てた	女	20代	学生	奈良県 奈良市
6	音楽は言葉が通じなくてもいけるのでよかった	女	20代	学生	
7	知らない太鼓を知って、体験できてよかったと思います。ただ、舞台の近くだったので音が聞こえ難かったです	女	不明	パート	奈良県 田原本町
8	楽しいからなじみやすい	男	20代	会社員	大阪府

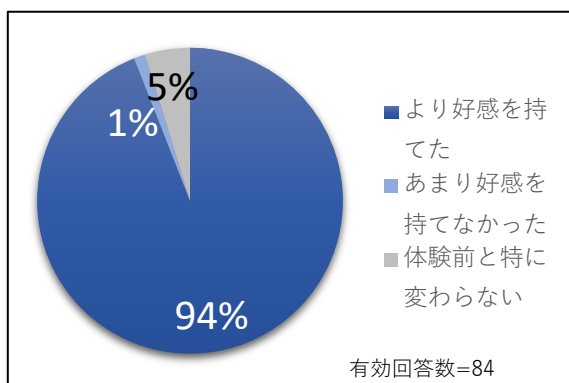
9	初めての感動でした	女	60 代	会社員	奈良県 奈良市
10	言葉が通じなくてもジェスチャーなどで和気あいあいに楽しめた	女	20 代	大学生	奈良県 天理市
11	初めての体験で楽しかったです	男	20 代	学生	兵庫県 西宮市
12	日本にはないスタイルの音楽を聴ける良い機会だった	女	10 代	学生	奈良県 奈良市
13	中南米の音楽がとても楽しかった	男	40 代	会社員	奈良県 奈良市
14	明るく元気な音楽を聞けてよかった	男	40 代	自営業	奈良県 奈良市
15	スティールパンすごく楽しくてよかった。もっと中南米のオリジナルの音楽をして欲しかった	女	50 代	会社役員	奈良県 奈良市
16	言葉の要らない交流で素晴らしいと感じました	男	40 代	会社役員	奈良県 奈良市
17	実際にリハーサル中に身近に交流できたこと	女	20 代		奈良県 奈良市
18	なかなか出会えない人たちに出会えてよかった	女	30 代	パート	兵庫県 尼崎市
19	いつもは外国人と交流することはあまりないので、交流できてよかったと思いました	女	10 代		奈良県 田原本町
20	ワークショップはとてもよい	女	40 代	会社員	神奈川県 横浜市
21	髪の毛の色に驚いた	男	10 代	小学生	奈良県 田原本町
22	交流したおかげで知らないことも知れた	女	10 代		奈良県 田原本町
23	体験型で良かったと思います	女	10 代	学生	奈良県 王寺町
24	体験したことのないことなので面白かった、もっと国のことが知りたい	女	30 代	会社員	大阪府 守口市
25	世界が仲良くなり、より良い世界になると思います	女	20 代	カメラマン	大阪府 大阪市
26	地道な草の根交流が必要だが、トリニダード・トバゴの音楽関係者の訪日は、顔の見える交流となり良いと思う	女	40 代	公務員	京都府

<改善して欲しいと思うこと>

No.	コメント	性別	年代	職業	居住地
1	一過性のものになると勿体ないと思います	男	50 代	自営業	愛知県 名古屋市
2	ラテン楽器の種類がもっとあればな、と	女	50 代		大阪府 大阪市
3	もっと長く演奏して欲しかった	女	50 代	陶芸作家	京都府 京都市
4	音楽祭との同時開催のため、説明や折角の音が聞きづらく少し残念でした	女	60 代		京都府 福知山市
5	音楽祭でマイクを使っている中での音楽でしたので、別の場所の方が良かったです	女	40 代	パート	奈良県 田原本町
6	一緒に体験できたのが良かったです。仕切りが欲しいです。	女	10 代	学生	奈良県 橿原市
7	ちょっと周りの音がうるさかった。一緒に体験できて楽しかった。	女	10 代	高校生	奈良県 天理市

8	合同練習時間がもっと欲しかった	男	20 代	学生	奈良県
9	もう少し練習以外の時間が欲しかったです	女	10 代		京都府 宇治市
10	運営側の方々の伝達をもっとしっかりしていただきたいです	女	10 代	大学生	大阪府 堺市
11	事前に情報があればもっと協力できたと思います	女	40 代	会社員	大阪府 大阪市

■交流プログラム体験後の中南米イメージについて



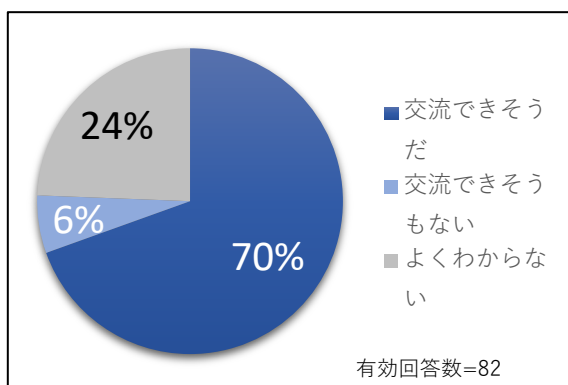
■中南米の国との交流で、やってみたいことなど

※主なコメント抜粋

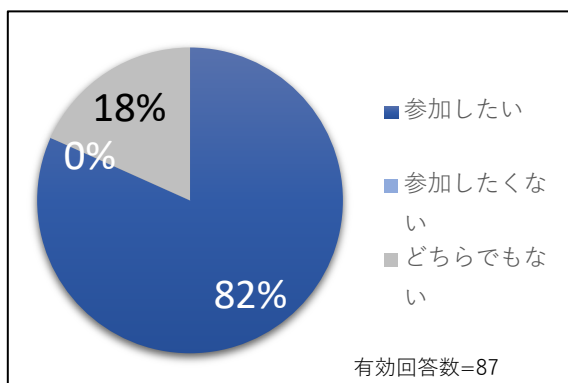
No.	コメント	性別	年代	職業	居住地
1	スポーツ	男	40 代	会社員	奈良県 田原本町
2	ボーリング	男	60 代	会社員	千葉県 千葉市
3	音楽やスポーツなど	女	10 代	学生	奈良県 奈良市
4	演奏	女	10 代	大学生	奈良県 奈良市
5	音楽	女	20 代	学生	大阪府 大阪市
6	国の曲と一緒に演奏したいです	女	10 代	大学生	大阪府 堺市
7	セッションとかしてみたら盛り上がりそうだなと思いました。(日本の楽器)	女	10 代	学生	奈良県 橿原市
8	やはり明るい音楽がとても盛り上がると思うので音楽イベントがいい	女	50 代	会社役員	奈良県 奈良市
9	ライブをたくさんしてほしい	女	40 代	主婦	大阪府
10	ラテンパーカッションの遊び	女	50 代		大阪府 大阪市
11	100 人（以上）でスティールパンを演奏する	女	40 代	会社員	大阪府 大阪市
12	本格的な 120 人編成のスティールバンド	男	30 代	音楽家	兵庫県 神戸市
13	合奏、一緒に踊ること	女	50 代		奈良県 奈良市
14	一緒にダンス体験	女	40 代	公務員	京都府
15	今回のような交流	女	30 代	パート	兵庫県 尼崎市
16	一緒に楽しめるワークショップ	男	50 代	自営業	愛知県 名古屋市
17	もっとワークショップの種類を増やして欲しいです	女	30 代	会社員	大阪府 守口市
18	音楽、アート、食文化	女	50 代	陶芸作家	京都府 京都市

19	食、音楽など非言語のもの	男	20代	会社員	大阪府
20	食の交流	女	60代	無職	奈良県 田原本町
21	こうした音楽交流の後に一緒に日本料理を作って食べる。逆に向こうの料理も。	女	20代	大学生	奈良県 奈良市
22	食品等、また服装、伝統衣装等に興味があります	女	40代	パート	奈良県 田原本町
23	食事を一緒にしてみたいです	女	10代	学生	奈良県 王寺町
24	お話しする	男	10代		奈良県 田原本町
25	中南米の現地の話を聞いてみたい	女	20代	カメラマン	大阪府 大阪市
26	他の様々な祭りを取り入れる	男	20代	学生	兵庫県 西宮市

■地域の文化・伝統行事と中南米の文化との
コラボレーションについての印象



■地元のホストタウン交流行事への参加意向



※主な理由・抜粋

<「参加したい」と回答した方>

No.	コメント	性別	年代	職業	居住地
1	楽しかったから	女	10代	学生	奈良県 奈良市
2	面白そう	女	30代	会社員	大阪府 守口市
3	今回とても楽しかったから	女	10代	学生	兵庫県 三田市
4	今回新しい音楽をまぢかで見れて嬉しかったから	女	10代		京都府 宇治市
5	言葉が通じなくても同じものを共有できるというのが楽しかったから	女	10代	学生	奈良県 奈良市
6	言葉が理解できなくても音楽で交流できるのは良	女	20代	事務	愛知県 名古屋市

	いことだと思います				
7	知らない文化をたくさん知れるから	女	10 代	学生	大阪府 大阪市
8	外国人と交流するのが好きだからです	女	20 代	大学生	奈良県 奈良市
9	貴重なチャンスだから	女	40 代	会社員	大阪府 大阪市
10	子供に世界のことを知って欲しい	女	40 代		奈良県 天理市
11	いろんな国のことを知ることができるから	女	不明	パート	奈良県 田原本町
12	異文化交流に興味があります	女	10 代	学生	奈良県 橿原市
13	異文化交流は楽しい	男	50 代	自営業	愛知県 名古屋市
14	他の国の文化を学ぶ事は自分の価値観を変える機会になると思います	女	10 代	学生	奈良県 王寺町
15	世界観が広がるから	女	50 代	陶芸作家	京都府 京都市
16	楽しそう、異文化理解につながるから	女	30 代		奈良県 橿原市
17	外国の音楽やファッションに興味がある	男	30 代	音楽家	兵庫県 神戸市
18	様々な人のことを知りたいし、英語で会話してみたい	女	10 代	高校生	奈良県 天理市
19	知らない海外の人たちと交流してみたい	女	50 代	会社役員	奈良県 奈良市

<「参加したくない」「どちらでもない」と回答した方>

No.	コメント	性別	年代	職業	居住地
1	時間が合えば	女	40 代	会社員	神奈川県 横浜市
2	仕事が忙しい	男	60 代	会社員	千葉県 千葉市
3	忙しいので	女	40 代	ナース	大阪府 大阪市
4	そういう機会があるかわからない	女	20 代	大学生	奈良県 天理市

■希望する交流行事の参加スタイルについて

<「参加したい」と回答した方の参加希望スタイル>

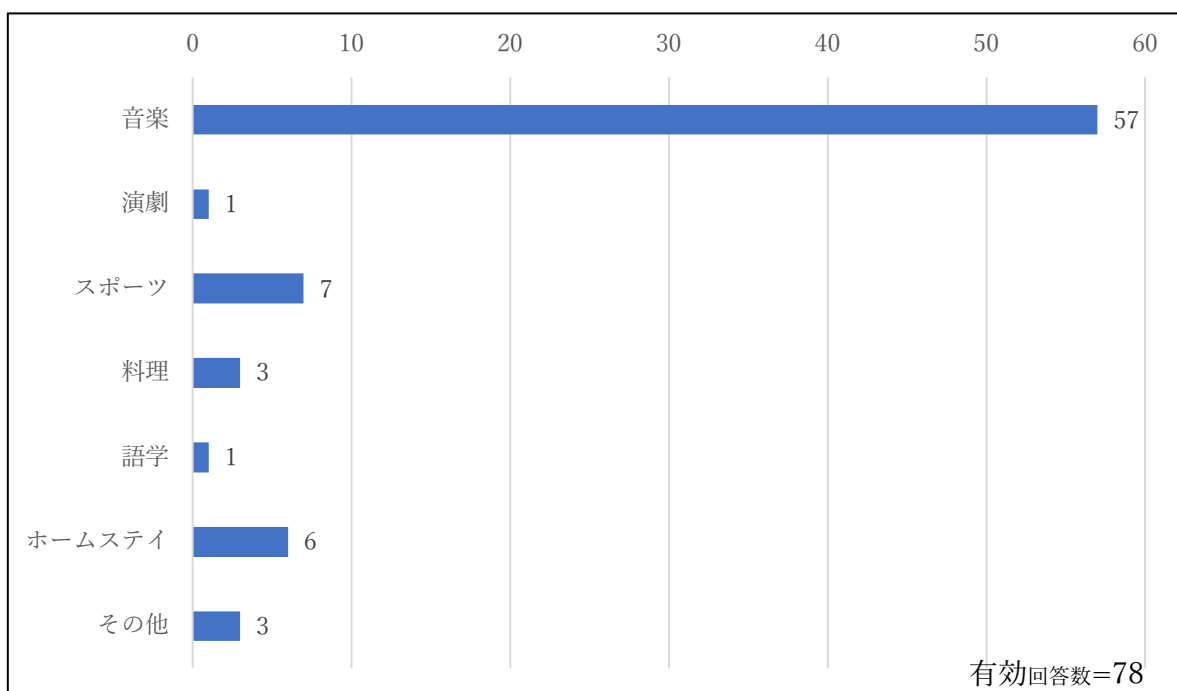
No.	コメント	性別	年代	職業	居住地
1	今回のような音楽交流があればぜひ参加したいです	女	20 代	大学生	奈良県 奈良市
2	スティールパンのライブ	女	40 代	主婦	大阪府
3	音楽活動	男	20 代	学生	奈良県
4	吹奏楽とのコラボ	女	50 代		大阪府 大阪市
5	ワークショップ参加	男	50 代	自営業	愛知県 名古屋市
6	引き続き音楽で交流したい	女	10 代	学生	奈良県 奈良市
7	楽しいこと	女	20 代	カメラマン	大阪府 大阪市
8	能	男	10 代		奈良県 田原本町
9	実際に体験するものに参加したいです	女	10 代	学生	奈良県 奈良市
10	今回のように、一緒に何か 1 つのことができれば良いと思います	女	10 代	学生	奈良県 奈良市

11	その国の伝統のものを体験する	女	30 代	会社員	大阪府 守口市
12	自分の市町村の特徴を説明して、相手の文化を学ぶ	女	10 代	学生	奈良県 王寺町
13	文化の交流など	女	10 代	学生	奈良県 奈良市
14	楽器や洋服を買いたい。海外のマルシェやフリマなど	男	30 代	音楽家	兵庫県 神戸市
15	食	女	30 代	サービス	奈良県 奈良市
16	参加者の人と友好関係を結びたい	女	20 代	学生	大阪府 東大阪市
17	通訳ボランティア	女	40 代	会社員	大阪府 大阪市
18	翻訳ボランティアとして参加、お手伝いさんとして参加。	女	10 代	高校生	奈良県 天理市
19	イベントのお手伝いなど	女	不明	パート	奈良県 田原本町
20	お手伝いできたら嬉しいです	女	10 代	学生	奈良県 橿原市
21	交流イベント運営のお手伝い	女	40 代	公務員	京都府
22	サポートスタッフ	女	50 代	陶芸作家	京都府 京都市

<「参加したくない」「どちらでもない」と回答した方の理由>

No.	コメント	性別	年代	職業	居住地
1	イベントがあれば参加したい	女	40 代	店員	兵庫県 尼崎市
2	よくわからない	女	10 代	大学生	大阪府 堺市
3	型は今は考えていない	女	60 代	無職	奈良県 田原本町
4	仕事が忙しい	男	60 代	会社員	千葉県 千葉市

■希望する海外の国や地域との交流スタイル



④ 課題

【「ホストタウン」という言葉の認知及び地元自治体のホストタウン登録の認知について】

「ホストタウン」という言葉についての認知度は4割に留まり、地元自治体のホストタウン登録についての認知度については2割を若干上回る結果となり、認知が進んでいないものと評価できる。

【体験した交流スタイルについての印象について】

「良かった」とする回答が9割を超え、スティーロパンによる「文化の多様性を包摂する音楽」という交流手法が、「日本と中南米の文化を融合させた交流手法」の1つとして有効なスタイルであると評価できる。

スティーロパン・バンドとの合同演奏体験を通じて、様々な世代において、言葉を使わず音楽を通じて交流するスタイルの経験に好感を抱いており、この交流手法においても一定の評価を観ることができる。要望としては、イベント主催者側との連携にやや難があったものの、もっと楽しみたい、交流を深めたいという意思の表れと評価できる。

【交流プログラム体験後の中南米イメージについて】

9割強の参加者が「より好感を持てた」という回答をしており、スティーロパンによる「文化の多様性を包摂する音楽」という交流手法を通じて、相手国への印象を好意的に評価されることが判った。

【中南米の国との交流で、やってみたいことなどについて】

春日野音楽祭会場での調査ということもあり、音楽・楽器演奏等を通じた交流を求める声が多く聞かれた。他、ダンスやスポーツ、食を通じたでの交流を求める声も少なくなく、さらに、交流を深めて相手国への関心を持つきっかけとなることも伺える。

【地域の文化・伝統行事と中南米の文化とのコラボレーションについての印象について】

7割の参加者が「交流できそう」と好意的に捉えている一方で、「よくわからない」という回答も3割弱あり、体験した中南米の音楽と自身の地元の文化や伝統行事とのコラボレーションを通じた交流スタイルをイメージしにくいものと推察される。

【地元のホストタウン交流行事への参加意向について】

「参加したい」という回答が8割を超え、概ね今回の交流が楽しく有意義であったと感じ、言葉が理解できなくても音楽などで交流ができるものと理解し、異文化交流への意識を醸成している。一方で、「参加したくない」「どちらでもない」という回答の理由については、交流イベントの内容や日時といった具体的な「都合の問題」と認識されている。

合同演奏のような音楽を通じた共同作業による交流スタイルを希望する意見が多く、他、さらに踏み込んだコミュニケーションを求める意見や、裏方でサポートを担いたいとする意見も散見された。「参加したくない」「どちらでもない」とされた方は、具体的な日時を提示することにより選択の変更を期待できるものと推察できる。

【希望する交流行事の参加スタイルについて】

音楽祭のコラボレーション企画の参加者が多いため、圧倒的に音楽を通じての交流スタイルを求める人が大多数を占めた。ついでスポーツやホームステイ等を選択する人が多く、「音楽」が言葉の壁を乗り越える交流ツールとして期待されているものと評価できる。

【交流プログラム 5】 新潟県小千谷市・愛媛県松野町プログラム

① 背景

新潟県小千谷市と愛媛県松野町は、遠く離れた地域でこれまで自治体同士での交流は無いものの、両地域では古くから闘牛の文化が地元に根付いており、広く認知されている。また、本年8月30日、小千谷市が米領バージン諸島の、松野町が英領バージン諸島のホストタウンとしてそれぞれ登録され、交流事業を進めることとなった。両市町においてそれぞれの相手国との事前交流は行われていないが、ホストタウン登録を機に、両国の文化・教育・歴史などの相互理解を図り今後の交流に繋げるとともに、小千谷市及び松野町との交流も進める。

特に、米・英領バージン諸島は海洋の美しい自然を活用した観光産業に注力されており、小千谷市においては雪の恵みを活かした稲作・養鯉システムとして日本農業遺産に認定、松野町では国立公園滑床溪谷を活かしたキャニオニングなど両地域においては山岳の自然と融和したライフスタイルや観光産業など両国において対比となるが、いずれも自然を活かすという共通するものがある。そして、両国の自然を後世に伝えるため、オリンピック・パラリンピックの事後交流を通じて考える機会を創出する。

また、本取組を通じて、大会期間及び大会終了後の事後交流に向けての、両地域におけるオリンピック・パラリンピックへの機運を高めることを目的とする。

② 事業内容（計画）

日 程	2月21日（金）～2月25日
会 場	新潟県小千谷市、愛媛県松野町
主 催	小千谷市、松野町
交流手法	文化の多様性を包摂する音楽
出演・指導	米領・英領バージン諸島関係者（各2名）
参加対象者	小千谷市市民、松野町町民
実施内容 プログラム	<p>①学校児童生徒の理解促進（異文化理解）</p> <p>学校訪問で、米領・英領バージン諸島の様子を児童・生徒へ伝えることにより文化事業を実施し交流を深める。</p> <p>②市町民との交流、機運醸成</p> <p>既存イベント等を活用した市町民との交流の場を創出し、相互の文化交流を図る。</p> <p>③その他</p> <p>降雪時期により、小千谷市では雪を活用した交流、松野町では食や観光業者による交流を実施。</p>
来場者数 参加者数	※未実施

③ 事業の効果

※新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、実施直前の 2 月 13 日に中止となったため省略。

④ 課題

※新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、実施直前の 2 月 13 日に中止となったため省略。

3. 合同調印式の実施

① 背景

内閣官房オリパラ事務局では、東京大会に向けて、ホストタウンと相手国・地域との様々な交流を推進しており、この度、中南米地域のホストタウン登録を希望する自治体及び6～7月にホストタウン登録された自治体と相手国・地域との交流を図る催しを実施。

NOC 関係者とホストタウン自治体等との交流会（合同調印式）では、オリンピック委員会関係者や在日大使、関係自治体の首長等が出席し、ホストタウン交流に向けた意気込みを披露頂く他、併せて交流内容に関する覚書の調印を実施した。

39 カ国を擁する中南米地域では、ホストタウンを希望する6カ国を含め16カ国が未登録の状況であり、交流会の実施により、登録の促進と交流の活発化を図っていくこととした。

② 事業内容

日 程	8 月 22 日（木） 16:00～16:45
会 場	ホテルニューオータニ翠鳳
主 催	内閣官房東京オリンピック・パラリンピック推進本部事務局
出演・登壇	<p><ホストタウン登録を希望する自治体と相手国・地域></p> <p>○グアテマラ共和国 ジェラルド・アギーレ NOC 会長 奈良県田原本町 森章浩町長</p> <p>○セントクリストファー・ネイビス レスターヘンリー氏 鹿児島県天城町 森田弘光町長</p> <p>○ハイチ共和国 マリエ・エレッセ・ジョセフ・ガンサー氏 愛知県幸田町 成瀬敦町長</p> <p>○米領バーズン諸島 アンセン・スリガー氏 新潟県小千谷市 大塚昇一市長</p> <p>○英領バーズン諸島 ハリガン・スコット氏 愛媛県松野町 坂本浩町長</p> <p><6～7月にホストタウンとして登録された自治体と相手国></p> <p>○ニカラグア共和国 ロドリゴ・コロネル大使 群馬県甘楽町 森平仁志副町長</p> <p>○ガイアナ共和国 ガーフィールド・ウィルトショア氏 福島県伊達市 須田博行市長</p>
参加者 対象者	国内メディア関係者
実施内容 プログラム	<p>① 主催者挨拶 内閣官房東京オリンピック・パラリンピック推進本部事務局</p> <p>② 参加者紹介 司会</p> <p>③ 自治体ご発言 7 市町長・代表者</p> <p>④ 7 カ国・地域の NOC 関係者から発言</p> <p>⑤ 合同調印式 ※2 グループに分かれてプレゼント贈呈と調印文書を手交</p>

	⑥ 記念フォトセッション ⑦ 質疑応答
制作物	<p>■タイトル看板 <4800×600mm></p>  <p>■国旗・市章・町章パネル <200×133mm></p> 



< 合同調印式の様子 >



< 合同調印式の様子 >



< 合同調印式の様子 >



< 合同調印式の様子 >



＜合同調印式の様子＞



＜合同調印式の様子＞



＜合同調印式の様子＞



＜合同調印式の様子＞



＜合同調印式の様子＞



＜合同調印式の様子＞



＜合同調印式の様子＞



＜合同調印式の様子＞

③ 事業の効果

本事業の実施にあたっては、内閣官房担当官より記者クラブを通じてメディア誘致を行い、各種メディアに取材及びニュース放映・記事掲載をいただけた。

また、関係各所からのSNS発信もあり、国民各層へ向けた情報発信が図られた。

■8月27日 NHK

首都圏ネットワークにて、『カウントダウン 2020「ホストタウン誘致」お見合いでマッチング』と題して、約5分間の特集コーナーで紹介された。

■8月22日 サンケイスポーツ

中南米7カ国と交流 五輪ホストタウン事業

内閣官房は22日、東京五輪・パラリンピックに出場する海外選手と地域住民の交流を図る「ホストタウン事業」で、中南米7カ国・地域と受け入れを予定する自治体の交流会を東京都内で開いた。

ハイチやガイアナ、ニカラグアなどから代表者が出席。グアテマラの国内オリンピック委員会（NOC）のジェラルド・アギーレ会長は「互いの文化を知りたい機会。（生産量の多い）コーヒーやマヤ文明を紹介できることをうれしく思う」とあいさつした。

グアテマラを受け入れる奈良県田原本町や米領バーズ諸島を迎える新潟県小千谷市など7自治体からも市長や町長らが顔をそろえ、「一緒に五輪を盛り上げていきたい」などと述べて交流覚書の調印式に臨んだ。

■8月24日 毎日新聞

20年東京五輪・パラリンピック

連載をフォロー

グアテマラ選手と交流 田原本町が事後ホストタウンに ／奈良

会員限定有料記事 毎日新聞 2019年8月24日 地方版

夏季五輪

奈良県

東京2020

五輪

来年の東京五輪・パラリンピックに向けて、田原本町は22日、ホストタウンとして中米・グアテマラと交流するための合意書を同国オリンピック委員会との間で調印した。競技後の選手らの町への訪問などを中心にした「事後交流型ホストタウン」で、今月末に正式決定される見通し。



Timeline

グアテマラ共和国のホストタウンに - 東京五輪・パラ事業で 古代マヤ文明繁栄の地／田原本町

シェア ツイート B!ブックマーク



森町長とジェラルド・アギーレグアテマラ五輪委員会長=22日、調印会場(同町提供)

田原本町は2020年に開かれる東京五輪・パラリンピックのグアテマラ共和国(中米)のホストタウンに近く正式決定する。22日に森章浩町長が東京都で開かれた内閣オリパラ推進本部の合同調印式に出席した。

同国は古代にマヤ文明が栄えた地域で、現在はコーヒーの産地でもある。弥生時代の唐古・鍵遺跡があり、UUC上島珈琲創業者の出身地である同町が東京五輪などを通じ友好を深めるという。具体的には五輪・パラの終了後、選手団が同町を訪れ、町民らと交流する。...

■Comite Olimpico Guatemalteco



Inicio Quiénes somos Noticias Qué hacemos Información Pública Contáctenos



Inicio » Comité Olímpico Guatemalteco firma acuerdo de intercambio en Japón

Comité Olímpico Guatemalteco Firma Acuerdo De Intercambio En Japón

Enviado por COG el 22 Agosto 2019 - 3:04pm



La celebración de los Juegos Olímpicos del próximo año en Tokio, Japón, supone una oportunidad única para estrechar lazos de cooperación entre naciones y en ese contexto el Comité Olímpico Guatemalteco firmó un vínculo de intercambio con la Alcaldía del Municipio de Tawaramoto.

El acuerdo de entendimiento sobre el intercambio entre el Comité Olímpico Guatemalteco y la Alcaldía del Municipio anfitrión de Tawaramoto, prefectura de Nara, se concretó el jueves 22 de agosto.

En el acto realizado en la sede del Hotel New Otani, en la ciudad de Tokio, siete Comités Olímpicos Nacionales, entre ellos el de Guatemala, sellaron acuerdos con sus respectivas prefecturas para intercambios deportivos y culturales post juegos.



Por el Comité Olímpico Guatemalteco, acudió el presidente licenciado Gerardo Aguirre, acompañado del jefe y sub jefe de misión, Oscar Maeda y José del Busto. Además fue invitado el embajador de Guatemala en Japón, señor Cristóbal Herrera. Del lado de los anfitriones, firmó el alcalde del municipio de Tawaramoto, prefectura de Nara, Akihiro Mori.

De acuerdo a los términos del intercambio, el programa contempla el envío de atletas y oficiales guatemaltecos que competirán en los Juegos Olímpicos de Tokio 2020, al municipio de Tawaramoto.

La visita tendrá una duración aproximada de tres días, al finalizar la cita olímpica que se realizará del 24 de julio al 9 de septiembre. Dentro de las actividades se agendarán eventos deportivos, experiencias de acercamiento a la cultura local y fiestas de recibimiento.

Los costos de transporte interno (Villa Olímpica a Tawaramoto, Aeropuerto de Narita) y alojamiento y gastos durante la estadía serán cubiertos por el Municipio de Tawaramoto.

■在グアテマラ日本国大使館 Facebook



■田原本町 Facebook



■外務省地方連携推進室 Twitter



④ 課題

合同調印式の実施にあたっては、ニュース化されて情報発信されるようことを念頭に置いたシーンの演出、ツールの設置を心掛け、メディアへの露出も獲得できた。

ホストタウンとなる自治体、関係するステークホルダーも情報発信できるよう映像素材の提供、情報素材の共有化を図ることが望ましい。

4. 内閣官房主催の成果報告会議における成果報告

① 背景

本事業は、中南米のホストタウンを対象として、効果的な交流の在り方について調査を行うもので、円滑な相互交流のための手法として、言語の違いを越えて、相互に文化的な理解を育むため、

○『ボディパフォーマンスを中心とした演劇』

○『文化の多様性を包摂する音楽』

という2つの手法を取り上げ、ホストタウン自治体との連携による市民プログラムを実施した。

これらの交流プログラムの制作にあたっては、劇団スーパー・エキセントリック・シアター(SET)や、トリニダード・トバゴ国立大学のスティールパンメンバーが参画し、アーティストとホストタウン市民の双方が参加できるステージやワークショップ等を実施。

また、鹿児島県沖永良部島(和泊町・知名町)と与論島(与論町)の3町が連携して、ホストするカリブ3か国(ドミニカ、グレナダ、アンティグア・バーブーダ)との交流を実施。JICA職員などカリブと深い縁を持っている日本人や、日本に在留するグレナダ人、アンティグア・バーブーダの方々、さらには、ホストタウンの市民交流のハブ的な役割を担うであろう大学教授などの文化関係者が有機的にホストタウン交流に参加。それぞれ3町の強みを生かした様々な交流が行われた。

本成果報告会では、交流内容のダイジェスト映像を放映し、カリブ3か国の親善大使3名とSETのキーマンを招いたパネルディスカッションを実施することとした。

② 事業内容

日 程	2月22日(土)
会 場	武蔵野大学 有明キャンパス 1号館 2階 202
主 催	内閣官房東京オリンピック・パラリンピック推進本部事務
出演・登壇	ホリス・ハンフリーズ(アンティグア・バーブーダ×与論町 親善大使) ヘイリー・ボーラ(グレナダ×知名町 親善大使) 石田光洋(ドミニカ×和泊町 親善大使) 鈴木洋子(劇団スーパー・エキセントリック・シアター) 林俊宏(内閣官房東京オリンピック・パラリンピック推進本部事務局)
参加者 対象者	国内メディア関係者
実施内容 プログラム	映像放映: 16:45~17:05 パネルディスカッション: 17:05~17:45

■パネル① <A1サイズ>

東京2020 オリンピック・パラリンピック ホストタウン交流
沖縄県那覇市・与那国3町×カリブ3か国
和泊町 × ドミニカ国

beyond 2020
ホストタウン

Welcome Ceremony

『環境島サミット&ビーチアクティビィ』

島サミットでは、グレナダ、ドミニカのオリンピック委員会関係者や海洋資源の専門家と環境問題に取り組む学識経験者や市民小中学生が参加し、海洋廃棄プラスチック問題など島国が抱える環境問題について活発な議論が行われました。

また、オリンピックの背泳選手であったドミニカの選手団団長のウディ氏は、地元小中学生のバレーボールチームと一緒に、ビーチでのバレーボールを行うなどして交流を深めるとともに、町長室を訪問し、東京2020大会に向けた意見交換等を行いました。

■パネル② <A1サイズ>

東京2020 オリンピック・パラリンピック ホストタウン交流
沖縄県那覇市・与那国3町×カリブ3か国
知名町 × グレナダ

beyond 2020
ホストタウン

Welcome Ceremony

『野外ライブ&環境島サミット』

グレナダの若手トップシンガー「ヴァウン」は仲間の子供たちとともに2度目の来島となり、歓迎の記念野外ライブを実施。子ども達から大人まで多くの島民の方々が来場し、みんなで歌い・踊り、会場であるエラブコは熱気で包まれました。

また、グレナダオリンピック委員会のノエルさんと知名町のアドバイザーに就任いただいたヘイリーさん（日本在住）が参加した島サミットでは「海洋ゴミ問題」や「サンゴ礁の保全」など相互に共通する環境問題について活発な意見交換が交わされました。

■パネル③ <A1サイズ>

東京2020 オリンピック・パラリンピック ホストタウン交流
沖縄県那覇市・与論島3町×カリブ3カ国

beyond
2020
ホストタウン

与論町 × アンティグア・バーブーダ



『こども園交流&サッカー・ビーチツアー』

アンティグア・バーブーダ、ドミニカ、グレナダの選手団団長等がハレルヤこども園を訪問。こどもたちによる踊りや歌の披露がなされ、館内はこどもたちの元気な声と大人たちの感動の声に包まれました。

また、アンティグア・バーブーダのオリンピック委員会のジョエルさんと親善大使のホリスさんは、与論中学校サッカー部とのサッカー交流を行ったほか、民族村（体験型古民家施設）を訪問。最終日には、ゲスト全員で百合ヶ浜を視察。ゲストは、その海的美しさに感嘆の声を上げていました。





■ポスター① <A0サイズ>



「音楽」で、
わかりあおう。

ホストタウン交流は、スポーツに加えて、様々な文化を対象とした国際交流を推進しています。そのモデルケースのひとつとして、トリニダード・トバゴから「スティーヴン・パイン」のアーティストを招聘、日本各地を回り、様々な交流イベントを実施しました。

「スティーヴン・パイン」は、中米・カリブ地域の音楽文化を代表する楽器のひとつです。リズムとメロディによって作られるその音楽は、日本の音楽文化とも相性が良いとされています。今回は、土佐の伝統的な踊りである「よさこい節」とのコラボレーション。そして、日本の学生吹奏楽団との共演ステージを実施しました。

「音楽は通じなくても、わかりあえる。」

「音楽」は、ホストタウン交流のキーワードのひとつです。

SUPER YOSAKOI 2019 / TOKYO・スーパーよさこい 2019



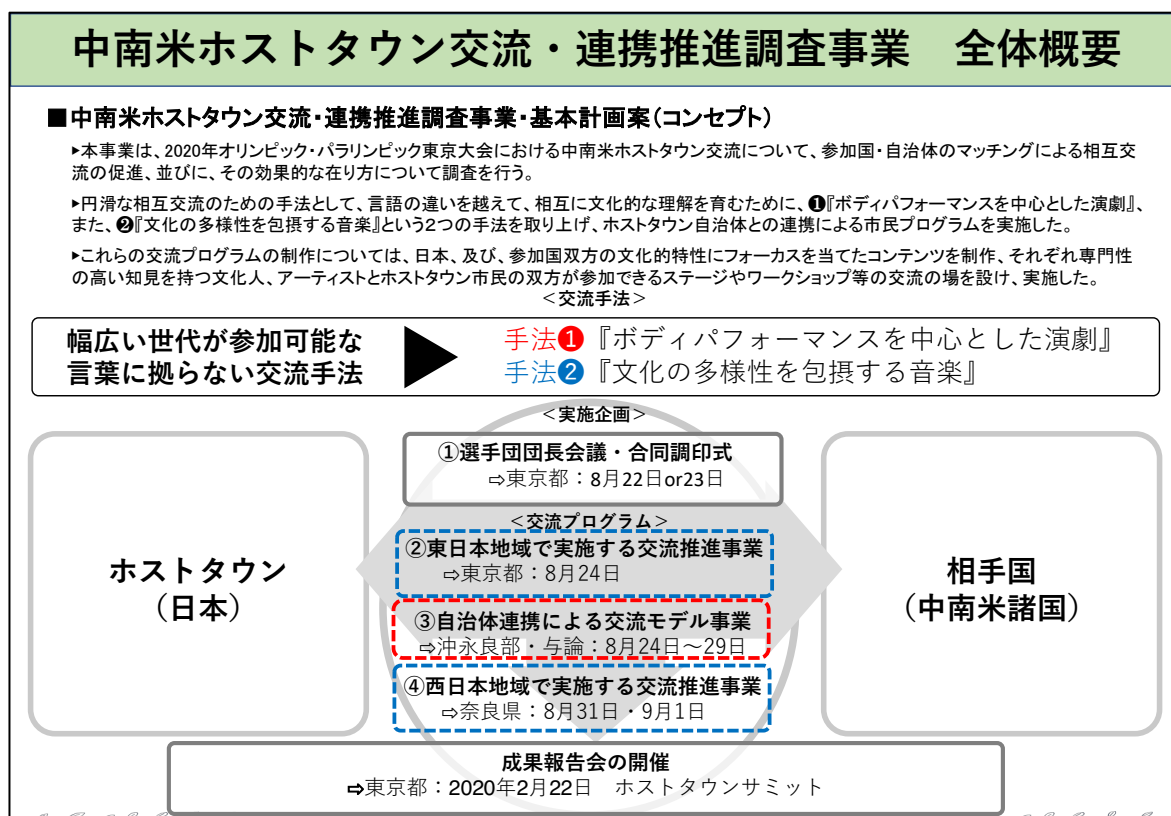
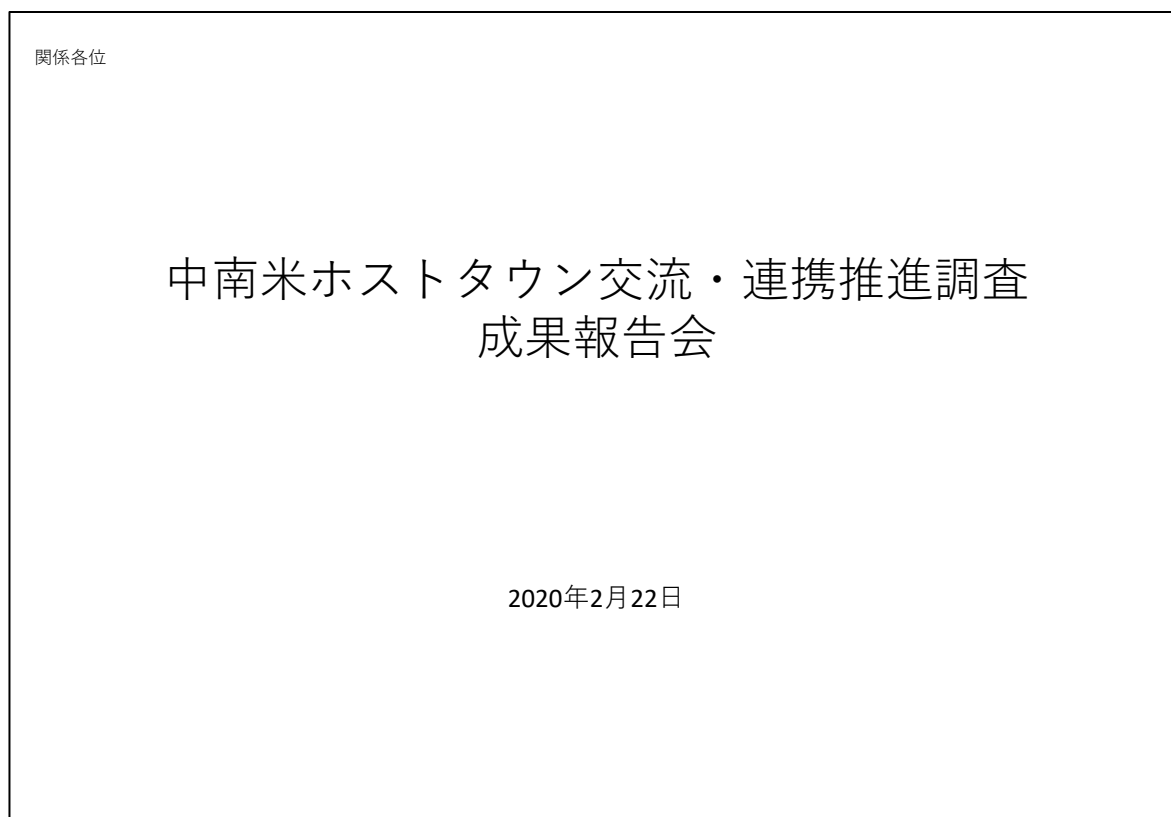
KASUGANO MUSIC FESTIVAL 2019 / NARA・春日野音楽祭 2019



中南米ホストタウン交流・連携推進調査

③ 成果報告会資料

特徴あるホストタウン活動を実施している自治体の事例や課題を共有し、各自治体の今後の活動の一助としてもらうため成果報告をまとめた資料を作成した。



① 選手団団長会議・合同調印式



中米7カ国とホストタウン自治体との合同調印式

- 1 日程 令和元年8月22日（木）16:00～17:15
- 2 場所 ホテルニューオータニ 翠鳳の間
- 3 参加自治体、参加国・地域
 - (1) 参加自治体
福島県伊達市、奈良県田原本町、鹿児島県天城町、群馬県甘楽町、愛知県幸田町
愛媛県松野町、新潟県小千谷市 の各首長
 - (2) 参加国・地域
ガイアナ、グアテマラ共和国、セントクリストファー・ネービス、
ニカラグア共和国、ハイチ共和国、英領バージン諸島、米領バージン諸島
- 4 概要
団長会議の機会を利用して、中南米地域において、6～7月にホストタウン登録したニカラグア共和国及びガイアナの2カ国に加え、8月に登録を予定していた5カ国地域を含めた7カ国のNOC会長や大使、選手団団長、ホストタウン自治体の市長・町長、副町長を招いた合同調印式を実施。各国地域及び各市町から、ホストタウン交流に対する思いなどについてご発言頂いた後、各ホストタウン自治体から歓迎のプレゼントがなされた。

② 東日本地域交流推進事業 ～中米6カ国のNOC会長・選手団団長とトリニダード・トバゴ大学スティールパンバンドチームによるカリビアン風よさこいイベントの実施～



カリビアン風よさこいの実施結果概要

- 1 日程 令和元年8月24日（土）～25日（日）＊踊りは24日19：00～19：10
- 2 場所 代々木公園
- 3 参加国・地域、団体
 - ①：UTT PAN PHOENIX(UTTパン・フェニックス) トリニダード・トバゴ国立大学5名
 - ②：関東圏内スティールパン演奏者（約15名）
 - ③：スーパーよさこい出演チーム（国士舞双・踊り子約30名）
 - ④：団長会議に來日する相手国訪問団の関係者
参加国：アンティグア・バーブーダ、ガイアナ共和国、グアテマラ共和国、グレナダ、ドミニカ、米領バージン諸島、の6カ国・地域
 - ⑤：当日参加踊り子のみなさん（車イスでの参加者含む100名程度）

4 概要

スーパーよさこいにおいて、中米の祭り文化と日本の祭り文化の融合例として、本場トリニダード・トバゴ国立大学のスティールバンドと関東圏のスティールパン演奏者によりよるスティールパンのリズムに乗って、国士舞双を中心としたよさこいチームの踊り子たちが、よさこい正調を踊った。ステージには、カリブ中米地域から、選手団団長会議等に出席したオリンピック委員会関係者や大使、グレナダの歌手など総勢20名弱の中米カリビアンが参加。カリブを代表する音楽の一つである「スティールパン」と日本の伝統的な祭りのひとつである「高知・よさこい祭り」の融合による国際文化交流を実施。また、会場ブースでは、ホストタウンの取組情報の発信と、スティールパン教室等を開催。

■東京都「原宿表参道元氣祭スーパーよさこい 2019」

8月24日(土)・25日(日)

2019年8月24日・25日開催される「原宿表参道元氣祭スーパーよさこい 2019(以下、スーパーよさこい)」は、原宿地域商店街の連帯と復興を目的として2001年から開催されているイベント。

本事業では、スーパーよさこいにおいて、中南米を代表する打楽器「スティールパン」の演奏者をトリニダード・トバコ国立大学から招聘し、関東圏のスティールパン奏者そして国内よさこいチームを中心とした踊り子たちによる合奏形態の「総おどり」を制作。8月24日に実演した。

また、24日、25日とブースを出展。来場者にスティールパンを体験して頂いた。

トリニダード・トバコで生まれた「スティールパン」と日本の伝統的な祭りのひとつである「高知・よさこい祭り」の融合によるコミュニケーションによる国際文化交流が行われた。



【スーパーよさこい・実施企画構成案】

- 催事名称 : 原宿表参道元氣祭スーパーよさこい 2019
- 開催期日 : 2019年8月24日(土)・25日(日)
- 主催者 : 原宿表参道元氣祭実行委員会
商店街振興組合原宿表参道樺会
- ステージ : 8月24日(土)代々木公園メイン会場ステージ
- ブース出展 : 8月24日(土)・25日(日)

<出演者>

- 出演者① : UTT PAN PHOENIX(UTTパン・フェニックス)
※トリニダード・トバコ国立大学より来日、演奏者5名
- 出演者② : 関東圏内スティールパン演奏者(約15名~予定)
- 出演者③ : スーパーよさこい出演チーム
※国士舞双・踊り子約30名予定)
- 出演者④ : 団長会議に来日する相手国訪問団の関係者
- 出演者⑤ : 当日参加踊り子のみなさん(車イスでの参加者含む)

<ステージ>

8月24日(土) メイン会場

- 19:00頃予定 出演者①②③共演+α
- 代々木ステージ12分間の演奏
- 総おどり・制作コンセプト
高知よさこい祭で、昔から踊りつがれた伝統な踊りである「よさこい正調」を中心とした振付し、トリニダード・トバコ大学スティールバンド「UTT PAN PHOENIX」が編曲&音源制作を担当し、スティールパンの音色とカリブのリズムを加えカリブ風に編曲アレンジする。そして、日本のスティールパン奏者や踊り子、相手国訪問団関係者などの参加により、祭と音楽の融合による国際文化交流のステージとする。

<出展ブース>

8月24日(土)・25日(日) メイン会場内1コマ(18㎡相当)

- ④パネル展示 A1/パネル6枚(新規作成)
※ホストタウン交流事業についての紹介パネルなど展示。
- ⑤映像展示 42インチモニター展示
※『スティールパン』関連映像を上映予定。

よさこい総踊り 「よさこい×スティールパン×中米6カ国in表参道」





③ 自治体連携によるホストタウン交流モデル事業 ～カリブ3カ国／沖永良部島・与論島3町との連携交流～



③ 自治体連携によるホストタウン交流モデル事業

1. 事業目的

沖永良部島（和泊町・知名町）と与論島（与論町）は南西諸島に位置する外界離島であり、日本の自治体の中でも最もアクセスの難しい地域の一つであるが、同じく、ドミニカ国、グレナダ、アンティグア・バーブーダもカリブ海に浮かぶ離島であり、環境や抱える課題において親和性の高い地域であり、その一方で、互いに独自の歴史・文化を育んできた地域でもある。

そうした中、共通性を持ちながらも、一方で、歴史・文化や言語、身体的特徴が大きく異なる人々が交流することは、ダイバーシティへの気付きを誘発することにつながる。それによって、互いの創造性や主体性を刺激し、文化・環境保全等の各分野で新たな発見・発展を促すことを企図する。

一つの例として、植民地支配と複雑な歴史的背景から、中米カリブ地域における文化の一つとして発達してきたスティール・パンなどと、沖縄と本土の狭間において独自の発展を遂げてきた三線やヤッコなどの伝統舞踊が重なり合い、交流することで、文化的な化学反応を惹起することを期待する。

また、ネイチャーアイランドと呼ばれ、環境負荷に自覚的なドミニカ国では、2019年から使い捨てプラスチック製品の販売を禁止するなど、環境保全に向けた先進的な取組を行っている。一方で、沖永良部島では官学連携による海岸漂着ゴミ、プラスチックゴミの回収・分析に関する研究を進めていくこととしている。また、サンゴ礁の海が重要な観光資源である

与論島はサンゴの白化に悩まされており、サンゴ礁生態系保全計画の取組を実施している。これらは一部の例だが、ホストタウン交流を一つのきっかけとして、地域独自の課題と取組、さらには将来の展望について意見交換を進めていくことで、資源の有限性を抱えた外界離島の地域として、特に取り組んでいくべきSDGsの理念に立脚した政策的な意見交換を継続していくことにもつながり、オリンピック・パラリンピック大会を越えたレガシーとなり、互いの持続的な成長・発展に寄与することを期待する。

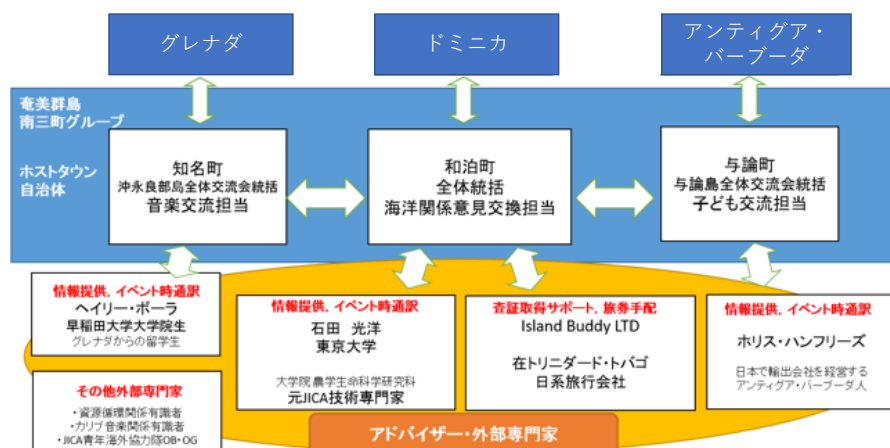
③ 自治体連携によるホストタウン交流モデル事業

2. プロジェクトの概要

本事業の実施にあたり、3町・3カ国の全体での交流と、ホストタウン同士（和泊町ードミニカ国、知名町ーグレナダ国、与論町ーアンティグア・バーブーダ）での個別交流の2部構成で交流を行った。

具体的には、各町を周遊し、琉球のさつまの文化が融合した、歴史文化、観光資源を紹介し、東京や京都といった、外国人が抱く、いわゆる「日本」の表象と異なる奄美群島の独自の地域性を肌で感じてもらい、今後の交流にどういった資源を活かしていくことが出来るのか、交流を通じて検討を行った。

実施スキームは以下の通り。



『環境島サミット＆ビーチアクティビィ』

島サミットでは、グレナダ、ドミニカのオリンピック委員会関係者や海洋資源の専門家と環境問題に取り組む学識経験者や市民小中学生が参加し、海洋廃棄プラスチック問題など島国が抱える環境問題について活発な議論が行われた。

また、オリンピックの背泳選手であったドミニカオリンピック選手団団長のウディ氏は、地元小学生のバレーボールチームと一緒に、ビーチでのバレーボールを行うなどして交流を深めるとともに、町長室を訪問し、東京2020大会に向けた意見交換等を行った。



『野外ライブ＆島環境サミット』

グレナダの若手トップシンガー「ヴァウン」は仲間のボーイズとともに2度目の来島となり、歓迎の記念野外ライブを実施。子ども達から大人まで多くの島民の方々が来場し、みんなで歌い・踊り、会場であるエラブコは熱気で包まれた。また、グレナダオリンピック委員会のノエルさんと知名町のアドバイザーに就任いただいたヘイリーさん（日本在住）が参加した島サミットでは「海洋ゴミ問題」や「サンゴ礁の保全」など相互に共通する環境問題について活発な意見交換が交わられた。



『こども園交流&サッカー・ビーチツアー』

アンティグア・バーブーダ、ドミニカ、グレナダの選手団団長等がハレルヤこども園を訪問。こどもたちによる踊りや歌の披露がなされ、館内はこどもたちの元気な声と大人たちの感動の声に包まれた。また、アンティグア・バーブーダのNOCのジョエルさんと親善大使のホリスさんは、与論中学校サッカー部とのサッカー交流を行ったほか、民族村（体験型古民家施設）を訪問。最終日には、ゲスト全員で百合ヶ浜を視察。ゲストは、その海的美しさに感嘆の声を上げていた。



言葉に頼らない交流モデル～島唄&ボディーパフォーマンス～

Nonverbal Communication : 合同ウェルカム・セレモニー

『島唄&ボディーパーカッション』



セレモニーでは、地域の伝統文化の一つである「島唄」を基調としたボディーパーカッション、タップダンスなどを取り入れた音楽ワークショップを実演、劇団スーパー・エキセントリック・シアターの指導のもと、子どもたちを中心とした島の人々と各国の関係者による言葉の壁を越えた交流を行いました。

和泊、知名、与論の3町は、ドミニカ国、グレナダ、アンティグア・バーブーダのカリブ3ヶ国のホストタウンとして、それぞれが事前合宿の受け入れや交流事業を推進しています。2019年8月には、ホストタウン交流のスタートを記念して、3町合同によるウェルカム・セレモニーおよび島内視察ツアーを開催しました。



言葉に頼らない交流モデル～島唄＆ボディーパフォーマンス～

■鹿児島県「SET演劇ワークショップ」 8月23日(金)～26日(月)

中米3カ国のホストタウンである鹿児島県の知名町(グレナダ)、和泊町(ドミニカ国)、与論町(アンティグア・バーブーダ)の3町町民と、相手国関係者との相互交流の一つとして、自分の体を使ってリズムを刻むボディーパーカッションとTAPダンスと演劇の手法を使い、かつ奄美諸島の伝統楽器奏者も交えて1つの小作品を作り出し、言葉を超えた一体感を作り出します。

日本を代表する演劇集団「スーパー・エキセントリック・シアター(SET)」が本企画の制作、及び、演技指導を行います。SETは、2017年、2018年と与論島において島言葉保存のため、地元の知的財産(伝説、伝統的な踊り)を演劇に取り込みながら現代劇を市民劇として上演しています。その実績を踏まえ、音楽とパフォーマンスから構成される言葉に拠らない演劇手法による相互コミュニケーション型のワークショップを実施いたします。

本企画では、そんな体と音での対話による参加型の小作品を作り上げ、地域主体のホストタウン交流事例とすべく実施いたします。

- 催事名称 : SET演劇ワークショップ(仮称)
- 開催期日 : 2019年8月24日(土)～26日(月) 3日間 予定
- 主催 : 鹿児島県知名町、和泊町、与論町(3町合同)
- 制作・監修 : スーパー・エキセントリック・シアター
- 実施企画 : 右図参照ください。

■アンケート・調査概要

- 調査日程 : 8月24日(土)・25日(日)・26日(月)
- 調査対象者 : ワークショップ参加者・関係者
- 調査手法 : ワークショップ参加者・関係者に対してアンケート用紙への記入を依頼し、回収
- 調査内容 : ①ホストタウンの認知・理解度
②交流モデル事業の評価
③属性
- 目標サンプル数 : 述べ100件

【SET演劇ワークショップ・実施企画構成案】

<出演者>

- 参加者①: 鹿児島県・知名町、和泊町、与論町の市民(00名程度)
- 参加者②: グレナダ、ドミニカ国、アンティグア・バーブーダ訪問団
- 参加者③: スーパー・エキセントリック・シアター(指導員を兼ねる)
 - ▶ボディーパーカッション講師 : 白土直子
 - ▶TAPダンス講師 : 江波戸英史、他、劇団員4名
 - ▶監修 : HIDEBOH



白土直子



江波戸英史



HIDEBOH

<実施スケジュール>

※ワークショップ4回＋発表会1回の開催

- 8月23日(金) 与論島入り
- 8月24日(土) 与論島会場
WS①と与論町にてワークショップ
- 8月25日(日) 沖永良部島会場
沖永良部に移動
WS②和泊町、WS③知名町にてワークショップ ※②③合同
- 8月26日(月) 沖永良部島会場
WS④3町と相手国訪問団とのワークショップ
◎3町合同で成果発表会

④ 西日本地域交流推進事業 ～春日野音楽～

■奈良県「第4回春日野音楽祭」 8月31日(土)・9月1日(日)

「春日野音楽祭」は、2015年10月、春日大社の第60次式年造替を記念して開催され、以降、毎年実施されている市民音楽祭です。かつてシルクロードの終着点であった奈良は、世界各地の音楽・芸能が集う音楽の都としての一面を持っています。春日野音楽祭は、様々な音楽ジャンルを包含する音楽祭であり、プロからアマチュアまで音楽を愛する多様な世代の参加により構成されています。

本事業では、本年8月31日及び9月1日の2日間に亘って開催される第4回春日野音楽祭において、トリニダード・トバコ共和国で生まれた打楽器スティールパンの演奏者として5名のトリニダード・トバコ国立大学の学生5名を招聘し、奈良側のホストバンドである奈良教育大学吹奏楽部(予定)との共演による交流型ステージの実施、また、テントブースではスティールパン体験を中心としたワークショップを開催。グアテマラのホストタウンであり、能楽発祥の地である田原本町の子どもたちとの音楽交流や、春日大社に保存されている世代最古の太鼓(国宝)の見学などを通じて、音楽という非言語性のコミュニケーションによる国際市民交流を図りました。

- 催事名称 : 第4回春日野音楽祭
- 開催期日 : 2019年8月31日(土)・9月1日(日) 2日間
- 来場者数 : 約20,000人～25,000人(2日間)
- 主催者 : 春日野音楽祭実行委員会
- 協力 : 奈良教育大学吹奏楽部ウインドアンサンブル(共演)
春日大社
田原本町・伝統文化を次世代につたえる会
- ステージ : ①8月31日(土)メイン会場・オープニングステージ
②9月1日(日)まちなか会場・近鉄奈良駅前特設ステージ
- ブース出展 : 8月31日(土)・9月1日(日)
※ 中南海地域ホストタウン及び登録自治体のパネル紹介。
※ ブース内ワークショップ実施
- 実施企画 : 右図参照ください。

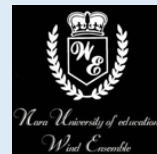
【春日野音楽祭・実施企画構成案】

<出演者>

- 出演者①: UTT PAN PHOENIX(UTTパン・フェニックス)
- ※トリニダード・トバコ国立大学より来日、演奏5名＋指導1名
- 出演者②: 関西圏在住国内スティールパンバンド
- 出演者③: 奈良教育大学吹奏楽部ウインドアンサンブル



UTT PAN PHOENIX



奈良教育大学吹奏楽部

<実施スケジュール>

- 8月30日(金) 合同リハーサル
午後 奈良教育大学吹奏楽部とのリハーサル交流
- 8月31日(土) メイン会場
11:00～12:00 オープニングステージ ※①②③共演
午後 ①田原本町・伝統文化を守る会とのワークショップ
※能楽を学ぶ地元子どもたちとの体験交流会
②UTT学生向けプログラム春日大社国宝殿見学
※鼈太鼓(雅楽器)
- 9月1日(日) まちなか会場
11:00～11:30 近鉄奈良駅前特設ステージ ※①と市民交流のステージ

④ 西日本地域交流推進事業 ～春日野音楽祭～



第4回春日野音楽祭 メインステージ



奈良教育大学吹奏楽部との合同リハーサル



スティールパン・ワークショップ



8月31日はトリニダード・トバコの独立記念日



スティールパンを通じた国際文化交流

④ 西日本地域交流推進事業 ～春日野音楽祭～



田原本町・伝統文化を次世代につたえる会による能楽ワークショップ



春日大社・国宝殿「鼙太鼓」見学（通訳は田原本町の中学生ボランティア）



近鉄奈良駅前・まちなかステージ



市民音楽祭への参加



春日大社参拝（二の鳥居）

④ 西日本地域交流推進事業 ～春日野音楽祭～

春日野音楽祭会場構成：シルクロードの終着点「国際都市・奈良」の景観を俯瞰する会場デザイン

かつて奈良は、シルクロードの終着点として、様々な文化が集まる国際都市でした。多種多様な異国の文化は、奈良で出逢い交流し、そして日本各地へと伝わっていきます。特に、音楽や芸能といった文化は、言葉が必要としないものであることから、その違いを超えて自由に交流し雑り合いながら、人々の暮らしのなかに浸透していきました。このような異文化に対する寛容性や進取の気質は、奈良を起点とした日本文化の特長でもあり、それは現在に受け継がれている。

春日野音楽祭は、JR奈良駅と春日大社御本殿を春日大社表参道に沿って、ピスタラインに大小様々なステージを配置している。

そこかしこで演奏される音楽に誘われて、この街を歩くことで、奈良の歴史を楽しみながら体感することができる。そんなユニークなゾーニングにより、奈良市民の人々、そして、国内外から訪れる観光客の方々と共に、賑わいに溢れた新しい時代の奈良を表現することが狙い。



春日野音楽祭・会場ランドスケープ「音楽を楽しみながら奈良の歴史を体感するゾーニング」

【メインゾーン】	【まちなかゾーン】	【特別奉納ゾーン】
■浮雲園地メイン会場 ▶オープニング「シルクロード」 ▶フィナーレ「市民大合唱・大合唱」 ▶春日野マルシェ ▶音楽ワークショップ	■まちなか音楽のシルクロードステージ ▶8ヶ所のミニステージ配置 ▶一般公募100組による演奏 ▶その他、関連ブース	■林檎の庵特別奉納演奏 ▶最も本殿に近い神聖な場所 ▶日本一格調の高い奉納演奏の舞台

＜メインステージ＞ ◆浮雲園地大ステージ ◆JR奈良駅前広場ステージ ◆旭水公園ステージ ◆近鉄奈良駅前広場ステージ ◆猿沢池ステージ
 ＜まちなかステージ＞ ◆登大路園地ステージ ◆奈良国立博物館ステージ ◆春日大社参道ステージ ◆二之鳥居前車舎ステージ

会場ランドスケープ



成果報告会が中止となったため、出席予定であった中南米ホストタウン交流・連携推進事業に参加したキーパーソンに対し、成果報告会資料を送付した上で、事業の効果及び課題等について聞き取りし、以下の通りとりまとめた。

④ 事業の効果

- 中米各国およびホストタウンがその存在を認識し、連携推進に対する理解が高まったこと。これにより、受け入れ側の心構えおよび受け入れられる側の体制に変化が生じた。特に受け入れ側の効果として、市町村および小中学校とその父兄が一体となり推進事業に取り組む様子が顕著に表れている。その中で、特に子供たちの国際理解度が高まった切っ掛けと位置付けられる。
- 受け入れられる側の中南米各国は、受け入れ側の準備に心を打たれると共に、異国の地日本でのオリパラおよび推進事業の日本の本気度に理解を深めている。
- スポーツや文化の交流が進み、機運醸成が進んだ。
- 海に囲まれた離島地域同士ならではの環境課題とそれに対する取り組みや暮らし方について、事例紹介や意見交換を行い、SDG s 推進に向けた取り組みが進み、スポーツ・文化交流にとどまらない波及効果が見られた。
- ホストタウン国の関係者が訪問することにより、住民との交流やライブの開催により、相手国の文化を知り・触れることにより機運醸成が図れたように感じられた。
- 子供たちの中でも話題となり、相手国について調べることに繋がった。また、学校給食でも相手国の料理の提供を実施するなど広がりを持てた。
- 相手国関係者が来島することにより、町民への周知、関心を引くことが効率的に行えた。

- 子供たちと交流を行うことにより、子供から家庭へのホストタウン活動の発信が広がった。
- 本番の大会交流に向け、町内の機運を盛り上げることができたこと、言葉が通じなくても気持ちを通じ合えることが住民の皆様にも実感頂いたことは、来年の大会後交流に向け非常に大きなはずみになった。
- 同じ島国ということで共通する課題について議論できたことは、今後の末永い交流の基礎となる。
- 言葉に頼らなくてもお互い通じ合える「ボディーパーカッション」のような交流手法は、海外との交流に有効だと感じた。
- 島の子ども達のボディーパーカッションの吸収が早く、恐らく初めて触れる分野なのに壁を作ることなく和気あいあいとスムーズにワークショップを行えたことは、この交流手法の有効性を裏付けている。カリブの方たちとのコラボでは、とても気さくな方たちで子供たちとあっという間に打ち解けてくださり、楽しそうにパフォーマンスしていただけた。子供たちは一緒に写真を撮ったり、通訳の方を介して話をしたり、コミュニケーションの第一歩という意味では、役割を十分に果たせたのではないかと実感した。
- スーパーよさこい2019の観客からは、初日の踊りの中では、最もパッションのある魅力的な演目だったとの評価があるとともに、スティールパン×よさこいに参加した踊り手からも、来年もぜひ参加したいとの声が多く寄せられた。外国の祭り文化とのミックス交流は、多くの方々を刺激したプログラムであることを再認識した。
- スティールパンの音色は奈良の音楽祭の中で異彩を放っており、多くの聴衆者を魅了していた。スティールパン講習も、少しの練習で心地よい音楽が鳴らせるもので非常に親しみやすい楽器であることを感じた。スーパーよさこい2019では、中南米諸国の選手団の方々がフラッグを振って参加していたが、各国の方々もかなり興奮されていたようで、オリンピック・パラリンピック感が出ていて非常に良かった。
- トリニダード・トバゴ大学の PAN PHOENIX の初来日、また、カリブ海のカーニバル文化と日本を代表する祭りの音楽と踊りを通じ、言葉の壁を超え、互いの文化を共有できるコラボレーションを実現したことは、現場で実際に体験した者に国際文化交流の現場だけではなく、それぞれの参加者が自身の体験談として、その後の SNS や周囲への談話などを通じて、その熱気を伝えていくという効果もあった。
- また、オリンピックパラリンピックへの熱量が増し、それぞれを身近に感じさせることができた国際交流となった。
- スティールパンという世界で一番新しいアコースティック楽器を用いたエコな取り組みは、多くの幅広い層の市民の心を魅了し、ホストタウンの取り組みの認知にもつながった。
- これらの交流を見た中南米諸国の他国からもこのような国際交流を行ってみたいと、連絡をいただいた。
- ワークショップの準備段階においては、相互理解を育みながらひとつの表現イベントとしてまとめあげる作業を行ったが、当初は双方の文化的背景や生活感情の違いから意思の疎通に苦慮し、誤認や連携ミスなども多く散見されたが、音楽祭直前に現地（奈良）で行ったリハーサルの中かで、それらのほぼ全てが解消されたことは、やはり音楽の持つコミュニケーション力によるところが大きいと思われる。
- ホスト側（日本）の参加者にとって、スティールパンという楽器の実現に触れる機会はそう

多くないが、その独特の音色の魅力、また、演奏楽曲のバランス（ワールドワイドな曲、日本のヒット曲、T Tのヒット曲）を取ることによって、双方のコミュニケーション速度を上げる効果があった。また、伝統文化を守る会の子どもたちは、当地を発祥の地とする日本の能楽の演舞をT Tの学生たちに披露したが、ここでもスティールパンと和太鼓という共通の打楽器という文化が、双方の好奇心や興味の橋渡しの役割を担っていた。

- 実施したワークショップは、いずれも市民音楽祭という地域の催事のなかでの公開イベントとなったが、地域住民にとっても音楽は親しみやすく、国際交流のハードルを下げる効果が高いことは実証されたと考えられる。
- 今回は、ワークショップを実施したイベント会場が、音楽や芸能といった文化コンテンツを活かしやすい環境であり、このような実施場所の特長も、世代や国境を越えた（言葉によらない）国際交流の促進と相性が良かったということが挙げられる。

⑤ 課題

- 沖永良部周辺の離島の場合について述べるが、一番の課題は、東京からの往復やその間の食事や荷物などロジのことである。中南米の人柄か、時間通りに動かない人がいるなかで、日程的に余裕がない移動は困難を極めると思慮される。バックアップ体制を考えておく必要がある。
- ホストタウンであることを知らない町民がまだまだおり、今後も継続して機運醸成を行っていく必要性を感じた。
- 自分の住む町がホストタウンになっていることを知らない町民も多い。
- 地球の反対側の遠い国であり、実際の行き来が難しいばかりか、時差があるため、今後の交流のあり方と、大会後にどうしたレガシーを残せるかが課題。
- 自町がホストタウンであることを知らない町民もまだまだ多いので、今後も継続的な情報発信などの必要を感じた。アドバイザーと連携し、相手国を知る機会の創出が必要と考える。
- 相手国との時差が13時間あるため、TV会議でのやりとりも困難であり、メールでのやり取りも中々厳しいものがある。
- 相手国との時間の感覚（細かいスケジュールに対応が困難な人が多い所等）の違いによる、スケジュール計画・管理の問題が解消できていない。
- 上記に加え13時間の時差で連絡のやり取りがタイムリーにできないことから、今後の重要な連絡の取り方についても課題が残っている。
- ボディーパーカッションについて、飛び入り参加した方でも、すぐ模倣してできるようなプログラムもあってよいと思った。
- ワークショップを経なくても通りがかりの人たちが飛び入りで参加できるようなものにしていき、初対面の人達がもっと気軽に簡単にコミュニケーションできるようなものを模索する必要も感じている。
- 各国の選手団団長は今回の沖永良部島、与論島の交流で、子供たちとに熱心にスポーツを教えていた。本番の大会後交流では、アスリートの特性を最大限発揮できるスポーツ要素をよ

り入れたプログラムをより検討すべきではないか。

- スティールパンとのコラボ演奏にあたっては、音源のキーの違いに気を付けるべきと改めて感じた。
- 短期間で、内容の濃い事業を多く進めたこともあるが、カリブ海の常識と日本の常識を埋めること、そして14時間の時差がハードルとなることを鑑みて、前もって予測やリスク回避を含めた、余裕のある工程を組むようにすべきである。
- 楽器や海外からの大荷物の運搬がとても大変だったため、次回からは余裕のある計画を立てさらにスムーズにしたい。
- 奈良では、吹奏楽部の担当者、PAN PHOENIX の責任者が直接話して楽譜の制作をしたいとの要望があったがこちらは一部実現できないところもあり、よりよい交流を行うため、よりスムーズなやり取りが必要と感じた。。
- 交流についての課題は、音楽を用いて言葉の壁を超える交流であったが、互いの国や文化のことをもっと説明する機会があればさらに互いの知識になる交流になった。互いとは、トリニダード・トバゴの学生は、もっと日本の伝統的な楽器に触れ合えてみたいと希望していたことや大学生とは演奏だけで何も交流がなかったので、互いを知る交流があってもよかったと考える。
- また楽器を体験した日本の方々にも、ボードでじっくり読むより、映像で紹介動画がある方が落とし込みやすいのではないかと考えている。

第3章. 成果のとりまとめ

1. 調査結果の概要

第2章「調査対象事業の実施結果」をもとに事業成果の分析を行い、2つの交流手法の評価、及び横断的分析による他ホストタウンへの展開等につながる示唆を検討する。

【調査結果の概要】

「ホストタウン」という言葉そのものの認知は、全体で半数弱の41%という結果となり、交流プログラムの参加者であることを前提とするとかなり低い数字となった。

その中で、女性に比べて男性の認知度が低く、また、特に10代・20代の認知度は20%前後と非常に低い結果となっている。

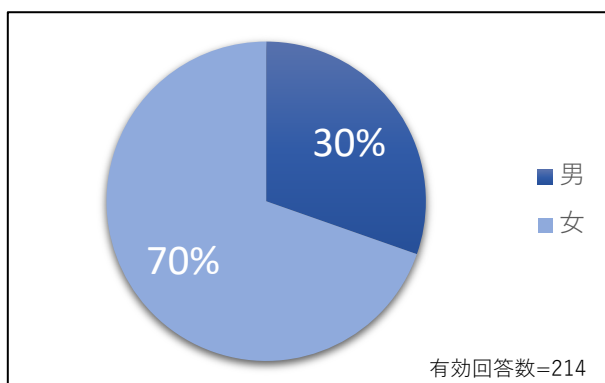
地元自治体のホストタウン登録についての認知は、全体でも2割程度の認知しか獲得できておらず、こちらもやはり女性に比べて男性の認知度が低く、また、特に10代・20代の認知度は10%以下と非常に低い結果となった。

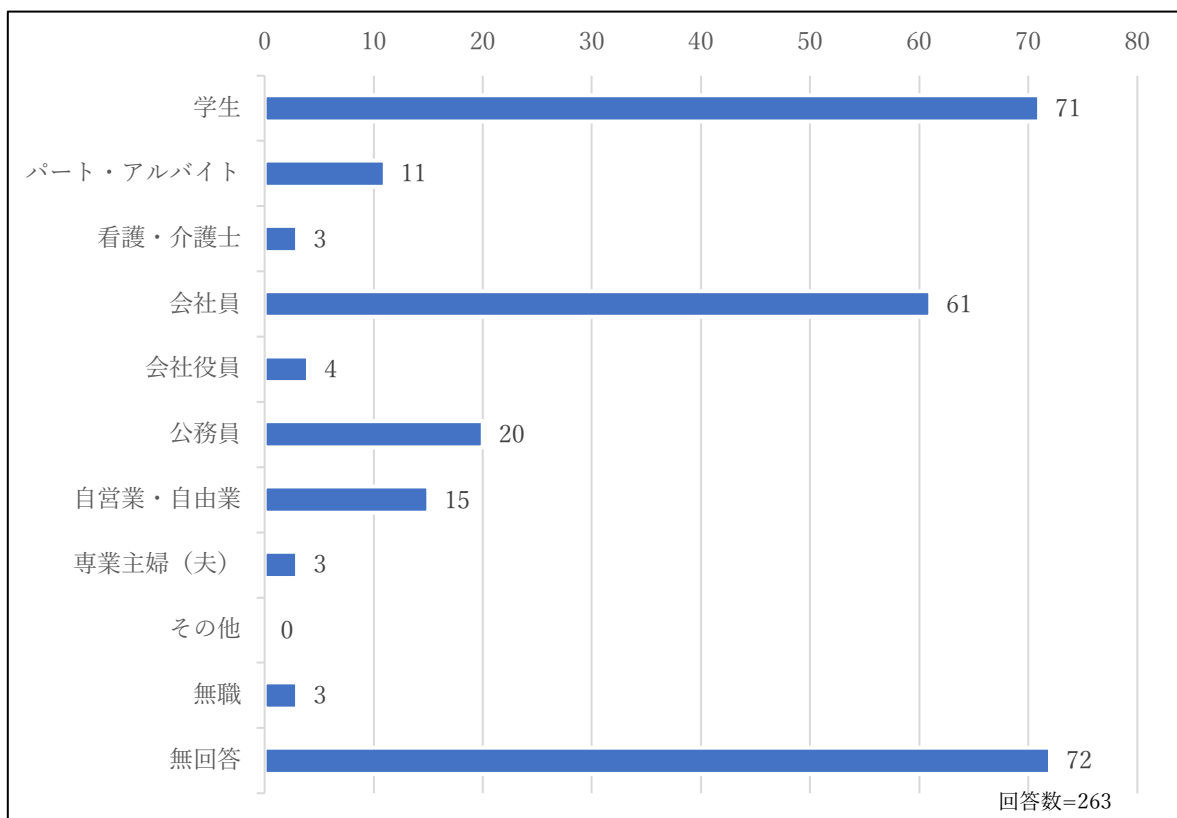
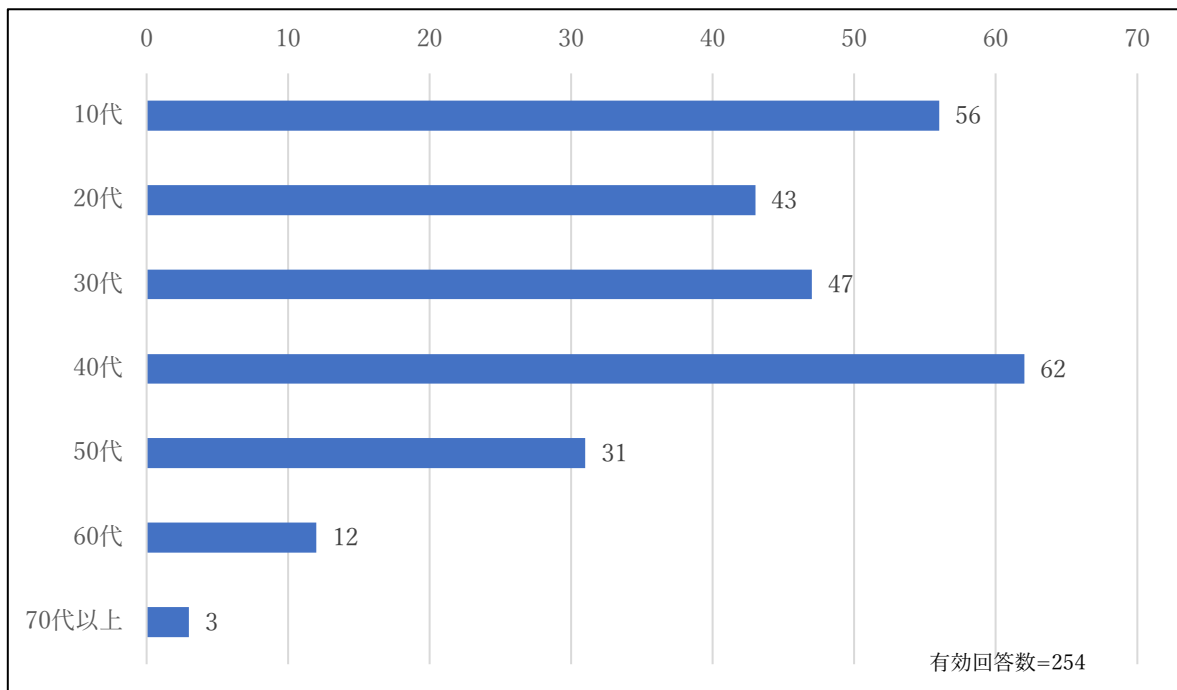
「ホストタウン」の必要性・有用性への理解については、アンケートからは今回の交流プログラム参加者にとっては概ね有意義な体験と捉えられており、相手国への好感度を高め、異国文化への興味関心を呼び起こし、さらに一歩踏み込んだ、より深い相互理解を求めるようになるという傾向が認められており、こうした交流プログラムを通じて「ホストタウン」の必要性・有用性への理解が浸透するものと期待できる。

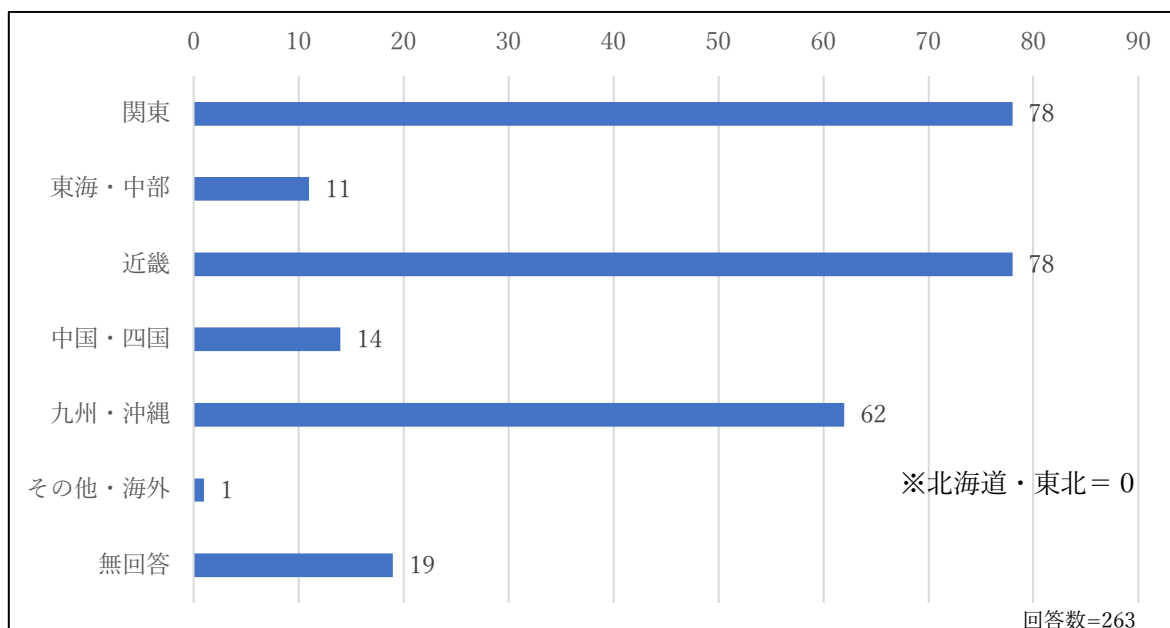
① 事業の効果 ＜全調査結果のまとめ＞

実施日程	令和元年8月24日（土）～9月1日（日）
実施場所	鹿児島県 和泊町・知名町・与論町（3町） 東京都 渋谷区・代々木公園 奈良県 奈良市（JR奈良駅～春日大社御本殿周辺エリア）
回収サンプル数	263件

＜調査サンプル・プロフィール＞



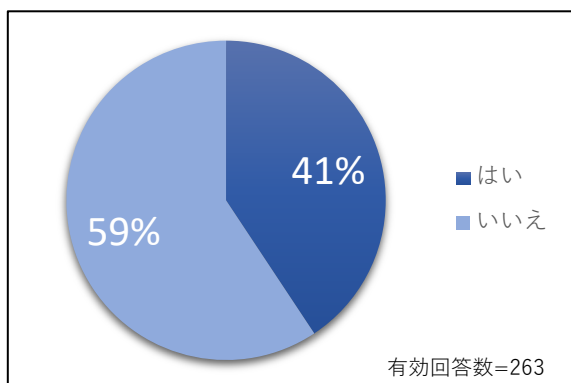




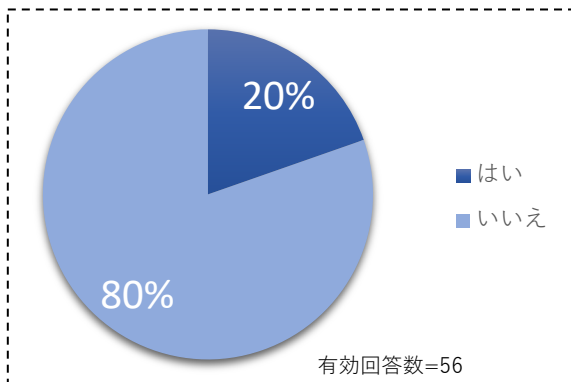
3ヶ所の調査を通じて得られたサンプルは、男女比において女性が7割とやや多く、世代・年齢的には小学生から青年・壮年層、中高年齢層までのサンプルが得られている。職業種別的には小学生を含む学生と会社員が半数を占め、無回答とされたサンプルには、調査時の立ち会い観察状況から一般の社会人や主婦、フリーター等が多く含まれていると推測できる。居住地については、各調査地点の周辺とスーパーよさこいに来場した高知県からのサンプルが多く含まれている。

<調査結果>

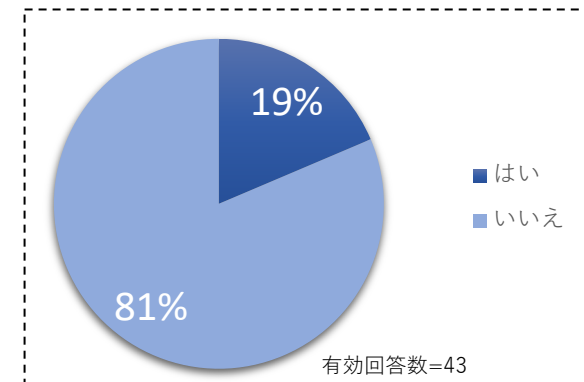
■「ホストタウン」という言葉の認知<全体>



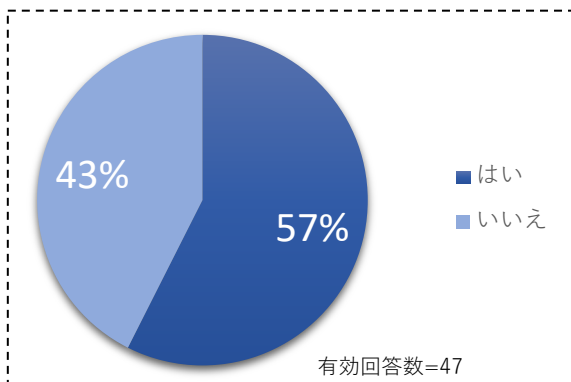
<10代>



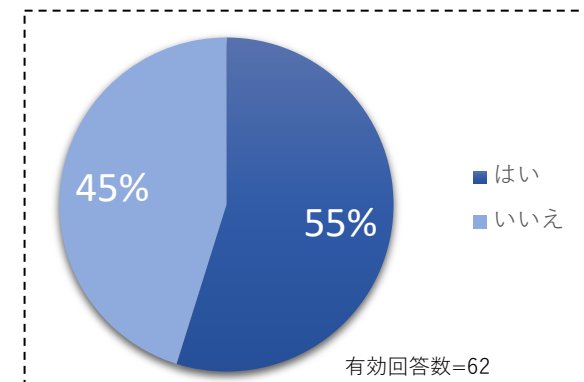
<20代>



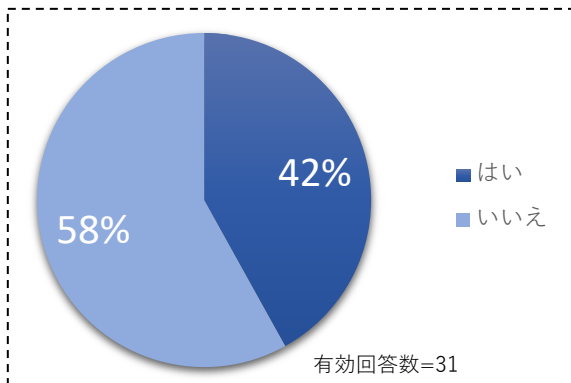
<30代>



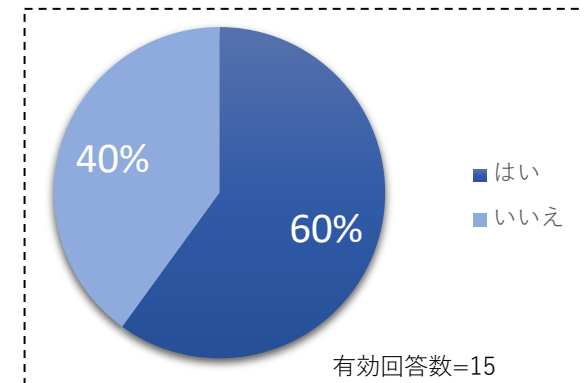
<40代>



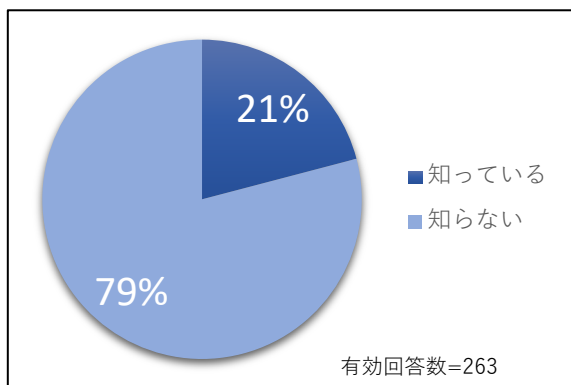
<50代>※参考



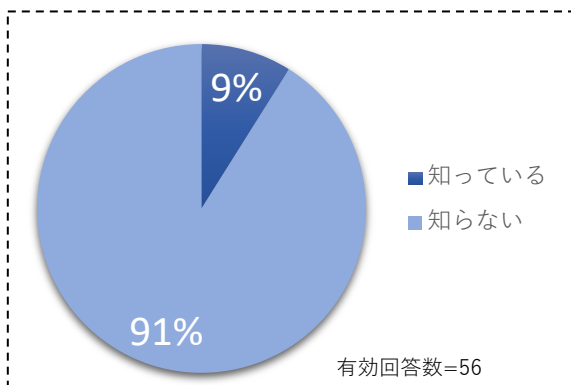
<60代以上>※参考



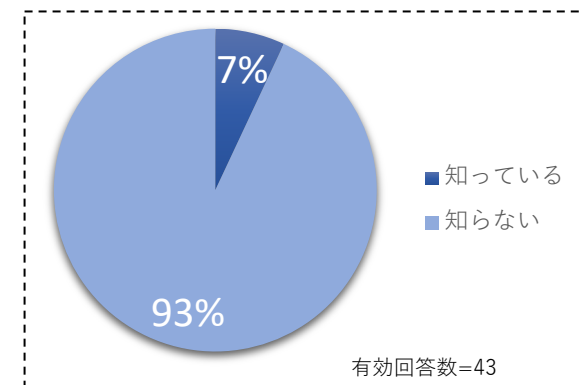
■地元自治体のホストタウン登録の認知＜全体＞



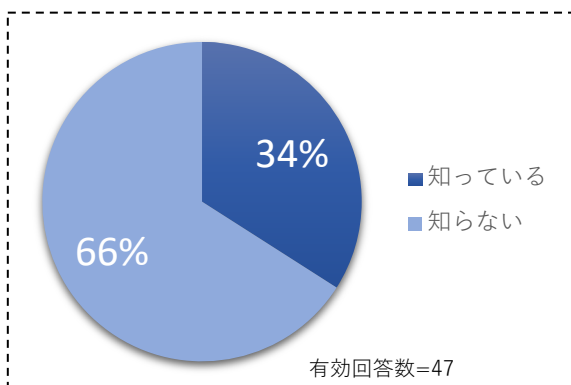
<10代>



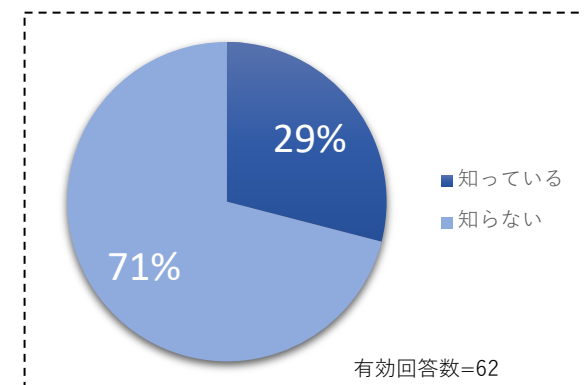
<20代>



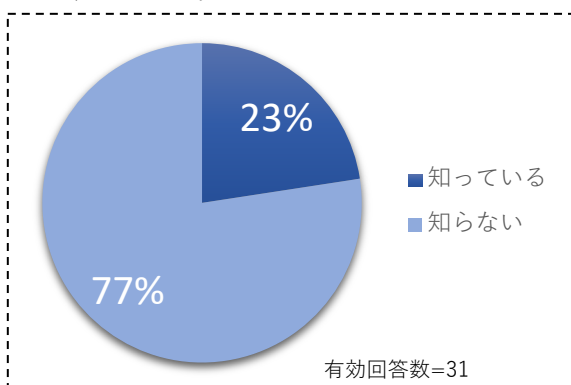
<30代>



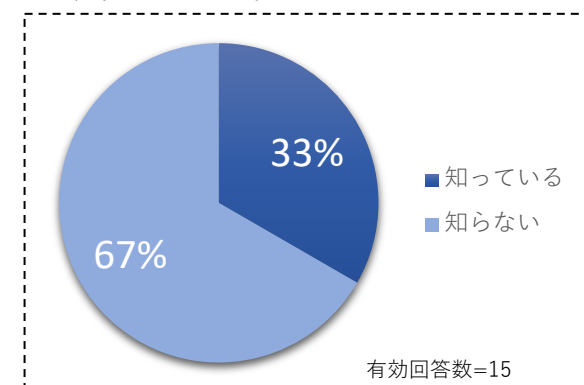
<40代>



<50代>※参考

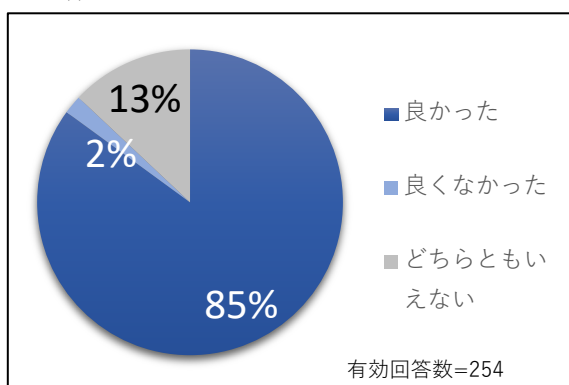


<60代以上>※参考

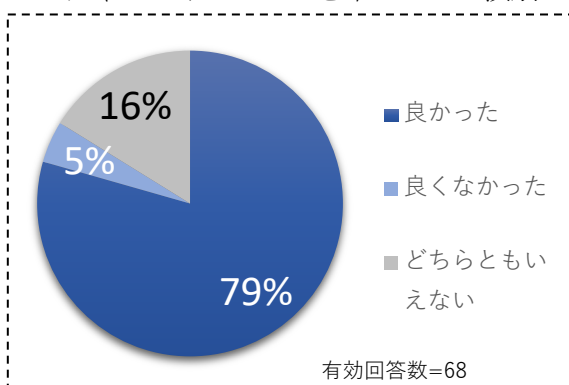


■体験した交流スタイルについての印象

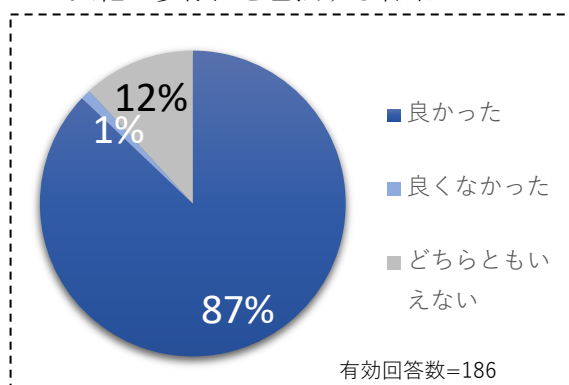
<全体>



<ボディパフォーマンスを中心とした演劇>



<文化の多様性を包摂する音楽>



※主なコメント抜粋

<良かったと思うこと>

No.	コメント	性別	年代	職業	居住地
1	みんながわかるダンスだったのが良かった	女	10代	小学生	鹿児島県 和泊町
2	島の音楽、楽器を使ってボディパーカッションで一体感がとても良かったです。	女	30代	自営業	鹿児島県 与論町
3	ボディーパーカッションをみんなでできて楽しかったです	女	30代	物販自営業	鹿児島県 与論町
4	初めてスティールパンに触りました。楽しかったです。	女	20代	看護師	埼玉県 さいたま市
5	楽器は年齢や母国語が異なっても楽しめるので、素敵企画だと思います！	女	30代	会社員	東京都 渋谷区
6	言葉がなくても音楽・ダンスで交流できて良かったです	女	30代	会社員	東京都 江戸川区
7	直接、他の国との交流ができてよかった	女	20代	会社員	埼玉県 吉川市
8	一緒に演奏できてとても良かったです。スティールパンの合同演奏が良かった。	男	30代	音楽家	兵庫県 神戸市
9	音楽をツールとして他国の人と交流を持てた	女	20代	学生	奈良県 奈良市
10	言葉が通じなくてもジェスチャーなどで和気あい	女	20代	大学生	奈良県 天理市

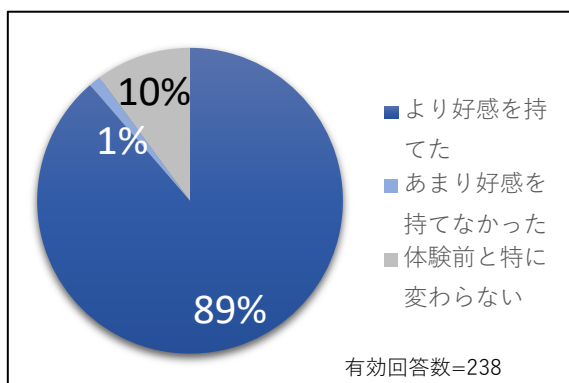
	あいに楽しめた				
11	言葉の要らない交流で素晴らしいと感じました	男	40代	会社役員	奈良県 奈良市
12	交流したおかげで知らないことも知れた	女	10代		奈良県 田原本町
13	体験したことのないことなので面白かった、もっと国のことが知りたい	女	30代	会社員	大阪府 守口市
14	地道な草の根交流が必要だが、トリニダード・トバゴの音楽関係者の訪日は、顔の見える交流となり良いと思う	女	40代	公務員	京都府

<改善して欲しいと思うこと>

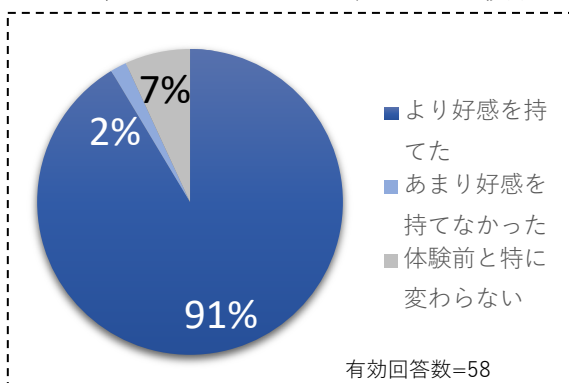
No.	コメント	性別	年代	職業	居住地
1	島の踊りを教えたかった	女	10代	小学生	鹿児島県 和泊町
2	子供が間近で接することが出来た事で親近感を持ちオリパラに対しても興味を持った事。相手の文化に興味を持ち英語で会話したいと思った	女	30代	保育士	鹿児島県 与論町
3	ホストタウンがわかりにくかった	男	20代		東京都
4	もっとみんなが知る機会がたくさんあるといいですね	女	30代	サービス	東京都 世田谷区
5	一過性のものになると勿体ないと思います	男	50代	自営業	愛知県 名古屋市

■交流プログラム体験後の中南米イメージについて

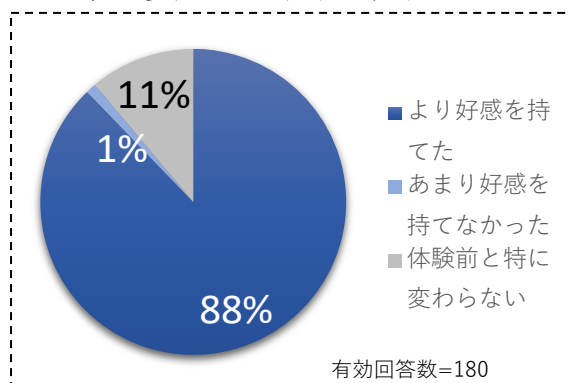
<全体>



<ボディパフォーマンスを中心とした演劇>



<文化の多様性を包摂する音楽>

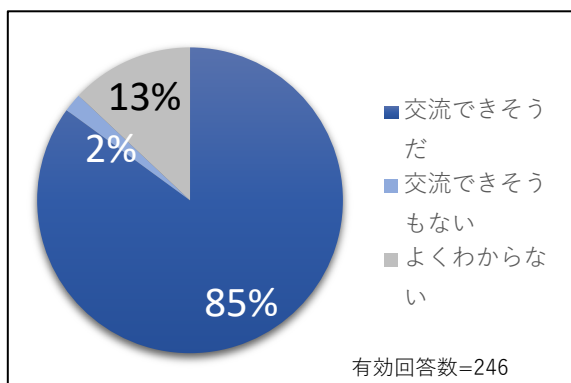


■中南米の国との交流で、やってみたいことなど

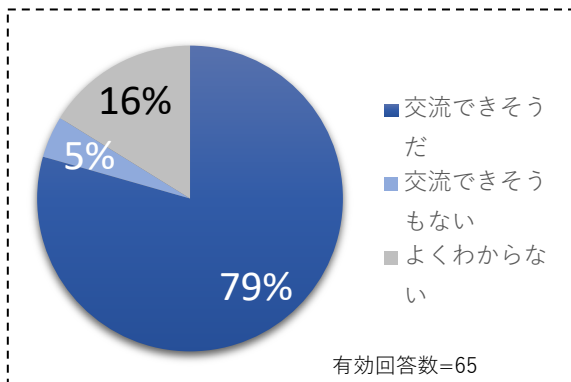
※主なコメント抜粋

No.	コメント	性別	年代	職業	居住地
1	スポーツを通じて交流	女	50 代	自営	鹿児島県 和泊町
2	サッカー、バレー	男	10 代	小学生	鹿児島県 与論町
3	中南米の楽器や踊りを一緒にやってみたい。教えて欲しい。	女	10 代	小学生	鹿児島県 和泊町
4	島の楽器を使って民謡に合わせて踊る	女	30 代	自営業	鹿児島県 与論町
5	エイサー体験&相手の国の芸能体験	女	30 代	観光業	鹿児島県 与論町
6	音楽やスポーツでの交流、中南米の音楽どんなものか生で聞いてみたい。	女	30 代	介護	鹿児島県 与論町
7	子供同士の交流、家族交流	女	40 代	公務員	鹿児島県 和泊町
8	むこうの文化で交流もしたいです	女	40 代	農業	鹿児島県 和泊町
9	ダンス・音楽と一緒に体験できるイベント	女	20 代	会社員	神奈川県 川崎市
10	ライブ、おどり、食べ物の体験	女	30 代	会社員	東京都 渋谷区
11	食の交流	女	50 代	会社員	東京都 新宿区
12	話をしてみたい	女	60 代		埼玉県 朝霞市
13	音楽やスポーツなど	女	10 代	学生	奈良県 奈良市
14	セッションとかしてみたら盛り上がりそうだなと思いました。(日本の楽器)	女	10 代	学生	奈良県 橿原市
15	やはり明るい音楽がとても盛り上がると思うので音楽イベントがいい	女	50 代	会社役員	奈良県 奈良市
16	合奏、一緒に踊ること	女	50 代		奈良県 奈良市
17	食、音楽など非言語のもの	男	20 代	会社員	大阪府
18	食の交流	女	60 代	無職	奈良県 田原本町
19	こうした音楽交流の後に一緒に日本料理を作って食べる。逆に向こうの料理も。	女	20 代	大学生	奈良県 奈良市
20	中南米の現地の話を聞いてみたい	女	20 代	カメラマン	大阪府 大阪市

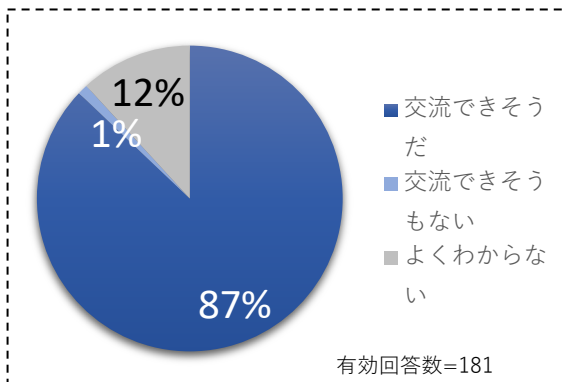
■地域の文化・伝統行事と中南米の文化との
コラボレーションについての印象＜全体＞



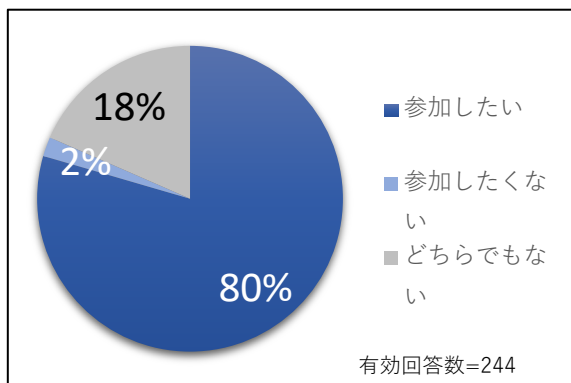
＜ボディパフォーマンスを中心とした演劇＞



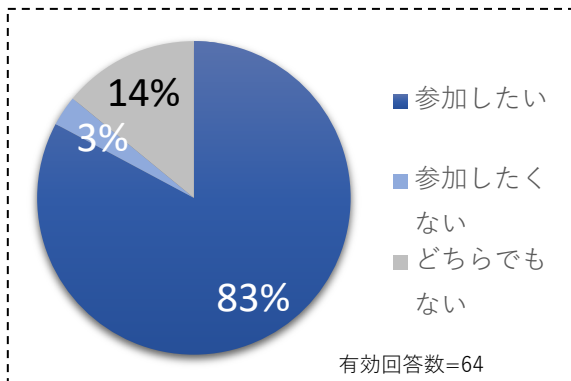
＜文化の多様性を包摂する音楽＞



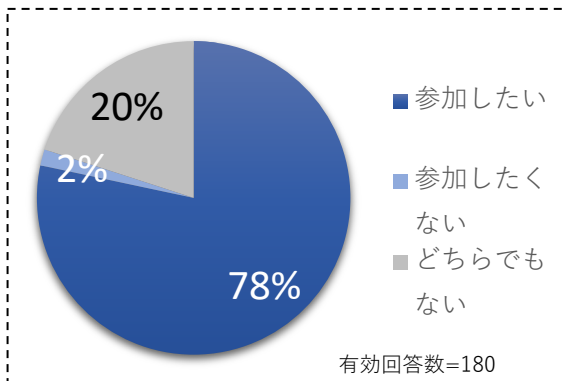
■地元のホストタウン交流行事への参加意向＜全体＞



＜ボディパフォーマンスを中心とした演劇＞



＜文化の多様性を包摂する音楽＞



※主な理由・抜粋

No.	コメント	性別	年代	職業	居住地
1	もっと交流をふかめたかった	男	10 代	小学生	鹿児島県 和泊町
2	交流してお互いを理解したい	女	30 代	保育教諭	鹿児島県 与論町
3	普段は接することのない地域の方々と友好関係を築けると思うから	女	20 代	会社員	鹿児島県 鹿児島市
4	他国の方と交流する機会はなかなかないので参加したい	女	30 代	物販自営業	鹿児島県 与論町
5	子供に異文化交流を体験させたい（自分もしたい）	女	30 代	保育士	鹿児島県 与論町
6	異文化交流することで、新しい発見があり、価値観が変わってくるから	女	50 代	役者	神奈川県 逗子市
7	ぜひ一緒に踊りたい	男	40 代	公務員	高知県 高知市
8	今回とても楽しかったから	女	10 代	学生	兵庫県 三田市
9	言葉が通じなくても同じものを共有できるというのが楽しかったから	女	10 代	学生	奈良県 奈良市
10	知らない文化をたくさん知れるから	女	10 代	学生	大阪府 大阪市
11	子供に世界のことを知って欲しい	女	40 代		奈良県 天理市
12	他の国の文化を学ぶ事は自分の価値観を変える機会になると思います	女	10 代	学生	奈良県 王寺町
13	世界観が広がるから	女	50 代	陶芸作家	京都府 京都市
14	知らない海外の人たちと交流してみたい	女	50 代	会社役員	奈良県 奈良市
15	自分にできることが思いつかない。	女	30 代	介護	鹿児島県 与論町
16	交流イベントによる	女	30 代	会社員	東京都
17	時間的に約束ができない	男	50 代		東京都 世田谷区
18	仕事が忙しい	男	60 代	会社員	千葉県 千葉市
19	そういう機会があるかわからない	女	20 代	大学生	奈良県 天理市

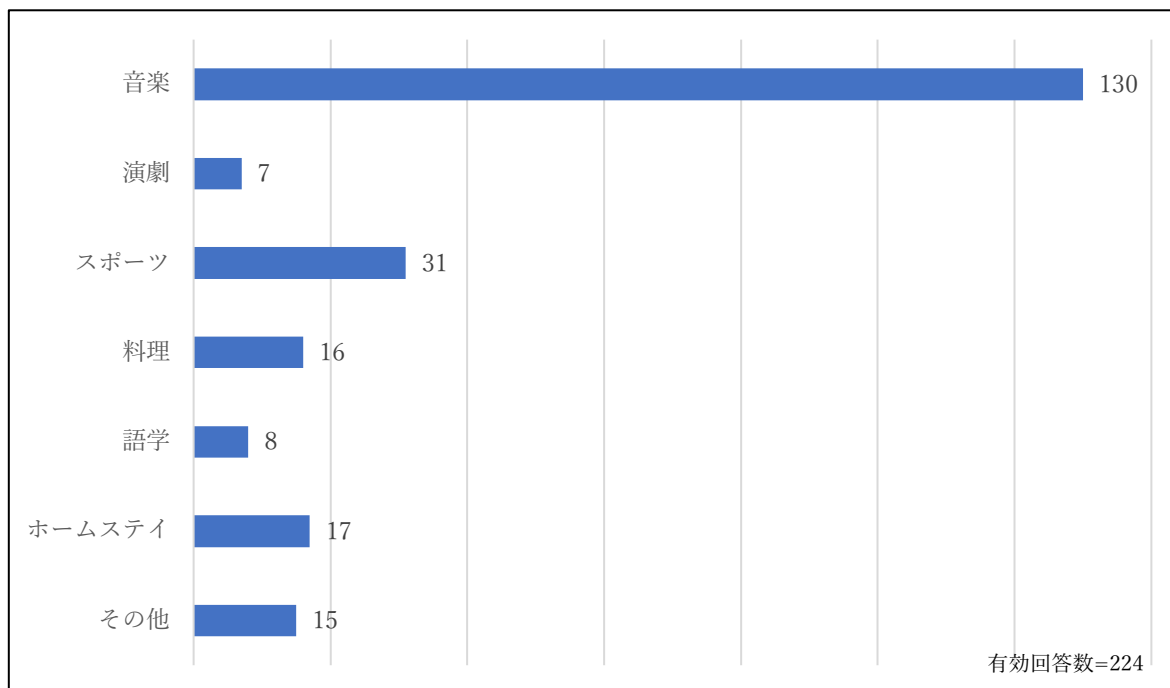
■希望する交流行事の参加スタイルについて

※主なコメント抜粋

No.	コメント	性別	年代	職業	居住地
1	今回のような形で	女	40 代	教諭	鹿児島県 知名町
2	文化交流、音楽交流	女	30 代	物販自営業	鹿児島県 与論町
3	スポーツ交流	女	50 代	自営	鹿児島県 和泊町
4	家族で参加、友達と参加	女	10 代	小学生	鹿児島県 和泊町
5	文化交流はもちろんですが、アテンドやイベントのスタッフなど、いろんな角度でのお手伝いをしてみたいです	女	50 代	役者	神奈川県 逗子市
6	相手国へも行ってみたい	女	20 代		東京都 杉並区

7	体験型のもの	男	30 代	会社員	埼玉県 川口市
8	お祭りだったらいってみようと思う	男	30 代	IT	東京都 板橋区
9	交流型、一緒に踊りたい	女	20 代	公務員	高知県 高知市
10	料理やダンス・音楽の文化交流	女	30 代	会社員	埼玉県 さいたま市
11	対話・ブレボン（文化交流）・食事会など	男	40 代	会社員	東京都 狛江市
12	異国文化に興味があるので実際にに関わり合えたら、と思う	女	40 代	主婦	東京都 渋谷区
13	裏方でお手伝い	女	50 代	OL	ガーナ
14	積極的にイベント企画・運営・参加をしたい	女	20 代	会社員	神奈川県 川崎市
15	今回のような音楽交流があればぜひ参加したいです	女	20 代	大学生	奈良県 奈良市
16	ワークショップ参加	男	50 代	自営業	愛知県 名古屋市
17	引き続き音楽で交流したい	女	10 代	学生	奈良県 奈良市
18	今回のように、一緒に何か 1 つのことができれば良いと思います	女	10 代	学生	奈良県 奈良市
19	自分の市町村の特徴を説明して、相手の文化を学ぶ	女	10 代	学生	奈良県 王寺町
20	通訳ボランティア	女	40 代	会社員	大阪府 大阪市
21	翻訳ボランティアとして参加、お手伝いさんとして参加。	女	10 代	高校生	奈良県 天理市
22	交流イベント運営のお手伝い	女	40 代	公務員	京都府
23	参加したいけどよくわからない	男	10 代	小学生	鹿児島県 和泊町
24	イベントがあれば参加したい	女	40 代	店員	兵庫県 尼崎市
25	仕事が忙しい	男	60 代	会社員	千葉県 千葉市

■希望する海外の国や地域との交流スタイル



2. 交流手法に対する評価と今後の課題

【交流手法に対する評価】

「ボディパフォーマンスを中心とした演劇」と「文化の多様性を包摂する音楽」という2つの交流スタイルのモデル事業を実施したが、総じて8割近くの参加者が好意的な印象・評価をし、否定的な印象・評価をした例はほとんど見受けられなかった。また、どちらも男女を問わず幅広い世代に支持され、言葉の壁を乗り越え参加可能な交流手法であると評価できた。

あえて比較すると、「文化の多様性を包摂する音楽」による交流スタイルの方が難しい技術を持たない者でも簡易に参加することができるという特性があり、「ボディパフォーマンスを中心とした演劇」による交流スタイルにおいては、より深いコミュニケーションが必要となるため、相手国への良好なイメージと理解をより高める効果があるといえる。

スーパーよさこい2019の観客からは、初日の踊りの中では、最もパッションのある魅力的な演目だったとの評価があるとともに、スティールパン×よさこいに参加した踊り手からも、来年もぜひ参加したいとの声が多く寄せられた。外国の祭り文化とのミックス交流は、多くの方々を刺激したプログラムであることを再認識した。

中米各国およびホストタウンがその存在を認識し、連携推進に対する理解が高まったことと、そのことにより、受け入れ側の自治体及び住民の心構えおよび受け入れられる側の体制に変化が生じたことは評価に値するものと考ええる。特に受け入れ側の効果として、市町村および小中学校とその父兄が一体となり推進事業に取り組む様子が顕著に表れ、特に子供たちの国際理解度が高まった切っ掛けとなるものと評価できる。

また一方で、受け入れられる側の中南米各国の参加者は、受け入れ側の準備に心を打たれると

共に、異国の地である日本でのオリパラおよび推進事業の日本の本気度に理解を深めていたようであった。言葉の壁を超え、互いの文化を共有できるコラボレーションを実現したことは、現場で実際に体験した者に国際文化交流の現場だけではなく、それぞれの参加者が自身の体験談として、その後の SNS や周囲への談話などを通じて、その熱気を伝えていくという効果もあった。

【交流手法に係る今後の課題】

「ボディパフォーマンスを中心とした演劇」については、地元の郷土芸能と相手国の音楽・文化などを紹介し合うなど、相互理解を進めるプログラムを追加しても良いのではないかと考える。

「文化の多様性を包摂する音楽」については、参加のためのハードルも低いので、もっと多くの人が参加できるように日程も含めて実施回数・場所等を増やしても良いのではないかと考える。

また、どちらの参加者においても「ホストタウン」についての認知・理解が十分とはいえない結果であったので、交流プログラムの実施にあたっては「ホストタウン」事業の概要を紹介する簡易ツールの配布、簡易なプレゼンテーション・説明の時間等を確保することなどが効果的であると考ええる。

「ホストタウン」についての認知・普及を図るためには、「ホストタウン」関連項目の露出を増やすとともに、交流事業等を実施する際に「ホストタウン」事業の概要を紹介する簡易ツールの配布、簡易なプレゼンテーション・説明の時間等を確保することなどが考えられる。なお、「ホストタウン」関連項目の露出を増やすためには、こうした交流プログラムの実施だけでなく、調印式や報告会、交流会など様々な機会を活かして記事化されるような「ホストタウン」関連事業を多発的に実施していくことが必要となる。特に、認知度の低い男性及び 10 代・20 代の若年層に向けては、直接・間接の接点を増やす取り組みが必要であり、小・中・高校等の教育機関と連携した取り組みや、職場や勤務先企業等を巻き込んだ施策などが有効なのではないかと考える。

「ホストタウン」の必要性や有用性への理解度を高めていくためには、より一層の交流プログラムを多面的かつ多層的に推進していくことによって体験者・経験者を増やし、その必要性や有用性を実感していただくことが有効であると考ええる。

さらに、今回交流事業を実施した沖永良部周辺の離島の場合、東京からの往復やその間の食事や荷物などロジ計画と運営が課題となる。中南米の人柄か、時間通りに動かない人がいるなかで、日程的に余裕がない移動は困難を極めると思慮され、予定通りにいかない場合のバックアップ体制を考えておく必要がある。

また、相手国との時差が 13 時間あるため、連絡や調整がタイムリーに行えないため、準備作業においては余裕を持たせた日程で進行させる必要がある。

【日本と中南米との間の持続可能な交流手法の在り方の検討】

今回、「ボディパフォーマンスを中心とした演劇」及び「文化の多様性を包摂する音楽」をモデル事業の交流スタイルとして実施したが、どちらも言葉の壁を乗り越えて幅広い世代が参加可能な交流手法であることは概ね確認できた。どちらの参加者も好意的な印象を持ち、さらに相手国への興味を持ったり相互理解を求めたり、より進んだ国際交流への関心を示している例も見受けられた。

日本と中南米との間の持続可能な交流を進めていくためには、誰でもが参加しやすい「ボディパフォーマンスを中心とした演劇」や「文化の多様性を包摂する音楽」、スポーツやダンスなども

含め言葉の壁を乗り越えやすい交流手法をきっかけに、より深いコミュニケーションを必要とする演劇や語学交流、料理（食）、ホームステイなどの共同作業を伴う交流スタイルによって継続的にステップアップしていくことが望ましいと考える。

【その他、雑感】

2020年オリンピック・パラリンピック東京大会を契機とした「ホストタウン」という取り組みの中で、各自治体関係者や生活者がホストタウン相手国の選手・関係者と交流を持つ際に、言葉の壁というハードルを乗り越えるツールが2つ試され、老若男女を問わず幅広い参加者から概ね想像以上の結果を得ることができた。「演劇（ボディーパフォーマンス）」と「音楽」である。今回調査対象となった参加者は、参加・体験後の感想として「良かった・楽しかった」という回答をしており、さらに相手国に対して「より好感を持てた」という印象を抱いている。

今後は、今回の経験を元に更に進んだ交流ツールの開発によって相互理解を深めていく一方、スポーツや料理等をテーマに言葉の壁を乗り越えるための交流手法のバリエーションを開発し、本大会までの期間、及び本大会終了後も交流プログラムの継続がなされていくことが望ましい。

なお、「ホストタウン」の認知度、必要性・有用性への理解度については、こうした交流事業の実施を通じて獲得できるものでもあるので、認知獲得のための施策などはさほど重視しなくてもよいのではないかと考える。

第4章. 他ホストタウンへの普及・展開に向けた提案

1. 事業実施経費

今回の調査事業において、「ボディパフォーマンスを中心とした演劇」と「文化の多様性を包摂する音楽」という2つの交流手法が、世代や性別を問わず、言葉が通じなくとも容易に交流を深められる手法として有効であることを確認できた。

また、それぞれの交流手法を通じて、相手国への好意的な印象を持ち、さらに相手国への興味・関心を持ったり、より深い相互理解を求めたり、さらに進んだ国際交流への関心を誘導するという効果も認められた。

実施経費については、事業計画に基づき交流事業のための旅費や運営費、調査費等を計上し適正に精査・処理を行った。それぞれの交流手法の指導者・運営者、在日中南米諸国出身者やJICA等でカリブ地域に派遣されていた方を始めたとした幅広いステークホルダーと自治体関係者等が精力的に事業実施を行ったことから、限られた費用の中で事業を実施することができた。

今後、ホストタウンが相手国との交流事業を継続していくなかで、中長期的には「事前合宿の誘致」、「認知度向上による観光振興」、「地域産業の技術提供によるマネタイズ」などが期待される。

これらの効果をあげるためには、今回の「ボディパフォーマンスを中心とした演劇」と「文化の多様性を包摂する音楽」やスポーツやダンス等のように、誰でもが参加しやすい交流手法を含めた交流事業を実施し、指導的な役割を担う人材やコミュニケーションを取り持つ通訳等、幅広いステークホルダーの協力を仰ぎつつ、交流事業に対して期待する効果を設定するとともに事業計画や事業の評価・測定指標を策定しPDCAサイクルを回し、事業を継続的に改善することが重要である。

2. 事業実施体制・フロー

老若男女幅広い世代が有機的に交流を行うためには、言葉が通じなくとも容易に交流を深められる手法を見出し、持続可能でかつ幅の広い交流を実現していくことが必要である。

ホストタウンの取組を、両国間の文化、社会、経済の発展につなげる持続可能な交流へと結びつけていくためには、在日中南米諸国出身者や JICA 等でカリブ地域に派遣されていた方を始めたとした幅広いステークホルダーを掘り起こし、それら人的資源を最大限活用することが必要である。さらに、その人的資源に加え、ホストタウンの市民交流のハブ的な役割を担うであろう文化関係に携わる方々が有機的にホストタウンの取組に参加し、その輪を草の根的に広げていくことが必要であり、既存の伝統行事や野外イベントなどを活用するなどして、オリパラやホストタウンに関心のない層を巻き込むことが必要である。

また、円滑に事業を推進するために、現在多くのホストタウン内で不足している「相手国の言語を通訳できる人材」を確保する必要がある。相手国の言語を通訳できる人材は、基本的にはアスリートに随行する者であり、相手国の言語に堪能な人、もしくは他の共通言語で会話ができる人（英会話能力のある人等）、在日中南米諸国出身者や JICA 等でカリブ地域に派遣されていた方などが望ましい。

さらに、ホストタウン交流事業を計画・実施する際には、往復の交通や食事、荷物のケアなど、時間通りに動かないことを想定して、日程的に余裕を持たせた計画の立案と、予定通りにいかない場合のバックアップ体制を準備しておくことが肝要である。

加えて、所有施設に限られる小規模自治体が効果的に交流事業を進めていくためには、複数の自治体が連携して互いの良さを補完した取組を行うことが望ましい。

事業の精算項目は多岐にわたり、また外国企業等とのやり取りや海外での精算も多いことから会計管理のできる人材として適切な指導及び会計管理ができる専門知識を有する人材が内部に確保できる、またはそのための体制が組めることが望ましい。この人材を確保することで事業がもたらす効果を費用対効果の面から評価し、次の事業の企画に反映することが可能になる。

—以上—